

書全育藏信

157
195

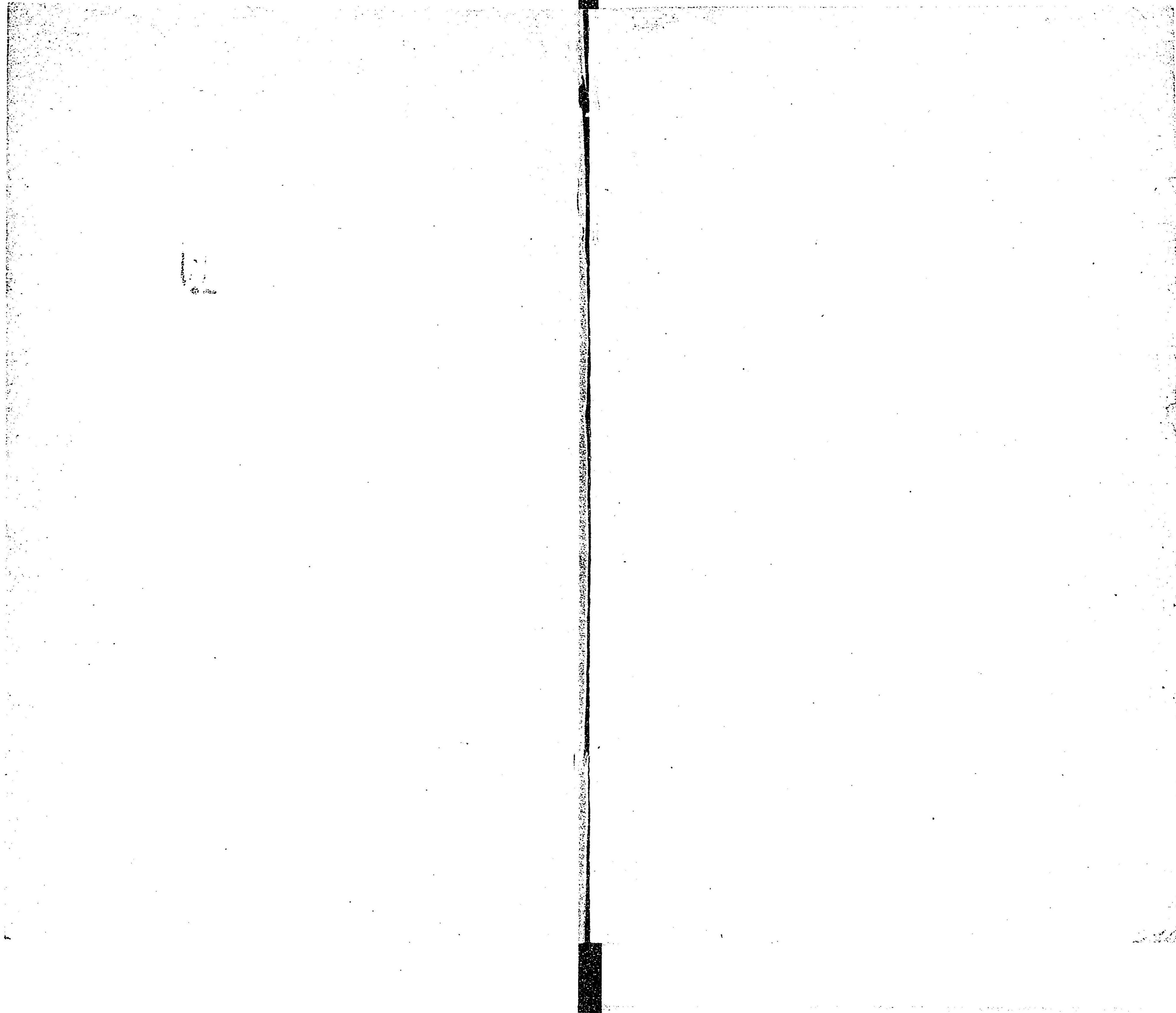
編貳拾五第

支那歴史下題全

内山正如編述



館文博京東

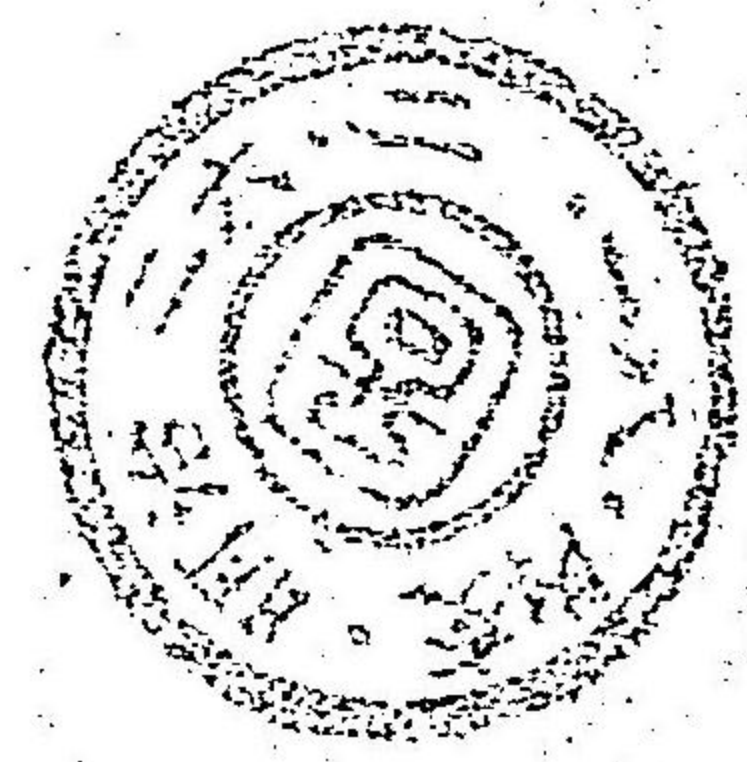


特20
193

愛
驗
問
答
支
那
歷
史
一
千
題
全

內山正如編纂

東京博文館藏版



受驗問答 支那歴史二千題目次

第壹編

上古史太古ヨリ秦始皇ノ一統ニイタル……………七十八題

第貳編

中古史秦始皇一統ヨリ三國ノ分烈ニイタル……………百〇五題

第三編

近古史三國分烈ヨリ唐ノ滅亡ニイタル……………百〇一題

第四編

近世史 唐ノ滅亡ヨリ……………五十八題

第五編

今世史 清國勃興ヨリ……………二十題

以上

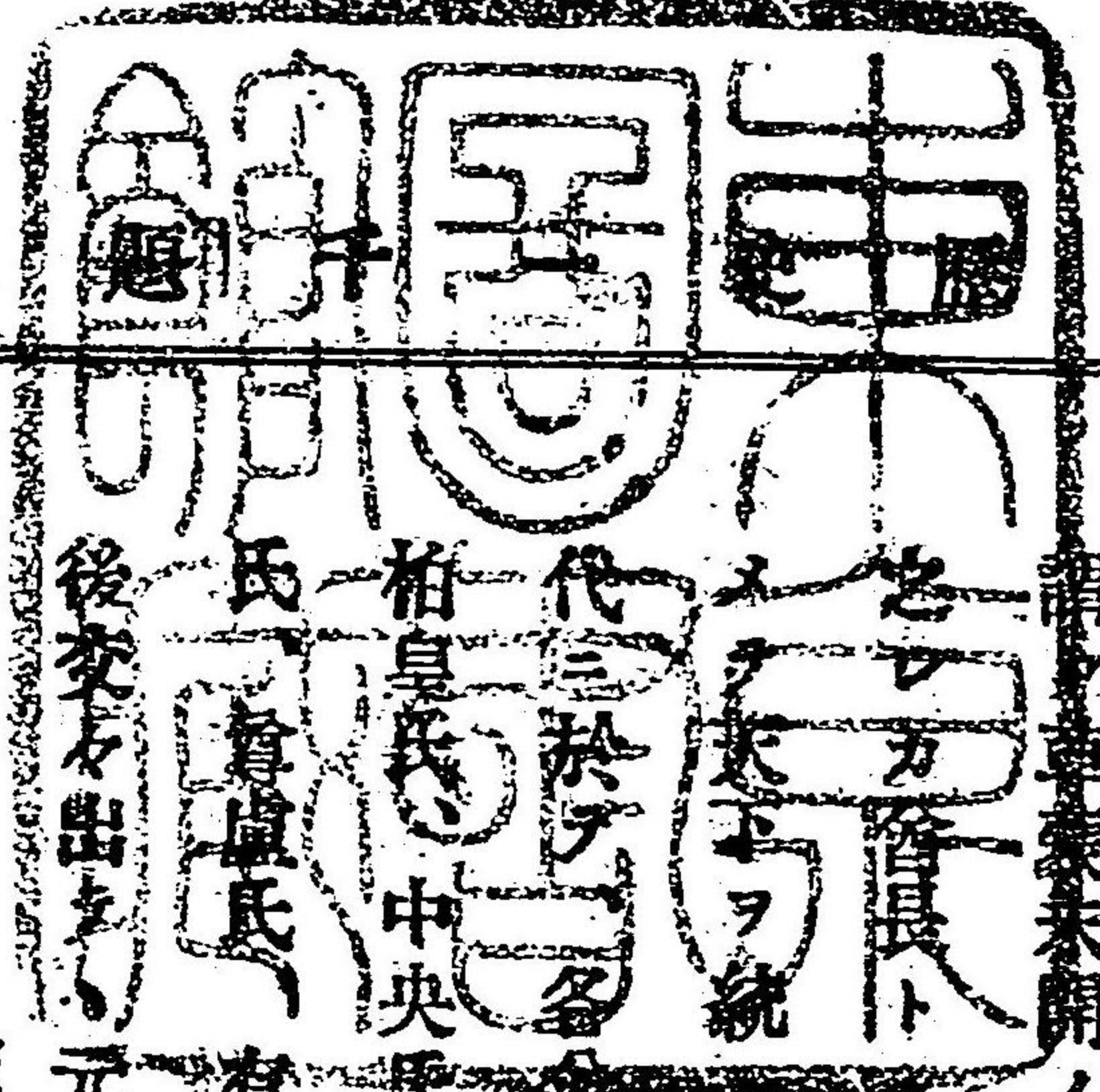
目次

支那歴史一千題

内山正如編次

第一編 上古史

(一) 太古ノ有様及三皇トハ如何



謂、車乘未開ノ世ニ在リテハ、人民水草ヲ逐テ各處ニ散在シ、其中稍々勇智アルモノ、

之ヲ方酋長トアリテ、其部曲ヲ制シ、各酋長中、マタ德望アリ、武畧アルモノ起テ、始

メテ天下ヲ統スルニ至ルハ、國ノ何レヲ論セス、概シテ同軌一轍ニ出ツ、支那太古時

代ニ於テ、各酋長ノ位格相下ラサルモノ、伏羲氏、女媧氏、共工氏、朱襄氏、太庭氏、

柏皇氏、中央氏、熒人氏、吳英氏、凡遼氏、葛天氏、史皇氏、歷陸氏、驪連氏、赫胥

氏、有巢氏、祝融氏、陰康氏、神農氏、無懷氏、軒轅氏、等ノ諸氏族アリ、前

後交々出テ、元首ノ位置ヲ占メ、全國ヲ統治セシモノ、如シ、而シテ太古ノコト、素ヨ

リ遡焉トシテ釋ヘカラスト雖モ、禪讓ノ際、毎ニ著シキ戰鬥ノ跡ナキヲ見レハ、専ラ德

望アルモノ、諸氏族ノ推薦ヲ得テ、其地位ヲ占メ、未タ必スシモ兵力ヲ以テ、互ニ相攘

奪スルカ如キハアラサリシナルヘシ、其兵力ヲ用弁テ天下ヲ統一セシモノハ、惟リ黃帝

軒轅氏アノミ、此時代ニ於テ、德望最モ高シ、後世ニ頌ハル、者ヲ、太昊伏羲氏、炎帝神農氏、黃帝軒轅氏トス、之ヲ三皇ト云フ、

(一) 伏羲氏ノ代開化ノ程度如何

謂ク伏羲氏位ニ即テ、陳今ノ河南ニ都シ、共工氏ヲ上相トシ、柏皇氏ヲ下相トス、朱襄氏ニ命シテ書契ヲ作ラシメ、以テ結繩ノ政太古文字有ラサルノ代大事ニハ大繩ヲ結ヒニ代フ家畜ヲ養フテ、以テ神祇ヲ祭ルノ犧牲ニ供シ、又食料ニ充ツ網罟ヲ作リテ佃漁ヲ教ハ、琴瑟ヲ造リテ殺氣ヲ和ゲ、嫁娶ノ禮ヲ制シテ、以テ姓氏ヲ正セリ、

(二) 神農氏時代ノ進化如何

神農氏、伏羲氏ニ繼テ位ニ即キ、都ヲ曲阜山東省兗州ニ遷ス五穀ノ種ヲ擇ヒ、耒耜ヲ製シ、地ノ宜シキヲ相テ、民ヲ耕種スルコトヲ教ユ、又日中ニ市ヲ爲シ、民ヲシテ貨ヲ聚メ交易ヲ爲サシム、又嘗テ民ノ夭折ヲ憂ヘ、百草ヲ嘗メ、醫藥ヲ製シテ之ヲ救ヘリ、

(三) 黃帝ノ事跡ヲ問フ

黃帝姓ハ公孫(後姬姓ニ改ム)名ハ軒轅、有熊河南新鄭縣國君少典ノ子ナリ、神農氏ノ世衰ヘ、諸侯相侵伐スルニ方リ、始メテ兵ヲ用井テ不享ヲ征シ、尋テ炎帝ト阪泉ノ野ニ戰フテ之ニ克チ、其餘孽盡光ト涿鹿ノ野ニ戰フテ之ヲ擒ニス、是ニ於テ天下ノ諸侯翕然トシテ軒轅ニ歸シ、其疆域東ハ海ニ抵リ西ハ空桐ニ至リ、南ハ揚子江ニ抵リ、北ハ釜山ニ至ル、茲ニ於テ黃帝大ニ支那帝國ノ基ヲ開キ、遂ニ帝位ニ即キ、涿鹿直隸省涿州ニ都ス、

黃帝ノ事跡ヲ問フ

(四) 黃帝ノ共相及ヒ兩史官ヲ問フ

黃帝風后ヲ相ト爲シ、力牧ヲ將ト爲ス、并ニ泰山、稽、常先、大鴻ヲ舉ケテ、政事ニ參與セシム、之ヲ六相ト云フ、又蒼頡ヲ左史ト爲シ、沮誦ヲ右史ト爲ス、左史ハ事ヲ記シ、右史ハ言ヲ記ス、之ヲ兩史官ト云フ、

(五) 文字ノ原始及ヒ文字ノ六義如何

謂ク左史蒼頡、鳥獸ノ跡ヲ見テ、類ニ體シ、形ニ象トリ、始メテ文字ヲ製スト云フ、其文字ニ六義アリ、曰ク象形、曰ク假借、曰ク指事、曰ク會意、曰ク轉注、曰ク諧聲、是ナリ象形ノ文字トハ、日月山川草木如キ是ナリ、假借ノ文字トハ、令長ノ類、一字ニテ兩用スルモノ是レナリ、指事ノ文字トハ、人ノ一ノ上ニ在ルヲ上トシ、一ノ下ニ在ルヲ下ト爲スノ類是レナリ、會意ノ文字トハ、人ヲ言ヲ信ト爲シ、戈ヲ止ムルヲ試ト爲スノ類是レナリ、轉注ノ文字トハ、老考ノ如キ、左右相注クモノ是レナリ、諧聲ノ文字トハ、江河ノ如キ、水ニ從ヒ工可ヲ以テ聲ト爲スモノ是レナリ、

(六) 黃帝ノ製セシ衣服如何

黃帝自カラ着クル所ノ服ハ、玄衣黃裳ナリ、玄ハ天ニ象トリ、黃ハ地ニ象トル、又禽羽ノ美、草木ノ麗ヲ見テ、五采ヲ染メ、以テ貴賤ノ服制ヲ定メタリ、

(八) 黃帝ノ時學術工藝ノ發明如何

謂ク學術ニハ鬼叟、藍星ヲ占ヒ、闔苞日月星辰ノ象ヲ正シ、義和日ヲ占ヒ、尙義月ヲ占ヒ、車區風ヲ占フテ、天文學大ニ開ケ、大撓甲子ヲ作り、支干相配スルコト六回、六十年ヲ以テ天道一周スト爲ス、是ニ於テ容成ノ渾天儀及ヒ調曆ノ發明アリ、岐伯ハ内經內科ヲ著ハシ、俞跗、雷公等ハ息脈診察ノ術ヲ究メ、巫彭桐君ハ藥餌ノ調劑ヲ發明セリ、工藝ニハ貨幣ノ鑄造アリ、弓矢、鼓吹、鏡角、靈輶、神鉦、旗麾等ノ武器ノ製作アリ、杵臼、釜甑舟車等ノ發明、亦皆此時ニ成レリ。

(九) 黃帝ノ音樂ハ如何

謂ク伶倫ニ命シテ、嶰谷ノ竹ヲ取り、十二律ノ笛ヲ製セシメ、以テ六律六呂ヲ生ス。六律ハ黃鍾、太簇、姑洗、蕤賓、夷則、無射、コレヲ陽聲トス。六呂ハ大呂、夾鍾、仲呂、林鍾、南呂、應鍾コレヲ陰聲トス。笛ノ十二管ハ、十二月ニ象トル、月ノ陰陽ニ從テ、長短各々同シカラス、每管充テルニ黍粒ヲ以テ吹ケハ自然ノ音調アリ、又榮獲ニ命シテ、十二鐘ヲ鑄セシメ、第ニ協ヒテ以テ五音(宮商角徵羽)ヲ和ス、十二鐘ハ十二律ニ應スルナリ、大容、雲門大卷ノ樂ヲ作ル、命シテ臧池ト云フ、當時冠婚葬祭、皆此樂器ヲ使用セリ

(一〇) 五帝禪讓ノ次第如何

謂ク黃帝崩シテ、其子少昊顓頊兄弟(一説顓頊ハ昌意ノ子ニシテ黃帝ノ孫ナリト)相及シ、而シテ之ヲ少昊ノ子帝嚳(一説少昊ノ孫)ニ傳フ、帝嚳之ヲ其子堯ニ讓リ、堯之ヲ顓頊六世ノ孫、舜ニ讓ル。後世之ヲ五帝ト云フ、

(一一) 堯舜ノ治績ヲ問フ

謂ク堯ハ帝嚳ノ子ナリ、人ト爲リ聖明神武、即位ノ初メ首トシテ義和氏ニ命シ、曆象ヲ作りテ民ニ授ク、自ラ持スルコト儉素ニシ宮室ヲ卑フシ、土階三等茹茨剪ラス、管テ微服シテ四方ニ巡遊シ、親シク民間ノ事情ヲ視察シ、心常ニ百姓ト喜戚ヲ俱ニスルヲ以テ任ト爲ス、一民飢レハ、我コレヲ飢スト曰ヒ、一民寒レハ、我コレヲ寒スト曰ヒ、一民辜ニ罹レハ、我コレヲ陷ルト云フ、天下ヲ治ムルコト五十年百姓業ヲ樂ミ、康衢太平ヲ詔フ。

舜ハ瞽瞍ノ子、顓頊六世ノ孫ナリ、克ク父母ニ事ヘテ孝道ヲ盡シ、善ヲ以テ自ラ治ム。

管テ歷山ニ耕ス、民皆畔ヲ讓ル、雷澤ニ漁ス、人皆居ヲ讓ル、舜居ル所聚ヲ成シ、二年

ニ邑ヲ成シ、三年ニ都ヲ成ス、堯其德ヲ聞キ、擧ケテ政ヲ攝セシメ、遂ニ位ヲ禪ル。舜
 政ヲ攝スルノ初メ、首トシテ禹、益、棄、契等ノ諸賢、及ヒ高陽氏ノ八才子、高辛氏ノ八
 才子ヲ登用シ、驩兜、共工、三苗、鯀ノ四凶ヲ放竄ス。位ニ即クニ及テ、誹謗ノ
 木ヲ立テ、以テ民ニ政治ノ愆ヲ書ルサシム、是ヲ以テ四海ノ内、皆舜ノ功ヲ戴カサル
 ハナシ。晩年禹ニ命シテ政ヲ攝セシメ、遂ニ位ヲ禪ル、後世儒家、堯舜ノ治ヲ贊シテ百
 代帝王ノ模範トセリ。

(三) 禹ノ事跡ヲ問フ

謂ク禹名ハ文命、鯀ノ子、顓頊ノ孫ナリ。堯ノ時、洪水橫流シテ天下ニ汎濫ス。鯀之ヲ防キ
 テ成ラス、誅セラル。舜禹ヲ擧ケテ鯀ニ代ハラシム、禹父ノ功ナクシテ誅セラル、ヲ傷
 ミ、乃チ身ヲ勞シ、思ヲ焦カシ、外ニ居ルコト十三年、家門ヲ過クレトモ敢テ入ラス、
 陸行ニハ車ニ乗シ、水行ニハ船ニ乗シ、泥行ニハ楫ニ乗シ、山行ニハ杖ニ乗シ、九州ヲ
 開キ九道ヲ通シ、九澤ニ陂シ、九山ヲ度リ、粉骨齏身シテ、遂ニ成功ヲ告ク。舜其功ヲ
 嘉ミシ、禹ヲシテ百官ヲ率テ、天下ノ事ヲ攝行セシム。舜崩シ、禹位ニ即ク。夏后氏四
 百七十有余年、君位世襲ノ基ヲ創メリ。

(三) 夏ノ治績如何

謂ク禹既ニ天子トナリ、外ニ出テ、罪人ヲ見ル毎ニ、乃チ車ヨリ下リ、泣テ問テ曰ク、
 堯舜ノ民ハ堯舜ノ心ヲ以テ心ト爲ス、寡人君ト爲テ百姓各々其心ヲ以テ心ト爲ス、寡人
 之ヲ痛ムト。是ヲ以テ萬民深ク其德ニ懷ク、後伯益ヲ擧テ之ニ位ヲ讓ル、而シテ諸侯朝
 觀スルモノ、益ニ之カスジテ、禹ノ子啓ニ之ク。曰ク吾君ノ子ナリト。是ニ於テ啓遂ニ
 立テ、禹ノ道ヲ修ム、之ヲ支那君位世襲ノ始トス。啓崩シテ子太康立ツ、盤遊シテ返ラ
 ス、有窮ノ后羿、其弟仲康ヲ立、テ政ヲ專ラニス。仲康崩シテ子ノ相立ツ、羿相ヲ逐ツ
 テ自立ス、嬖臣寒泥マタ羿ヲ殺シテ自立ス、相ノ子少康、田一成十里衆一旅五百人アリ。夏ノ
 舊臣靡ニ因テ兵ヲ擧ケ、遂ニ寒泥ヲ滅シテ、禹ノ績ニ復ス。少康ヨリ七世ヲ經テ。孔甲
 ニ至リ、鬼神ヲ好ミ、淫亂ヲ事トス、是ヨリ夏ノ德漸ク衰ヘ。其立孫履癸、立テ殘虐荒
 淫奢侈ヲ究メ、殺戮ヲ恣ニス。國人怨望シ、諸侯叛キ、遂ニ湯ノ滅ス所トナル。夏后氏
 十七世、凡ソ四百七十八年ナリ。

(四) 成湯ノ事跡ヲ問フ

謂ク成湯名ハ履、帝嚳ノ子、契ノ十四世ノ孫ナリ。契唐虞ノ代ニ司徒ト爲リ、商ニ封セ
 ラレ、姓ヲ子ト賜フ。湯ニ至リ、夏ノ桀王、妖婦妹喜ヲ寵シ、暴虐奢侈日ニ甚シク、諫
 官龍逢諫メテ殺サル。是ニ於テ湯莘人伊尹ヲ擧ケテ桀ニ進ム。尹五タヒ諫メテ用弁ラレ

ス、去テ湯ニ歸ス。湯乃チ尹ヲ相トシ、葛ヲ伐チ、昆吾ヲ滅ホシ。十一征シテ全國ノ諸侯殆シト湯ニ歸ス。師ヲ進メテ桀ト鳴條ニ戰ヘ、大ニ夏ノ師ヲ敗リテ、桀ヲ南巢ニ放チ、遂ニ位ニ亳ニ即ク。即位ノ初メ大旱スルコト七年、百姓大ニ困ム。湯桑林ノ野ニ出テ、雨ヲ禱リ、祝シテ曰ク、予一人ノ不敏ヲ以テ、萬民ノ命ヲ傷フコトナカレ。其自カラ責ムル六事ニ曰ク、政節ナラサルカ、民職ヲ失フカ、宮室崇キカ、女謁盛ナルカ、苞苴行ハル、カ、讒夫昌ナルカト、言未ダ已マサルニ、大ニ雨フルコト方數千里ナリシト云フ。

(二五) 殷ノ治亂興亡ヲ問フ

成湯ヨリ四世、大甲立テ不附ナリ、湯ノ典型ヲ轉覆ス。伊尹之ヲ桐宮ニ放チ、憂ニ居ラシムルコト三年、過チテ悔エ、仁ニ處リ、義ニ遷ル、伊尹乃チ奉シテ復タ亳ニ歸ラシム、大甲ヨリ六世太成ニ至リ、伊尹ノ子伊陟ヲ用テ相ト爲シ、大ニ成湯ノ政ヲ修ム、遠方重譯シテ來朝スルモノ七十六國ニ及ブ、號シテ中宗ト云フ。後九世ヲ經テ陽甲ニ至リ、宗室互ニ立ツコトヲ争ヒテ内亂止マス、諸侯朝覲セサルモノアリ、盤庚立テ都ヲ殷ニ遷シ、國號ヲ殷ト改メ、大ニ成湯ノ政ヲ修メテ殷道復タ興ル、盤庚ヨリ三世武丁ニ至リ、傳説ヲ得テ相ト爲シ、鬼方ヲ伐テ之ヲ滅ホシ、内外患オク、殷道復タ興ル、號シテ高宗ト後フ。後五世武乙立テ無道ナリ、諸侯殷ニ畔クモノ多シ、其曾孫ヲ紂ト云フ、妲己ヲ寵シテ奢侈度ナク、賦稅ヲ厚クシ、刑辟ヲ酷ニス。九侯諫メテ醢ニセラレ、鄂侯諫メテ脯ニセラレ、西伯昌之ヲ聞テ竊カニ歎ス、崇侯譖シテ曰ク、西伯叛セント欲スト、乃チ囚テ羑里ニ繫ク、終ニ昌ノ子發ノ滅ホス所トナル。殷天子ト爲ルコト三十一世、凡ソ六百二十九年ナリ。

(二六) 文王ノ傳ヲ記セ

文王名ハ昌、帝嚳ノ子、棄(后稷)ノ十五世ノ孫ナリ。棄唐虞夏ノ代ニ農師トナリ、地ノ宜キヲ相テ、民ニ稼穡ヲ教フ。夏氏ノ政衰フルニ及テ、其子孫官ヲ失ヒ、民間ニ在テ尙ホ父祖ノ業ヲ繼ク、後世古公亶父ニ至リ、岐山ノ下ニ邑ス。幽人其人ト爲リテ慕ヒ、老ヲ扶ケ、幼ヲ携ヒ、以テ從フ、傍國風ヲ望テ皆之ニ歸ス。古公公季ヲ生ミ、公季昌ヲ生ム。昌人ト爲リ龍顏虎胸、老ヲ敬シ賢ニ下ル、孤竹ノ君二子、伯夷叔齊及ヒ大顛、閔天、散宜生、鬻子、辛甲大夫ノ徒、皆往テ昌ニ歸ス。嘗テ野ニ行キ、枯骨ヲ見テ衷ニ命シテ之ヲ埋メシム。吏曰ク、コレ主ナキナリ。昌曰ク、天下ヲ有ツモノハ天下ノ主ニシテ、一國ヲ有ツモノハ一國ノ主ナリ。吾ハ即チ其主ナリト、棺衾ヲ以テ之ヲ葬ル。天下ノ人之ヲ聞テ曰ク、西伯ノ澤ハ枯骨ニ及ヘリ、况ンヤ人ニ於テオヤト。漢水ヨリ以南昌ニ歸ス

殷ノ四十國、皆以テ受命ノ君ト爲ス。天下ヲ三分シテ其二ヲ有テリ、崇侯虎、西伯昌ノ威名ヲ惡ミ、之ヲ紂ニ讒ス。紂昌ヲ捕ヘテ爰里ニ繫ク、閔天散宜生等紂ニ美人ヲ進メ、以テ昌ノ罪ヲ償ヤスト乞フ。紂悦テ之ヲ許シ、昌ニ賜フニ弓矢鉄鉞ヲ以テシ、征伐ノ權ヲ專ラニセシム。昌乃チ犬戎ヲ伐チ、密須ヲ伐チ、崇ヲ伐チ、耆ヲ伐チ、亦タ犬ニ武威ヲ輝カセリ。是ヨリ先キ、呂尙ヲ渭水ノ上リニ得テ相ト爲シ、内政ヲ修ム、時ニ紂王位ニ在リト雖モ、西伯ノ恩威已ニ海内ニ加ハリテ、後來武王ノ創業ハ、全ク此時ニ基ヒセリ。

(二七) 武王ノ統一ヲ記セ

武王名ハ發、文王ノ子ナリ。文王卒シテ父ノ職位ヲ繼キ、豊ニ居ル、時ニ黎侯ノ邑地、王畿ニ近フシテ王命ヲ奉セス、而シテ紂方サニ意ヲ聲色ニ極メテ、之ヲ治ムルコト能ハカルナリ。發乃チ兵ヲ出シテ黎ヲ伐チ、大ニ其軍ヲ破ル。殷人聞テ震駭ス、祖尹恐レ、奔テ紂ニ告ク。紂曰ク。我生ハ命ノ天ニ在ルニアラスヤト、愈々淫亂ヲ恣ニス、梅伯諫争シテ、醢ニセラレ。雷開諛言ヲ進メテ、夏ノ田ヲ賜フ、是ニ於テ發師ヲ引テ孟津ニ至リ、兵威ヲ示ス。諸侯期セスシテ會スルモノ八百。皆曰ク、紂伐ツヘシト、發聽カスシテ引テ還ル、而シテ紂更ニ峻ムルコトナシ、發遂ニ意ヲ決シテ紂ヲ伐チ、牧野ニ會戰ス。

殷ノ師敗績シテ、紂鹿臺ニ登リ、寶玉ヲ身ニ着ケ、火ニ投シテ死ス。發乃チ鹿臺ノ財ヲ散シ、鉞橋ノ粟ヲ發シ、以テ大ニ貧弱ヲ振ハシ、馬ヲ華山ニ縱チ、牛ヲ桃林ニ放チ、戈ヲ偃セ、旒ヲ釋キ、以テ復タ用非サルヲ示シ。豊ニ還テ位ニ印キ、國ヲ周ト號ス。

(二八) 殷ノ三仁トハ如何并ニ其爲ス所ヲ問フ

謂ク比干、箕子、微子コレヲ殷ノ三仁ト云フ、比干箕子ハ共ニ紂ノ諸父王子微子ハ紂ノ庶兄ナリ。三人紂ヲ極諫ス。紂怒テ曰ク、比干自カラ以爲テク聖人ト、吾聞ク聖人ノ心ニ七竅アリト、遂ニ剖テ之ヲ視ル、箕子懼レテ髮ヲ被リ、佯リ狂シテ奴トナル。紂之ヲ囚ス。微子其祭器ヲ抱テ周ニ奔リ、以テ宗祀ヲ存ス。後世春秋ノ宋國ハ微子ノ後ナリ。後箕子周ニ朝ス、故ノ殷ノ墟ヲ過テ、宮室ノ空シク毀壞セシヲ傷ミ、麥秀之歌ヲ作テ曰ク。麥秀ヲ漸漸タリ兮。禾黍油油タリ兮。彼ノ校童兮。不ト與レ我好ト兮ト、殷ノ民コレヲ聞テ皆涕ヲ流セリ。武王箕子ニ訪ヒ問フニ天道ヲ以テス、箕子洪範ヲ以テ之ヲ陳ス。洪範ハ禹ノ叙ル所、箕子推衍增益シテ篇ヲ成スモノナリ。乃チ箕子ヲ朝鮮ニ封シテ、敢テ臣事セシメサリシト云フ。

(二九) 管叔蔡叔ノ亂トハ如何

謂ク初メ武王殷ヲ滅ホシ、紂カ子祿父ヲ立テ、殷ノ後ト爲シ、以テ殷民ヲ綏撫セシメ、

弟管叔蔡叔ヲ遣ハシテ、之ヲ監督シ、以テ不虞ノ備ト爲ス。武王崩スルニ及テ、子ノ誦立ツ、尙ホ幼冲ナリ、叔父周公天下ノ畔カンコトヲ恐レテ、誦ヲ相ケ、作ヲ踐ミ、南面シテ國ニ當ル。祿父コレヲ機トシテ、舊業ヲ復セント欲シ、管叔蔡叔亦々周公ノ威望ヲ嫉ミ、遂ニ共ニ謀テ、天下ニ流言シテ曰ク、周公將サニ孺子ニ不利アラントスト、一時賊勢頗ル熾ンナリ、周公東征スルコト三年、祿父管叔ヲ誅シ、蔡叔ヲ放チ、悉ク平治シ、テ政ヲ誦ニ歸シ、北面シテ臣位ニ就ク。誦ハ即チ成王ナリ。

(二〇) 成王東西兩都ヲ置キシ所以如何

謂ク武王初メ都ヲ鄩邑ノ東二十五里ニ定ム、之ヲ宗周ト謂ヒ、西都ト爲ス。更ニ洛邑ニ營マントシ、未ダ果サスシテ崩ス。蓋シ洛邑ハ天下ノ中央ニ當リ、四方入貢ノ道均シケレハナリ。成王遂ニ武王ノ志ヲ繼キ、召公周公ニ命シテ、王城ヲ洛邑ニ築カシメ、之ヲ東都ト爲ス。而シテ王ハ西都ニ居リ、諸侯ヲ東都ニ朝會セシム、召公、周公、成王ヲ相ケテ左右ノ人ト爲リ、召公ハ陝ヨリ以西ヲ主トリ、周公ハ陝ヨリ以東ヲ主トレリ。

(二一) 成王弟叔虞ヲ晋ニ封セシ所以ヲ問フ

謂ク成王、弟叔虞ト燕居シ、戲レニ桐葉ヲ剪テ圭ヲ爲リ、叔虞ニ與ヘテ曰ク、余コレヲ以テ汝ヲ封セント、叔虞喜ンテ周公ニ告ク、周公入テ賀ス、成王曰ク余一ニ虞ト戯ムル

トノ事ト、周公曰ク臣聞ク天子ニ戲言ナシト、言フコトハ史コレヲ書シ、工コレヲ誦シ、士コレヲ稱ス、是ニ於テ遂ニ叔虞ヲ晋ニ封セリ。後世唐ノ柳子厚コレカ辨ヲ作り、妄リニ信スヘカラスト爲ス。而シテ史記晋世家ニ記ス所ハ。入テ賀スル者ヲ史佚ト爲ス、未タ孰レカ是ナルヲ知ラス。

(二二) 伯夷叔齊ノ傳ヲ問フ

謂ク伯夷、姓ハ墨、名ハ允、字ハ公信、諡シテ夷ト云フ、叔齊名ハ智、字ハ公達、諡シテ齊ト云フ、孤竹ノ君ノ二子ナリ、殷衰ヘ紂暴虐ナリ、而伯昌善ク老ヲ養フト聞キ、往テ之ニ歸ス。文王卒シ、武王立テ、紂ヲ伐ントス、夷齊馬ヲ叩テ諫メテ曰ク、父死シテ葬ラス、爰ニ干戈ニ及ブ、孝ト謂フベケンヤ。臣ヲ以テ君ヲ弑ス、仁ト謂フ可ンヤ。ト左右ノ人ノ殺サント欲ス。呂尙曰ク、義士ナリト、扶ケテ之ヲ去ラシム。既ニシテ武王殷ヲ克チ、天子ト爲ルニ及テ、夷齊周ノ祿ヲ食ムヲ耻チ、首陽山ニ隱レテ薇ヲ采テ之ヲ食ヒ身ヲ終フルマテ、周ニ朝セス。其歌ニ曰ク、登ニ彼ノ西山ニ兮。采ニ其薇ニ兮。以テ暴ヲ易レ暴ニ兮。不レ知ニ其非ニ兮。神農虞夏忽焉沒シ兮。我安ニシカ適歸ニ兮。矣^カ于嗟^カ徂兮。命之衰^カ矣^カ。

(二三) 周公ノ傳ヲ問フ

謂ク周公名曰旦、文王ノ子、武王ノ弟ナリ。天資篤敬、才識アリテ藝能群倫ニ卓越ス。武王天下ヲ統一シテヨリ、崩スルニ至ルマテ、僅カニ七年、天下ノ事、未タ意ヲ盡ス能ハサルモノアリ、其疾ニ罹ルヤ、周公乃チ齋戒シテ、自カラ質ト爲リ、祝シテ三后太王、王季、文王ニ告ケ、身ヲ以テ代ランコトヲ求ム。祝辭ニ曰ク、惟爾爾、爾之孫某。遭厲虐厲虐疾疾。爾爾王有有不不子子之責之責于天于天。以以且且代代某某之身之身。ト武王崩シテ成王尙ホ幼ナリ、周公王ヲ相ケテ朝ニ臨ミ、政ヲ攝ス、是ニ於テ、周公ノ兄管叔、及ヒ弟蔡叔霍叔等、其威望ヲ嫉ミテ、周公孺子ニ不利アラントスト流言ス、王亦タ疑ヒナキ能ハス、周公遂ニ位ヲ避ケテ東ニ居ル、年ヲ逾ヘテ王金縢ノ櫃ヲ發ラキ、周公三后ニ告ル祝又ヲ見テ感泣シ、郊ニ出テ、公ヲ迎フ、周公乃チ管叔等ヲ伐テ之ヲ平ケ、政ヲ王ニ歸ヘス。王周公ヲ魯ニ封ス、周公家子伯禽ヲシテ、代テ封ニ就カシメ、之ヲ戒メテ曰ク、我一沐ニ三タヒ髮ヲ捉リ、一飯ニ三タヒ哺ヲ吐キ、起テ以テ士ヲ待ツ、猶ホ天下ノ賢人ヲ失ハンコトヲ恐ル、慎テ國ヲ以テ人ニ驕ルコトナカレト。而シテ身ヲ終フルマテ君側ヲ去ラス。周室ヲシテ泰山ノ安キニ置ケリ。

(二四) 召公ノ德望ヲ問フ

召公名ハ爽、周公ト共ニ成王ヲ相ケテ西方ヲ治メ、甚タ民ノ和ヲ得タリ、鄉邑ヲ巡行ス

ル毎ニ、棠樹ノ下ニ聽斷ス。率タルノ後、人其政ヲ思フテ、棠樹ヲ代ルニ忍ヒス、甘棠之詩ヲ作テ曰ク。蔽芾甘棠。勿剪勿剪。勿伐勿伐。召伯召伯所所茇茇。

(二五) 周ノ最モ太平時代ヲ問フ

謂ク周初成王康王ノ際、道隆ニ德盛ニシテ、天下安寧、刑錯テ用非サルコト四十年。コレヲ周ノ最モ太平時代ト爲ス。

(二六) 周室始メテ衰ヘシ時代ヲ問フ

武王ヨリ四世、昭王立テ周ノ德漸ク衰ヘ、南征シテ漢水ヲ渡ル、船人王ニ進ムルニ膠舟ヲ以テス、航シテ中流ニ至レハ、膠液ケ舟解ケテ王遂ニ溺ルト云フ。

(二七) 穆王呂刑ヲ作リシ所以ヲ問フ

穆王ハ昭王ノ子ナリ、遠遊ヲ好ム。造父ト云フ者アリ、御ヲ善クスルヲ以テ王ニ幸セラレ、八駿馬ヲ得テ四方ニ遊行シ、天下到ル所車轍馬跡アラサルナシ、是ヲ以テ財力漸ク空乏シ、復タ計ヲ爲ス能ハサルニ至ル、乃チ呂侯ニ命シテ贖刑ノ書ヲ作り、大辟ト雖モ其贖免ヲ許ルシ、民財ヲ斂メテ、以テ嗜好ノ慾ヲ濟セシト云フ。

(二八) 荒服周ニ畔クニ至リシ原因如何

謂ク穆王遠遊ヲ事トシテ、國事ヲ治メス、紀綱大ニ弛ブ、徐侯コレニ乘シテ偃王ト僭號

シ、亂ヲ作コス。楚ヲシテ之ヲ伐タシム、徐敗績ス、是ニ於テカメテ武威ヲ示サント欲シ、自カラ將トシテ犬戎ヲ征セントス。祭公謀父諫メテ曰ク、先王德ヲ輝カシテ、兵ヲ觀サスト、王聽カスシテ之ヲ征シ、白狼白鹿各々四頭ヲ得テ歸ル。是ヨリ荒服至ラス漸ク犬戎周ヲ慢ルノ禍ヲ招ケリ。

(二九) 周ニ共和政治ヲ行ヘシコトアリ何王ノ時ナルヤ

謂ク穆王ヨリ六世、厲王胡立テ暴虐無道ナリ。召公召公奭告ケテ曰ク、民命ニ堪ヘスト、王怒リ衛ノ巫ヲシテ謗者ヲ監セシメ、告クレハ則チ之ヲ殺ス。國人敢テ言フコトナク、道路目ヲ以テス。王喜テ召公ニ告ケテ曰ク、吾能ク謗ヲ弭ムト、召公曰ク是レ之ヲ障クナリ、民ノ口ヲ防クハ川ヲ防クヨリモ甚シ、川壅ツテ潰ヒハ、人ヲ傷フコト必ス多カラシ、民モ亦タ此ノ如シト。王聽カス。國人乃チ相與ニ畔テ厲王ヲ襲フ。王疑ニ出奔ス。是ニ於テ二相周公周公旦召公共ニ國事ヲ理メ、共和政體ヲ形造ルモノ十四年ナリ。而シテ王ハ疑ニ崩ス。

(三〇) 宣王ノ中興トハ如何

謂ク厲王疑ニ崩シテ、子宣王靜立ツ、賢明ナリ。文武成康ノ遺風ヲ修メテ賢士ヲ招キ、召公虎、方叔、尹吉甫、仲山甫等ノ諸賢アリ。初メ厲王政ヲ失シヨリ以來、四夷屢々入テ邊境ヲ侵ス是ニ至テ召公出テ、淮夷ヲ平ゲ、方叔ハ南荆蠻ヲ征シ、尹吉甫ハ北方戎狄ヲ伐チ、仲山甫ハ内ニ在リテ以テ衰職ヲ補ヒ、王化復タ行ハレ、周室中興ス。

(三一) 犬戎ノ亂ヲ問フ

宣王ノ子、幽王立テ暗愚ナリ。嘗テ褒人罪アリ、女ヲ納レ以テ贖ハント請フ。王喜テ之ヲ許ス乃チ褒嬖タリ。王之ヲ愛シテ申后及ヒ太子宜臼ヲ廢シ、褒嬖ヲ以テ后ト爲シ、其生子伯服ヲ以テ太子ト爲ス。褒嬖笑ヲ好マス、王其笑ヲ欲シテ萬方スレトモ更ニ笑フナシ。王嘗テ諸侯ト約シ、寇ノ至ルコトアレハ、則チ烽火ヲ舉ゲテ其兵ヲ召シ來リ援ハシム、一日故無クシテ烽火ヲ舉ク、諸侯悉ク兵ヲ引テ來ル、而シテ寇ナシ、褒嬖大ニ笑フ。後申后ノ父、申侯、王ヲ怨テ犬戎ト入寇ス、王ヲ攻ム。王烽火ヲ舉クルコト數次スレトモ諸侯來リ援フモノナシ。遂ニ王ヲ驪山ノ下ニ弑シ、盡ク周ノ貨賂ヲ奪フテ去ル。武王ヨリ幽王ニ至ル十二世、凡ソ三百四十五年ナリ、之ヲ西周ト爲ス。

(三二) 東周トハ如何

謂ク周ニ東西兩國都アリ。西ヲ鎬京ト云ヒ、武王ノ定ムル所。東ヲ洛邑ト云ヒ成王ノ置キシ所ナリ。周室累代西都ヲ以テ常居ノ地ト爲シ、東都ヲ諸侯參觀ノ地ト爲ス。幽王ノ子平王立テ先代ノ難ニ懲リ、西都ヲ犬戎ニ接近スルヲ恤ヘテ、遂ニ常居ヲ東都ニ定ム。

之ヲ東周ト爲ス。是ヨリ周室益々微弱ニシテ、政權ハ移テ牙伯ニ在リ、天子ハ只其空位ヲ有ツノミ。平王ヨリ傳フルコト二十五世、赧王延ニ至リテ秦ニ降リ、悉ク其邑ヲ獻ス。周天子ト爲ルコト三十七世。凡テ八百六十七年ナリ。

(三三) 春秋戰國トハ如何

謂ク周ノ夷王立テ四方ノ朝禮明カナラス。王始メテ堂ヨリ下リテ諸侯ヲ見ル、是ニ於テ楚先ツ僭號シテ王ト稱ス、コレヲ諸侯僭號ノ始メトス。而シテ天子制スルコト能ハサルナリ。爾來王權分レテ列國ニ移リ、諸侯各々起テ雄ヲ爭ヒ、強ハ弱ヲ凌キ、大ハ小ヲ併セ群雄割據ノ暗世トナル。周ノ平王ノ四十九年ハ、即チ魯ノ隱公ノ元年ニシテ、齊楚晉秦始メテ大ナリ。是ヨリ以後ヲ支那史家ノ所謂春秋ノ世ト爲ス。其列國中、周ト同姓ナル者ヲ魯、衛、晉、鄭、曹、蔡、燕、吳、ト曰ヒ。其周ト異姓ナル者ヲ齊、宋、陳、楚、秦、ト曰フ。此レ其大ナルモノニシテ、其餘ノ小國勝テ數フヘカラス。周ノ威烈王以後ヲ戰國ノ世ト爲ス。則チ互ヒニ相攻滅シテ秦、楚、燕、趙、韓、魏、齊、ノ七大國ノミ、而シテ秦、楚、燕、ヲ春秋ノ舊國トシ。田、齊、趙、韓、魏ヲ戰國ノ新國トス。周ノ平王四十九年ヨリ、秦ノ始皇ノ統一ニ至ルマテ、春秋戰國ノ世ト稱スルモノ、其間大約五百有余年ナリ。

(三四) 五覇トハ誰々ヲ云フヤ

謂ク齊ノ桓公、宋ノ襄公、晉ノ文公、秦ノ穆公、楚ノ莊王、コレヲ五覇ト稱ス。

(三五) 齊ノ桓公ノ霸業ヲ問フ

謂ク桓公名ハ小白、其兄襄公無道ナリ、群弟禍ノ及ハンコトヲ恐レテ、子糾ハ魯ニ奔リ、管仲コレニ傳タリ。小白ハ莒ニ奔リ、鮑叔コレニ傳タリ。後襄公弟無知ノ爲メニ弑セラレ、無知亦タ人ニ殺サル、是ニ於テ齊人小白ヲ莒ヨリ召ス、而シテ魯モ亦タ兵ヲ發シテ糾ヲ送ル。管仲莒ノ道ヲ遮リ、小白ヲ射テ帶鉤ニ中ツ。小白佯リ死シ、先ツ齊ニ入テ、高僕ノ爲メニ立テラル、是ヲ桓公ト爲ス。傳ノ鮑叔、管仲ト貧時ノ交アリ、能ク其賢ヲ知リ之ヲ桓公ニ薦ム。桓公怨ミヲ置テ、仲ヲ用井、諸侯ヲ九合シ、天下ヲ一匡ス。皆仲カ謀ニ由ル、桓公管テ魯ヲ伐チ、其遂邑ヲ取テ和ヲ議ス。後魯ト柯ニ會ス。魯ノ將曹沫ヒ首ヲ以テ桓公ヲ壇上ニ刎カシ、魯ノ侵地ヲ歸ヘサシム。桓公其威ニ恐レテ之ヲ許ス。歸後之ヲ悔イ、魯ニ地ヲ與ヘス、曹沫ヲ殺サント欲ス。管仲諫メテ曰ク、信ヲ諸侯ニ棄テ、天下ノ援ヲ失ハ、不可ナリト。桓公之ヲ納レ、遂ニ地ヲ魯ニ歸ヘス。諸侯コレヨリ齊ヲ信シ皆桓公ニ附ント欲ス。後諸侯ヲ甄ニ會シ、始メテ天下ニ覇タリト云フ。五覇ノ業桓公ヲ以テ最モ盛ナリト爲ス。

(三六) 宋ノ襄公ノ事跡ヲ問フ

宋ノ襄公名ハ茲、父商紂ノ遺子啓ノ後ナリ。齊ノ桓公卒シテ、五公子各黨ヲ樹テ、立ツヲ争ヒ相攻ム。襄公齊ヲ伐チ、孝公ヲ立テ、還ル。嘗テ諸侯ニ覇タラント欲シ、楚ト泓ニ戰フ。公子目夷曰ク、彼ハ衆ク我ハ寡シ、請フ其未タ陣セサルニ及テ之ヲ擊ダント。襄公曰ク、君子ハ人ヲ阨ニ困メスト、遂ニ楚ノ爲メニ敗ラル。世笑テ宋襄ノ仁ト爲ス。支那ノ史家、襄公ヲ齊桓、晋文、秦穆、楚莊ト並ヒ稱シテ、五覇ト爲スト雖モ、未タ覇業ヲ成サスシテ斃レシナリ。

(三七) 晋ノ文公ノ覇業ヲ問フ

晋ノ文公名ハ重耳、獻公ノ子ナリ。獻公驪姫ヲ愛シテ、其子奚生ヲ立ント欲シ、太子申生ヲ殺シ、次子重耳ヲ甫ニ伐ツ。重耳狄ニ奔ル、母ノ國ナリ、居ルコト十二年、齊ニ至ル。桓公妻ハスニ其女ヲ以テス、後楚ニ之キ、秦ニ之ク、秦ノ穆公兵ヲ發シ、送テ晋ニ歸シ之ヲ立ツ。是ヨリ先キ、周ノ襄王狄后ヲ廢ス、狄人怒テ來リ犯ス、王鄭ニ奔ル、狄人乃チ玉ノ第叔帶ヲ立ツ。是ニ於テ王難ヲ諸侯ニ告ク、文公兵ヲ發シ、王ヲ周ニ歸シ、叔帶ヲ誅ス。王乃チ文公ニ瑤弓矢ヲ賜ヒ、覇ト爲ス。晋天下ニ覇タルトト百余年ナリ。

(三八) 秦ノ穆公ノ覇業ヲ問フ

謂ク周ノ幽王、犬戎ニ逼ラル。秦ノ襄公、之ヲ救フテ功ナリ。岐西ノ地ヲ賜ヒ、諸侯ニ封セラル。穆公ハ其八世ノ孫ナリ。英邁ニシテ士ヲ愛ス。嘗テ百里奚ヲ擧ゲテ相ト爲シ、又奚進ムル所ノ蹇叔ヲ用弁テ、上大夫ト爲ス。後百里奚ノ子孟明、及ヒ西乞、白乙ヲシテ鄭ヲ伐タシム。秦ノ軍滑ニ及フ、滑ハ晋ノ邊邑ナリ。晋ノ襄公怒テ兵ヲ遣リ、大ニ秦軍ヲ敗テ、三將ヲ虜ニス。晋ノ文公、襄公ノ夫人ハ秦ノ女ナリ。襄公ニ謂テ曰ク。秦三將ヲ得テ、之ヲ戮セント欲スト。是ニ於テ孟明等遁ル、コトヲ得タリ。穆公益々孟明等ヲ用弁、更ニ兵ニ將トシテ、晋ヲ伐タシム。孟明等河ヲ渡リ、舟ヲ燒テ必死ヲ示シ、遂ニ晋ノ王官及ヒ郊ノ兩地ヲ取テ、前日ノ怨ミヲ報ユ。穆公又由余ノ謀ヲ用テ、戎ヲ伐チ國ヲ益スコト十二、地ヲ開クコト千里、遂ニ西戎ニ覇タリ。周ノ襄王賜フニ金鼓ヲ以テシ、命シテ西方諸侯ノ覇ト爲セリ。

(三九) 楚ノ莊王ノ事跡ヲ問フ

楚ノ成王、初メ宋ノ襄公ト覇ヲ争ヒ、後晋ノ文公ト城濮ニ戰フ。穆王ヲ歴テ莊王ニ至ル、位ニ即テ三年令ヲ出サス、日夜宴樂ヲ事トス。乃チ國中ニ令シテ曰ク、敢テ諫ムルモノハ誅セント。伍舉諷シテ曰ク、烏アリ阜ニ在リ、三年飛ハス鳴カス、是レ何ノ鳥ゾ。王曰ク、三年飛ハス、飛ハ、將ニ天ヲ衝カントス、三年鳴カス、鳴カハ將ニ人ヲ驚カサシ

トスト。蘇從モ亦タ入テ諫ム。王大ニ悟リ、是ヨリ政ヲ勤メ、伍舉蘇從ヲ用テ政ヲ任シ、又孫叔敖ヲ得テ相ト爲ス。庸ヲ滅ホシ、宋ヲ伐チ陸渾ヲ攻メ、舒ヲ滅ホシ、陳ヲ攻メ、鄭ヲ伐チ、大ニ武威ヲ輝カシテ、遂ニ諸侯ニ霸タリ。

(四〇) 吳越ノ興亡ヲ記セ

謂ク吳ハ用ノ文王ノ諸父大伯仲雍ノ後ナリ。十九世ニシテ壽夢ニ至ル、始メテ王ト稱ス。四世ノ孫、闔廬、楚ノ亡臣伍員ヲ用テ、國事ヲ謀ラシム。員字ハ子胥、伍奢ノ子ナリ、闔廬ニ勸メテ越ヲ伐タシム。闔廬戰ヒ敗レ傷ツキ死ス、子ノ夫差立テ亦タ子胥ヲ用フ、夫差讎ヲ復セント欲シ、朝夕薪中ニ臥シ、出入人ニ呼ハシメテ曰ク、夫差汝越王ノ汝カ父ヲ殺セルヲ忘レタルカト。周ノ敬王三十六年、夫差大舉シテ越軍ヲ夫椒ニ敗ル。越王勾踐殘兵ヲ以テ會稽山ニ棲ム。乃チ身ヲ屈シ、請フテ曰ク、我夫妻敢臣妾ト爲ラント子胥以テ不可ト爲ス。太宰伯嚭越ノ賄賂ヲ受ケ、夫差ニ説テ勾踐ヲ國ニ返ス。勾踐乃チ膽ヲ坐臥ニ懸ケ、仰テ之ヲ嘗メテ曰ク、汝會稽ノ耻ヲ忘レタルカト。國政ヲ舉ケテ大夫程ニ屬シ、范蠡ト兵ヲ治メテ吳ヲ謀ルコトヲ事トス。時ニ夫差志驕リ氣盈チテ、宴樂ニ流レ、太宰伯嚭議ヲ信シテ、伍子胥ヲ殺ス。周ノ元王四年、越大ニ兵ヲ發シテ、吳ヲ伐ツ、三戰三勝シテ夫差ヲ姑蘇ニ樓マシム。夫差降ヲ請フ、范蠡以テ不可ト爲ス、遂ニ吳ヲ滅ス。而シテ越ハ淮水ヲ渡リテ、諸侯ト除州ニ會シ、貢ヲ周ニ致シテ、江淮ノ間ニタルヲ得タリ。

(四一) 范蠡ノ傳ヲ問フ

范蠡ハ楚人ナリ。越王勾踐ヲ相ケテ、吳ヲ滅ホス。嘗テ吳越ノ興亡ヲ論シテ曰ク、會稽ノ事、天越ヲ以テ吳ニ賜フ。吳取ラス今天吳ヲ以テ越ニ賜フ。吳ノ驕ルヲ見ナ豈天ニ逆フヘケンヤ。且ツ天與ヲ取ラスンハ、反テ其咎ヲ受ント。既ニ吳ヲ滅ホシ、其輕寶珠玉ヲ身ニ着ケ、海ニ浮テ齊ニ出テ、海濱ニ力耕シテ、富數千萬ニ至ル、齊人其賢ヲ聞キ、以テ相ト爲ス。蠡歎シテ曰ク、家ニ居テハ千金ヲ致シ、官ニ居テハ卿相ヲ致ス。此レ布衣ノ極ナリ、久シク尊名ヲ受クルハ不祥ナリトテ、乃チ相印ヲ歸シ、盡ク其財ヲ散シ、重寶ヲ懷ロニシテ間行シ、陶ニ止マリテ、自ラ陶朱公ト稱シ、耕畜シテ又貲鉅萬ヲ致シ、富王侯ニ比スルニ至ル。嘗テ越ヲ去ルトキ、大夫種ニ與ヘテ曰ク、越王人ト爲リ長頸烏喙、患難ヲ共ニス可ク、安樂ヲ共ニス可カラス。子何ソ去ラサルト、大夫種果シテ讒ニ遇ヒテ死セリ。

(四二) 晉ノ文公介之推ヲ綿上山ニ封セシ次第ヲ記セ

謂ク晉ノ文公驪姫ノ讒ニ遇ヒ、難ヲ避ケテ諸國ニ流寓スルコト十九年狐偃、趙衰、顛頤、

魏擊、介之推、コレニ從フテ、共ニ備テ、艱苦ヲ嘗ム。嘗テ曹子綏ニ、之推自カラ股ヲ割テ、
 文公ニ食ハシム。文公國ニ歸ルニ及テ、重ク狐偃等四人ヲ賞シ、而シテ獨リ之推ニ及ハ
 ス。之推ノ從者書ヲ宮門ニ懸ケテ曰ク、有レ龍矯矯、頃ク失フ其所。五蛇從レ之。周ニ流
 天下。龍饑ヘテ食ニ。一蛇割レ股ヲ。龍返リ於淵ニ。安ニ其壤土ヲ。四蛇入レ穴ニ。皆有リ處處。一
 蛇無レ穴。號フ子中野ニト。文公之ヲ悔イ、人ヲシテ之ヲ求メシムレトモ得ス、綿上ノ山中
 ニ隱ルト聞キ、其山ヲ燒ク、之ヲ推燒死ス、後人ノカ爲メニ寒食ス。文公乃チ綿上ノ田ヲ
 環シテ之ヲ封ス、號シテ分山ト云フ。

(四) 支那史家ノ所謂趙盾其君夷臯ヲ弑ストハ其理由如何

晋ノ文公ノ孫靈公、名ハ夷臯、不君ナリ。大夫趙盾、數々諫ム公之ヲ患ヘ、鉏麇ニ命シ、
 之ヲ刺シム。麇晨ニ往ケハ、盾ノ晨門既ニ開ケ、盛服シテ將ニ朝セントシ、尙ホ卑
 キヲ以テ座シテ假寐スルヲ見ル。麇退テ歎シテ曰ク、恭敬ヲ忘レサルハ民ノ主ナリ、忠
 臣ヲ殺スト、君命ヲ棄ルトハ、等シク罪アリ、乃チ樹ニ觸レテ死ス。公マダ盾ニ酒ヲ飲
 マシメ、甲ヲ伏セテ之ヲ攻ム。右提彌明、盾ヲ扶ケテ堂ヲ下リ、且ツ鬪ヒ且ツ出テ明コ
 レニ死ス。此自靈輒ナル者、甲兵中ニ在リ、戟ヲ倒ニシテ公ノ徒ヲ禦キ、盾ヲ扶ケテ遁
 レ去リシム。盾遂ニ奔テ未ダ晉ノ境ヲ出テサルニ、盾ノ從父兄弟ノ子趙穿、靈公ヲ桃園

中ニ殺シ、盾ヲ迎フ。是ニ於テ太史董狐書シテ曰ク、趙盾其君夷臯ヲ弑スト。盾曰ク弑
 スル者ハ趙穿ニシテ、盾ハ罪無シト。太史曰ク、子正卿ト爲テ亡レトモ、境ヲ越ヘス返レト
 モ、賊ヲ討タズ子ニ非スシテ誰ソヤト。後世孔子曰ク、董狐ハ古ノ良史ナリ、法ヲ書シテ隱
 サス。又曰ク、趙宣子趙盾ハ古ノ良大夫ナリ、法ノ爲メニ惡ヲ受ク、惜イカナ境ヲ越ヘ
 ハ乃チ免ント。

(四) 鄭ノ子産ノ治ヲ問フ

子産名ハ僑、鄭ノ成公ノ少子ナリ。人ト爲リ仁ニシテ、君ニ事フルコト忠ナリ。鄭ノ聲公
 ノ相トナリテ、政ヲ行ヒ、都鄙尊卑ノ服ヲ制シテ、公卿大夫相踰ヘサラシメ、封疆ヲ畫
 シ、溝洫ヲ穿チテ、境域相侵サ、ラシメ、廬舍ハ九天ヲ井ト爲シテ、産ヲ相保チ相治メ
 シム、鄭ハ晋楚ニ強國ノ間ニ介立スル一小國ナリ。是ヲ以テ、穆公襄公以來、歲トシテ兵
 ヲ被ムラサルハナク、晋ニ服スレハ楚之ヲ伐チ、楚ニ服スレハ晋之ヲ伐ツ、聲公ニ至リ、
 子産之ヲ受クルニ禮ヲ以テシテ自ラ固クス、晋楚ノ暴ト雖モ、之ニ加フルコト能ハス、
 國家靜寧ナルコト數十年、子産卒シテ國人皆哭シ、之ヲ悲ムコト父母ヲ失フカ如シ。孔子
 嘗テ鄭ニ至レハ、子産ト亦清兄弟ノ如シ、其死ヲ聞キ泣テ曰ク、古ノ遺愛ナリト。

(五) 吳楚ノ戰爭ニ秦ノ哀公楚ヲ救ヒシ所以如何

謂ク楚ノ平王、其臣伍奢ヲ殺ス。其子伍員、吳ニ奔ル、去ル時友ノ申包胥ニ謂テ曰ク、我必ス楚ヲ覆ヘサント、包胥曰ク、我必ス楚ヲ存セント、員遂ニ吳ヲ導イテ大ニ楚ノ軍ヲ破リ、平王ノ尸ヲ鞭ツコト三百、照隨ニ奔ル、包胥秦ニ走テ急ヲ告ク、秦許サス、包胥秦ノ庭ニ立テ晝夜哭スルコト七日七夜、其聲ヲ絶タス、衰品公之ヲ憐テ曰ク、楚ニ臣アルコト是ノ如シ、存スルコトナカルヘケンヤト、乃チ兵ヲ遣シテ楚ヲ救フ。

(四六) 魯ノ三桓トハ何ソ

謂ク魯ハ周公ノ子、伯禽ノ封セラレシ所ニシテ、伯禽ヨリ十三世ヲ隱公ト云フ、之ヲ春秋ノ始ト爲ス隱公ノ弟ヲ桓公ト云ヒ、桓公ノ子ヲ莊公ト云フ。莊公庶弟三人アリ、曰ク慶父ソノ後ヲ孟孫氏ト爲ス、曰ク叔牙ソノ後ヲ叔孫氏ト爲ス、曰ク季友ソノ後ヲ季孫氏ト爲ス、之ヲ三桓ト云フ。世々國命ヲ執ル、後世其權力宗家ヲ傾クルニ至レリ。

(四七) 孔子ノ畧傳

孔子名ハ丘字ハ仲尼、其先ハ宋人ナリ。生レ得テ英明、兒タリシ時嬉戲常ニ俎豆ヲ陳チ、禮容ヲ設ク、長シテ季氏ノ委吏ト爲リ、倉廩ヲ主トル、料量平カナリ、又司織ノ吏ト爲リ、犧牲ヲ繫養ス、畜類蕃殖セリ、周ニ適テ禮ヲ老子ニ問フ、反テ弟子ニ授ク、魯ノ定公孔子ヲ舉ケテ中都ノ宰ト爲ス、一年ニシテ四方皆之ニ則トル、中都ヨリ司空ト爲リ、

進テ大司寇ト爲ル、相ノ事ヲ攝チ行フ、七日ニシテ亂臣少正卯ヲ誅シ、居ルコト三月、魯大ニ治マル。嘗テ三桓ノ勢ヲ殺キテ、公室ヲ強フシ、又強齊ノ勢ヲ挫キテ、天下ニ覇タラント欲ス。而シテ定公久シク之ヲ用ユル能ハス、孔子遂ニ魯ヲ去ル。齊、衛、陳、匡、曹、宋、鄭、蔡、葉、楚ニ適ク皆用非ラレス。其楚ニ適クヤ、陳蔡ノ大夫謀テ曰ク、孔子楚ニ用ラレハ則チ陳蔡ハ危ウカラント、相與ニ徒黨ヲ發シテ之ヲ圍ム。孔子野ニ飢ニ歎シテ曰ク、詩ニ云ク咒ニ非ス、虎ニ非ス、彼ノ曠野ニ率フト。吾道非ナルカ、吾レ何爲ゾ是ニ於テスル。子貢ノ曰ク、夫子ノ道ハ至大ナリ、天下能ク容ルルコトナケン。顔回ノ曰ク、容レサルコト何ソ病ン、然シテ後君子ヲ見ルト。孔子楚ヨリ衛ニ適キ、魯ニ歸ル哀公政ヲ問フ、遂ニ用フルコト能ハス、乃チ退テ書ヲ序テ、上唐虞ヨリ、下秦ノ穆公ニ至ル、古詩三千ヲ削テ三百五篇ト爲シ、皆之ヲ絃歌ス。禮樂コレヨリ述フヘシ、晚年易ヲ喜ミ象、象、繫辭、說卦、文言ヲ序シ、易道大ニ備ハル。又魯ノ史記ニ因テ、春秋ヲ作ル。隱ヨリ哀ニ至ル十二公筆ヲ獲麟ニ絶ス。蓋シ其意世亂レテ倫常ノ壞滅セシヲ傷ミ後世ヲシテ王法ノ犯スヘカラサルヲ知ラシムルニ在リ。弟子三千人、身六藝ニ通スルモノ七十有二人。周ノ敬王四十一年ヲ以テ卒ス。實ニ西曆紀元前百八十二年ナリ、年七十三、魯ノ城北泗上ニ葬ル。支那歴代ノ帝王、孔子ヲ累封シテ至聖文宣王ト爲ス。

(四) 孔門ノ十哲トハ如何

謂ク顔回字ハ子淵、閔損字ハ子騫、冉耕字ハ伯牛、冉雍字ハ仲弓、此四人ハ德行ヲ以テ著
ハル、皆魯人ナリ、冉、求字ハ子有、仲由字ハ子路(又季路)此二人ハ政治ヲ以テ著ハル、
又皆魯人ナリ、宰予字ハ子我、端木賜字ハ子貢、此二人ハ辨舌口才ヲ以テ著ハル、子我
ハ魯人、子貢ハ衛人ナリ、言偃字ハ子遊、卜商字ハ子夏此二人ハ文學ヲ以テ著ハル、子遊
ハ吳人子夏ハ衛人ナリ。以上ヲ孔門ノ十哲ト云フ。

(五) 老子ノ事跡ヲ問フ

謂ク老子姓ハ李名ハ耳字ハ伯陽(別字ハ聃)楚ノ苦縣ノ人ナリ。周ノ守藏ノ吏ト爲ル、嘗
テ孔子來テ禮ヲ問フ、老子之ニ告ケテ曰ク、良賈ハ深ク藏メテ虚シキカ如ク、君子ハ盛
徳アツテ愚ナルカ如シト。孔子去テ弟子ニ謂テ曰ク、鳥ハ能ク飛フモ、以テ贈ヲ爲ス可
ク、獸ハ能ク走ルモ、以テ網ヲ爲ス可ク。魚ハ能ク游クモ、以テ綸ヲ爲ス可シ。龍ニ至
テハ風雲ニ乗シテ天ニ上ル。今老子ヲ見ルニ其レ猶ホ龍ノ如キカト。老子後周ノ衰フル
ヲ見テ、法テ函谷關ニ至ル。關ノ令尹喜曰ク、子將ニ隱レントス、我カ爲メニ書ヲ著ハ
セト。乃チ道德ノ意ヲ述ルコト五千餘言。聽然去テ其終ル所ヲ知ラスト云フ。後世老子
ヲ以テ道家ノ祖ト爲ス。唐ノ天寶十三年、老子ニ大聖祖高上太道金闕玄天皇大帝ノ尊號
ヲ贈ル。宋ニ至リテ亦タ太上老君元上德皇帝ノ號ヲ贈ル。

(五〇) 孟子ノ事跡ヲ問フ

謂ク孟子名ハ軻字ハ子車、魯ノ孟孫氏ノ後ナリ。鄒邑ニ生ル、幼時慈母ニ遷ノ教ヲ受ケ、
長スルニ及テ、業ヲ子思ノ門ニ受ク。道既通シ、齊ノ宣王ニ遊事ス、宣王用フルコト能
ハス、梁ニ適ク、梁ノ惠王亦以テ事情ニ遷ナリト爲ス、時ニ吳起田忌孫子ノ輩諸侯ニ遊
事シテ、専ラ攻伐ヲ以テ相尙ブ、而シテ孟子ハ唐虞三代ノ徳ヲ述ブ、是ヲ以テ用非ラレ
ズ、退テ萬章ノ徒ト詩書ヲ序シ、孔子ノ意ヲ祖述ス、歿スル年八十四、著ハス所孟子七
篇アリ。

(五一) 荀卿ノ事跡ヲ陳ヘヨ

謂ク荀卿ハ趙ノ人業ヲ子弓ノ門ニ受ク。子弓ハ子夏ノ門人ナリ。是ヲ以テ其説ク所孟子
ト同シク孔子ヲ祖述スト雖モ、人ノ性ヲ説クノ一事大ニ孟子ト相反セリ。年五十始メテ
齊ニ遊事シ、襄王ノ時荀卿最モ老師タリ、後讒ニ遇ヒ、去テ楚ニ適ク、春申君以テ蘭陵
ノ令ト爲ス。著ハス所荀子三十二篇アリ。

(五二) 莊子ノ事跡ハ如何

謂ク莊子名ハ周宋ノ蒙人ナリ。老子ノ學ヲ修メ、書二十篇ヲ著ハシテ、孔子ヲ侮リ、諸

子ヲ諂ル。楚ノ威王其賢ヲ聞キ、使ヲ遣ハシ、幣ヲ厚クシ、迎ヘテ以テ相タラシメント欲ス。莊子笑テ楚ノ使者ニ謂テ曰ク、千金ハ重利ナリ、卿相ハ尊位ナリ、子獨リ郊祭ノ犧牛ヲ見スヤ、之ヲ養食スルコト數歲、之ニ衣スルニ文繡ヲ以テシ、太廟ニ入ル、是時ニ當テ孤豚タラント欲スルモ、其得ヘケンヤ、子速カニ去レ、我ヲ汚スコト勿レ、我寧ロ汚瀆ノ中ニ遊戲シ、以テ自ラ快クセン、國家ヲ有ツモノ、爲メニ羈絆セラレス、終身仕ヘスシテ、吾志ヲ遂ケント、優遊自適シテ、生涯ヲ爲セリト云フ。

(三) 晋ノ亡滅并ニ趙韓魏勃興ノ次第如何

謂ク晋ハ文公ヨリ世々覇ト爲リ、五世ヲ經テ悼公ニ至リ、霸業復タ盛ナリ。其後平公、昭公、頃公ヲ經テ、公室漸ク弱ク、而シテ六卿ノ范氏、知氏、中行氏、趙氏、韓氏、魏氏皆大ナリ。定公ヲ經テ出公ニ至リ、知氏遂ニ趙韓魏氏ト謀リ、范氏中行氏ヲ滅ホシ、其地ヲ分ツ、出公怒リ、齊魯ニ告テ、四卿ヲ伐タント欲ス、四卿反テ公ヲ攻ム、公齊ニ奔リ、道ニシテ死ス。哀公立テ趙韓魏氏、又知氏ヲ滅ホシテ之ヲ分ツ、幽公ニ至リ、晋ハ獨リ絳州ノ曲沃ヲ有ツノミ、其餘皆趙韓魏氏ニ入ル、號シテ三晋ト云フ。烈公立テ周ノ威烈王三卿ニ命シテ諸侯ト爲ス、孝公ヲ經テ靜公ニ至リ、趙ノ敬侯韓ノ哀侯魏ノ武侯共ニ靜公ヲ廢シテ、家人ト爲ス。晋亡ブ、晋ハ叔虞ヨリ靜公ニ至ルマテ、凡テ三十九世ナリ。

(四) 吳起ノ小傳ヲ記セ

謂ク吳起ハ衛人ナリ、國ヲ出ルトキ母ニ盟テ曰ク、卿相トナラスンハ復タ歸ラスト、魯ニ適テ棄テ曾子ニ受ク、起ノ母死ス、起喪ニ奔ラズ、曾子遂ニ之ヲ逐フ、後齊魯ヲ伐ツ、魯起ヲ以テ將ト爲ント欲ス、而シテ起齊ノ女ヲ娶ル、魯人之ヲ疑フ、起乃チ妻ヲ殺シテ、將ヲ求メ、大ニ齊ノ軍ヲ破ル、或人起ヲ讒シテ曰ク、母死シテ喪ニ奔ラズ、今又妻ヲ殺シテ將ヲ求ム、殘忍薄行ノ人ナリト。起恐レ魏ノ文侯ノ賢ヲ聞キ、往テ之ニ歸ス。文侯以テ將ト爲ス、秦ヲ擊テ其五城ヲ拔ク、大ニ文侯ノ眷愛ヲ受ク。文侯卒シ、武侯立ツ、嘗テ舟ヲ西河ニ浮ベ、吳起ヲ顧ミテ山河ノ險ヲ稱ス、起曰ク、德ニ在テ險ニ在ラス、君德ヲ修メズンバ舟中ノ人モ盡ク敵國ト爲ラント、後武侯ト合ハスシテ楚ニ奔ル、楚ノ悼王之ヲ用井テ相ト爲ス、起楚ノ相ト爲リ、南百越ヲ平ケ、北趙韓魏ヲ卻ケ、西秦ヲ伐テ、威武諸侯ヲ動かス、而シテ楚ノ貴戚大臣多ク起ヲ怨ミ、悼王卒スルノ後、共ニ攻メテ起ヲ殺セリ。

(五) 齊ノ威王即墨ノ大夫ヲ賞シ兩ノ大夫ヲ刑セシ次第ヲ記セ

謂ク齊ノ威王即位ノ初メ政ヲ卿大夫ニ委ス。而シテ國勢殆ント振ハス、乃チ即墨ノ大夫

ヲ召シ、之ニ語テ曰ク、子カ即墨ヲ守リシヨリ毀言日ニ至ル、然レトモ吾レ人ヲシテ即
 墨ヲ視セシムルニ、田野開ケ人民給リ、官無事ニシテ、東方安シ、是レ子ハ吾カ左右ニ
 事ヘテ、助ケヲ求メサル所以ナリト、之ヲ萬家ニ封ス。阿ノ大夫ヲ召シ之ニ語テ曰ク、
 子カ阿ヲ守リシヨリ、譽言日ニ至ル、吾レ人ヲシテ阿ヲ視セシムルニ、田野開ケス、人
 民貧饑ス、趙鄆ヲ攻ムレトモ、子救ハス、衛薛陵ヲ取レトモ子知ラス、是レ子ハ幣ヲ厚
 フシテ、吾カ左右ニ事ヘ、以テ譽レヲ求ムルナリ、是日阿ノ大夫ト嘗テ譽ムル者トヲ烹
 ル、是ニ於テ群臣皆懼シ、敢テ飾詐スル者ナシ、齊國大ニ治マル。

(五七) 衛鞅ノ政策大畧ヲ問フ

衛鞅姓ハ公孫衛ノ諸公子ナリ。始メ魏ノ相公叔座ニ事ヘテ中庶子タリ、坐之ヲ惠王ニ薦
 ム惠王用フルコト能ハス。時ニ列國秦ヲ遇スルニ夷狄ヲ以テシ、諸侯ノ會盟ニ與カラシ
 ムス、秦ノ孝公之ヲ憤リ、乃チ令ヲ下シテ曰ク、賓客群臣能ク奇計ヲ出シ、秦ヲ強フス
 ルモノアラハ、吾且ツ官ヲ尊クシ、之ト土ヲ分タント、衛鞅之ヲ聞テ秦ニ入り、嬖人景
 監ニ因テ孝公ニ見エ、初メ説クニ帝道ヲ以テシ、尋テ王道ヲ説キ、三變シテ霸道ヲ爲シ、而
 シテ後強國ノ術ニ及ブ、公大ニ悦ビ、法ヲ變ヘント欲ス、尙ホ天下ノ己レヲ議センコトヲ
 恐ル。鞅曰ク、民ハ與ニ始メテ慮カルヘカラス、而シテ與ニ成ヲ樂ム可シト、粹カニ令
 ヲ定ム。其法十五家毎ニ團結シテ相管保セシメ、一家犯アレハ罪衆家ニ及ブモノトス、
 乃チ姦ヲ告ケサル者ヲ腰斬シ、姦ヲ告グルモノハ敵ヲ斬ルト賞ヲ同フス、姦ヲ匿ス者ハ
 敵ニ降ルト罰ヲ同フシ、軍力アル者ハ各々率テ以テ爵ヲ受ク、私闘ヲ爲ス者ハ輕重ヲ以
 テ刑ヲ被ムリ、大小カヲ戮セテ耕織ヲ本業トス、粟帛ヲ多ク致ス者ハ其身ノ賦役ヲ除キ、
 末利ヲ事トシ、懈怠シテ貧シキ者ハ舉ケテ以テ収斂ト爲ス、之ヲ行フコト十年、道ニ遺
 タルヲ拾ハス、山ニ盜賊ナシ、國富ミ兵強ク、秦ノ威力列國ニ震フニ至レリ。

(五七) 申不害ノ事跡ヲ問フ

謂ク申不害ハ本ト鄭ノ賤臣ナリ、術ヲ以テ韓ノ昭侯ヲ干ス。昭侯用テ相ト爲ス。政教ヲ
 修メ、外諸侯ニ應ス、不害ノ身ヲ終フルマテ、國治マリ兵強ク、列國韓ヲ侵スモノナカ
 ツシト云フ。不害ノ學ハ黃老ニ本ツキ、刑名ヲ主トス、著ハス所、書二篇アリ、申子ト
 云フ。

(五八) 馬陵ノ役龐涓孫臏ノ戰畧如何

謂ク初メ龐涓、孫臏ト俱ニ兵法ヲ鬼谷子ニ學フ。涓魏ニ事ヘ、惠王ノ將ト爲ルニ及テ、
 自ラ能ク臏ニ及ハサルヲ憂ヘ、陰ニ臏ヲ召シテ、其兩足ヲ斷チ、之ヲ跡シ、終身廢棄シ
 テ復タ世ニ出ツルコト能ハサラシム。偶々齊ノ使者魏ニ來リ、竊ニ載セテ國ニ歸ル。齊

ノ將田忌、之ヲ威王ニ進ム、後魏太子申ヲシテ韓ヲ伐タシム、龐涓コレガ師タリ、韓救
 ヒテ齊ニ求ム、齊田忌ヲ將トシ、孫臏ヲ之レカ師ト爲シ、以テ韓ヲ救フ。臏素ト魏ノ齊
 ヲ輕ニスルヲ知ル、乃チ齊軍ヲシテ魏ノ地ニ入り、十萬ノ竈ヲ作り、明日ハ五萬ノ竈ヲ
 作り、又明日ハ二萬ノ竈ヲ作ラシム。龐涓大ニ喜テ曰ク、吾レ固ト齊軍ノ怯ヲ知ル、吾
 地ニ入り、僅カニ三日ニシテ士卒ノ亡ブルモノ半バニ過キタリト、乃チ晝夜兼行シテ之
 ヲ逐フ。孫臏其行ノ日暮ニ馬陵ニ至ルヘキヲ度カリ、大樹ヲ斫リ、白フシテ之ニ火書シ
 テ曰ク、龐涓死シ此樹下ト、萬弩道ヲ夾テ伏セシメ、日暮ニ火ノ舉ガルヲ見テ齊シク發
 スルヲ期ス、龐涓果シテ其夜其刻馬陵ニ至リ、火ヲ舉ケテ白書ヲ燭ラシ、之ヲ讀ムコト
 未タ畢ラサルニ、萬弩齊シク發シテ、魏軍大ニ亂ル。涓天ヲ仰テ歎シテ曰ク、遂ニ豎子
 ノ名ヲ成スト、因テ自刎シテ死ス。齊軍勝ニ乘シテ大ニ魏ノ軍ヲ破リ、太子申ヲ虜ニヒ
 リ。

(五九) 孟嘗君ノ事跡ヲ問フ

謂ク孟嘗君田文ハ、齊ノ宣王ノ庶弟、靖廝君田嬰ノ子ナリ。薛ニ封セラレ、食客常ニ數
 千人ヲ養ヒ、名聲天下ニ聞ユ。四方ノ士爭テ之ニ歸ス。秦ノ昭王、其賢ヲ聞キ、聘シテ
 之ヲ相ト爲ス。或人王ニ説テ曰ク、文秦ニ相タラハ必ス齊ヲ先ニシ、秦ヲ後ニセン、秦
 其レ危シト。是ニ於テ昭王四ヘテ之ヲ殺サント欲ス、孟嘗君人ヲシテ昭王ノ幸姫ニ抵リ、
 解カシコトヲ求メシム。姫曰ク、願クハ君ノ狐白裘ヲ得ント、狐白裘ハ前キニ昭王ニ獻
 シテ、他ノ裘アルナシ、食客ニ狗盜ヲ能クスル者アリ、乃チ秦ノ藏中ニ入り、裘ヲ偷テ
 姫ニ獻ス。姫爲メニ王ニ言テ釋サル、ヲ得タリ、孟嘗君纒カニ遁レ、歸リテ大ニ秦ヲ怨
 ミ、韓魏ト連合シテ之ヲ伐チ、函谷關ニ入ル、秦城ヲ割テ以テ和ヲ乞フ、孟嘗君遂ニ齊
 ニ相タリ。後或人ノ齊王ニ讒ス、孟嘗君出奔シテ齊ト絶テ、中立シテ諸侯ト爲ル、食
 客馮驩ノ謀ヲ用井テ、薛ノ民望ヲ收攬シ、竟ニ薛ニ終フ。

(六〇) 平原君ノ事跡ヲ記セ

謂ク平原君公子勝ハ趙ノ武靈王ノ子ナリ。平原ニ封セラレ、孝成王ノ相タリ、士ヲ愛シ
 門下ノ食客常ニ數千人アリ。其著ハル、者ヲ公孫龍、毛遂トス。龍ハ堅白異同ノ辨ヲ爲
 シ、遂ハ權變詐略ニ富ム、秦ノ昭王兵ヲ發シテ趙ノ邯鄲ヲ攻ム。平原君乃チ毛遂等二十
 人ヲ引テ楚ニ往キ、救ヲ乞ヒ、歸テ大ニ秦ノ軍ヲ邯鄲ノ下ニ破レリ。

(六一) 信陵君ノ事跡ヲ聞カン

謂ク信陵君無忌ハ魏ノ安釐王ノ子ナリ。賢ヲ愛シ、士ニ下ル、食客常ニ三千餘人アリ。秦
 ノ昭王大舉シテ趙ヲ攻ム、魏王晉鄙ヲ將トシ、趙ヲ救ハシム、昭王兵ヲ移シ、先ツ救フ

者ヲ撃ント欲ス、魏王恐レテ晉鄆ノ兵ヲ止メ鄴ニ壁ス、趙ノ平原君ノ夫人ハ、信陵君ノ姉ナリ、趙急ニシテ使者冠蓋相望ミ、救ヲ信陵君ニ責ム、信陵君之ヲ王ニ請ヒ、且ツ賓客ヲシテ遊説萬端セシムレトモ王聽カス、客ノ侯嬴年七十、奇才アリ、謀ヲ授ケテ曰ク、王ノ幸姫ニ請フテ晉鄆ノ兵符ヲ竊マシメ、之ヲ以テ晉鄆ト符ヲ合セ、王ノ命ナリト爲シテ、趙ヲ救ハシ、晉鄆若シ疑ハ、則チ擊殺シテ其軍ヲ奪ヘト、一ニ嬴ノ言ノ如クシ、兵ヲ得テ以テ進ミ、大ニ秦ノ兵ヲ破テ、邯鄲ノ圍ヲ解ケリ、而シテ信陵君魏ニ歸ラス、秦魏ヲ伐ツニ及テ、魏信陵君ヲ招ク、歸ルコトヲ肯ンゼズ、客ノ毛公薛公見エテ曰ク、魏急ナリ、而シテ公子恤ヘス、一旦秦大梁ニ克テ、先王ノ宗廟ヲ夷ケバ、公子何ノ面目アツテ天下ニ立ンヤト、信陵君乃チ駕ヲ趣カシテ還ル、楚燕趙韓信陵君ノ魏ノ將ト爲ルト聞キ皆兵ヲ發シテ魏ヲ救フ、是ニ於テ信陵君五國ノ兵ヲ率ヰテ、大ニ秦ノ兵ヲ河外ニ敗リ、追テ函谷關ニ至テ還ル、尋テ卒ス、魏マタ秦ノ爲メニ滅サル。

(六三) 春申君ノ事跡如何

謂ク春申君黃歇ハ齊ノ孟嘗君、趙ノ平原君、魏ノ信陵君ト時ヲ同フシ、名ヲ齊フス、楚ノ烈王ニ仕ヘテ、相ノ事ヲ行フ。食客常ニ二千餘人アリ。平原君、嘗テ人ヲ使ハシテ楚ニ誇ラント欲シ、玳瑁ノ簪ヲ作り、珠玉ヲ以テ刀劍ノ室ヲ飾ル。而シテ春申君ノ上客、皆珠履ヲ躡テ之ヲ見ル、趙ノ使者大ニ慙テタリト云フ。春申君嘗テ趙ノ爲メニ秦ノ兵ヲ邯鄲ニ破リ、又楚ノ爲メニ北方魯ヲ伐テ之ヲ滅ホシ、荀卿ヲ以テ蘭陵ノ令ト爲ス。是時楚復タ強大ナリ。楚ノ幽王ノ母ハ、李園ノ妹ナリ、初メ春申君ニ嫁シテ娠メルアリ、後烈王ニ納ル、幽王立ツニ及テ李園盜ヲシテ春申君ヲ殺サシメ、以テ其口ヲ滅ス。

(六三) 毛遂ノ傳ヲ聞カン

謂ク毛遂ハ趙ノ平原君ノ食客ナリ。秦趙ノ邯鄲ヲ圍ミシトキ、平原君門下ノ士、文武備具セル者二十人ヲ擇テ、之ト俱ニ楚ニ往キ、烈王ニ説テ其救ヲ得ント欲シ、十九人ヲ得テ一人ヲ欠ク、是ニ於テ毛遂自カラ薦ム、平原君曰ク、士ノ世ニ處スル雖ヲ囊中ニ處クカ如シ、其末立トコロニ見ハル、今先生吾門下ニ處ルコト三年、未タ聞フルコト有ラスト。遂曰ク遂ヲシテ囊中ニ處クヲ得セシメハ、乃チ穎脫シテ出シ、特ニ末ノ見ハル、ノミニ非サルナリト、平原君乃チ以テ數ニ備フ、十九人コレヲ目笑ス、楚ニ至テ從ヲ定ム決セス、毛遂乃チ劍ヲ按シ、歷階シテ升テ曰ク、從ノ利害兩言シテ決センノミ、今日出ヨリ日中ニ至ルマテ決セサルハ何ソヤ、楚王怒リ叱シテ曰ク、何ソ下ラサル吾レ汝カ君ト言ハン、汝何タル者ゾ、毛遂劍ヲ按シ前シテ曰ク、王ノ遂ヲ叱スル所以ハ楚國ノ衆ヲ以テナリ、今十歩ノ内楚國ノ衆ヲ恃ムコトヲ得ス、王ノ命ハ遂カ手ニ懸レリ、楚ノ強ヲ

以テ天下能ク當ルナシ、白起ハ小豎子ノミ、一戰シテ鄢郢ヲ擧ケ、再戰シテ夷陵ヲ燒キ、三戰シテ王ノ先人ヲ羞カシム、此レ百世ノ怨ミ、趙ノ羞ツル所ナリ、合從ハ楚ノ爲メニシテ、趙ノ爲メニ非サルナリト。楚王ノ曰ク唯唯誠ニ先生ノ言ノ如シ、謹テ社稷ヲ奉シテ以テ從ホン、遂曰ク雞狗馬ノ血ヲ取り來レト、銅盤ヲ捧ケテ跪テ進テ曰ク、王當サニ血ヲ啜ラ從ヲ定ムヘシ、次ハ吾君、次ハ遂ト、左手ニ盤ヲ持シ、右手ニ十九人ヲ招テ血ヲ堂下ニ啜ラシメテ曰ク、公等碌碌トシテ所謂人ニ因テ事ヲ成ス者也ト。平原君從ヲ定メテ歸リ、遂ニ謂テ曰ク、先生一タヒ楚ニ至テ、趙ヲシテ九鼎大呂ヨリ重カラシムト。遂ヲ以テ上客ト爲セリ。

(六) 蘇秦ノ合從説トハ如何

謂ク蘇秦字ハ季子洛陽ノ人ナリ。縱橫ノ術ヲ鬼谷子ニ學ブ。秦ニ入テ惠王ニ見ユ説クニ天下ヲ兼并スルノ術ヲ以テス、用非ラレス、乃チ去テ燕ノ文公ニ説テ曰ク、燕ノ兵ヲ被ムラサル所以ハ、趙ノ其南ヲ蔽フヲ以テナリ、願クハ王趙ト從親セヨ、燕必ス患ナカラシト、之ニ從フ、趙ニ往テ肅侯ニ説テ曰ク、秦ノ敢テ趙ヲ伐タサルモノハ、韓魏ノ其後ヲ議セシコトヲ畏レテナリ、若シ韓魏齊楚燕趙ヲ一ニシ、從親シテ以テ秦ヲ擯ケ、秦一國ヲ攻ムレハ、五國各々銳師ヲ出シテ、以テ秦ヲ撻シ、一國約ニ背クモノアラハ、又五國

共ニ之ヲ伐ツコトニ爲サハ、秦ノ甲ハ必ス函谷ヲ出テ、以テ山東ヲ害セサルヘシト、肅侯大ニ悦ビ、厚ク資ヲ供シテ諸侯ニ從親ヲ約セシム、蘇秦更ニ韓魏楚ノ若ニ説テ皆之ニ從フ、是ニ於テ蘇秦ヲ從約ノ長ト爲シ、并セテ六國ノ相トス。蘇秦初メ秦ニ説テ用ユラレス、大ニ困テ家ニ歸ル、妻機ヲ下ラス、嫂爲メニ炊カズ、父母兄弟モ亦與ニ言ハス。從約長トナリ、六國ノ相印ヲ帶ビ、化シテ趙王ニ復命スルニ及ビ、諸侯使ヲ發シテ之ヲ送ルモノ甚タ衆ク、車騎輜重整然トシテ王者ニ擬ス、道洛陽ヲ過ク周ノ顯王之ヲ聞キ、恐懼シテ道ヲ灑掃シ、卿ヲシテ朝服シテ之ヲ勞セシム。蘇秦ノ兄弟妻嫂目ヲ側テ、敢テ仰キ見ス、俯伏シテ食ヲ取ル。蘇秦笑テ問テ曰ク、何ソ前キニハ倨テ、後ニハ恭シキヤ、嫂ノ曰ク、季子カ位高ク金ノ多キヲ見レハナリト、蘇秦喟然トシテ歎シテ曰ク、此レ一人ノ身富貴ナレハ親戚之ヲ畏懼シ、貧賤ナレハ之ヲ輕易ス、况ンヤ衆人オヤト、是ニ於テ千金ヲ散シ、以テ宗族朋友ニ與ヘ、趙ニ歸テ武安君ニ封セラル。

(五) 張儀ノ連衡説トハ如何

謂ク張儀ハ魏人ナリ、蘇秦ト同シク縱橫ノ術ヲ鬼谷子ニ學フ、學成リ諸侯ニ遊説シ、嘗テ楚ノ相ニ從フテ飲ス、偶々楚ノ相壁ヲ失フ、相ノ門下儀ノ貧ナル見テ之ヲ疑ヒ、共ニ執ベテ鞭笞スルコト數百、而シテ儀服セス之ヲ釋ス、儀ノ妻聞テ歎シテ曰ク、子書ヲ讀ミ、

遊説スルコトナクシハ、安ソ此辱ヲ取ランヤト、饑舌ヲ出シ之ニ視シテ曰ク尙ホ在リヤ否ヤト、後蘇秦ニ激セラレテ秦ニ入り、惠王ノ相ト爲ル、居ルコト五歳、出テ、魏ニ事ヘ、襄王ノ相ト爲ル、實ハ秦ノ爲メニスル所アリシナリ。遂ニ魏ノ哀王ニ説テ從ニ背キ。西面秦ニ事ヘシム、更ニ楚ニ説キ、韓ニ説キ、齊ニ説キ、趙ニ説キ、燕ニ説キ、六國連衡シテ、西面秦ニ事フルヲ約シ、方サニ歸リテ秦ニ復命セントシ、未タ咸陽ニ至ラサルニ、惠王卒シテ武王立ツ、武王太子タリシ時ヨリ饑ヲ悦ハス、位ニ即クニ及テ群臣多ク饑ヲ讒ス、是ニ於テ諸侯張儀ノ武王ト隙アルヲ聞キ、復タ皆連衡ヲ解キテ合從セリ。

(六六) 燕ノ昭王郭隗ニ師事セシ所以如何

謂ク燕ノ易王ノ相子之、燕ノ權ヲ得ント欲ス。鹿毛壽ナルモノ子之ニ諛ヒ、易王ニ謂テ曰ク、人堯ヲ賢者ト謂フモノハ、其能ク天下ヲ讓ルヲ以テナリ。今王國ヲ以テ子之ニ讓ラハ、是レ王ハ堯ト名ヲ同フスルナリト。易王遂ニ國ヲ舉ケテ子之ニ讓リ、而シテ北面コレニ臣事ス、是ニ於テ國內大ニ亂レ、齊伐テ燕ヲ取り、子之ヲ醢ニシ、易王ヲ殺ス、燕人易王ノ太子平ヲ立ツ、之ヲ昭王ト爲ス、昭王位ニ即テ、辭ヲ卑フシ、幣ヲ厚クシ、以テ天下ノ賢者ヲ招ク。郭隗ニ問テ曰ク、齊孤ノ國ノ亂ル、ニ因テ、燕ヲ襲ヒ破ル、孤極クテ燕ノ外ニシテ、以テ報スルニ足ラサルコトヲ知ル、誠ニ賢士ヲ得テ、國ヲ興ニ共ニシ、以テ先王ノ耻ヲ雪カンコト、是レ孤カ願ヒナリ、先生可ナル者ヲ視ヨ、身ヲ以テ之ニ事フルヲ得ント。隗カ曰ク、古ノ君千金ヲ以テ涓人ヲシテ千里ノ馬ヲ求メシムルニ、死馬ノ骨ヲ五百金ニ買フテ返ル。君怒ル涓人曰ク死馬ヌラ尙ホ且ツ之ヲ買フ、况ンヤ生ケル者ヲヤ、馬今ニ至ラント。期年ナラサルニ千里ノ馬至ル者三ツト云ヘリ。今王必ス士ヲ致サント欲セハ、先ツ隗ヨリ始メヨ。况ンヤ隗ヨリ賢ラン者、豈千里ヲ遠シトセンヤト。昭王乃チ隗カ爲メニ宮室ヲ改築シ、之ニ師事ス。是ニ於テ天下ノ士爭フテ燕ニ趨ク、樂毅ハ魏ヨリ往ク、昭王以テ亞卿ト爲シ、國政ヲ任ス、已ニシテ毅ヲ將トシ、齊ヲ伐タシム、毅攻メテ臨淄ニ逼ル、齊王出奔ス、毅勝ニ乘シテ、齊ノ七十餘城ヲ下ス、燕國大ニ振ヘリ。

(六七) 田單火牛ヲ用弁テ齊ヲ復セシ次第ヲ記セ

謂ク齊ノ湣王ノ時、燕ノ將樂毅來リ攻メテ、六月ノ間七十餘城ヲ拔ク。下ラサルモノハ惟リ莒ト即墨トノミ。即墨ノ人田單ヲ推シテ將軍ト爲ス、單自カク版鍔ヲ操テ士卒ト功ヲ分チ、妻妾ハ行伍ニ編シ、固守スルコト三年、毅未ダ下スコト能ハス。會々燕ノ昭王卒シ、惠王立ツ、單乃チ反間ヲ縱ツテ曰ク、齊人惟タ他將ノ來テ即墨ノ殘ランコトヲ恐ルト。盖シ樂毅齊人ト内通シツ、アルノ謂ヒナリ。惠王之ヲ疑ヒ騎劫ヲシテ代テ將タラ

シム、毅趙ニ奔ル、是ニ於テ田單城中ノ牛千餘ヲ收メテ、兵刃ヲ其角ニ束テ、葦ヲ其尾ニ繫キテ脂ヲ灌キ、城ヲ鑿ツコト數十穴、夜ニ牛ヲ縱ツテ其葦ヲ燒キ、壯士五千人コレニ隨フ、尾熱シ牛怒リ、狂奔シテ燕ノ軍ニ入ル、觸ル、所ノ者盡ク死傷ス、而シテ城中鼓譟シテ之ニ從ヒ、聲天地ニ震フ、勝ニ乘シテ之ヲ追ヒ、七十餘城復々皆齊ノ有ニ歸セリ。

(六八) 樂毅ノ傳ヲ記セ

謂ク樂毅ハ魏人ナリ、燕ノ昭王賢ニ下リ士ヲ招クト聞キ、往テ之ニ事ヘ、亞卿トナル、燕王齊ニ積怨アリ、毅爲メニ齊ノ七十餘城ヲ下ス、昭王以テ昌國君ニ封ス、而シテ齊ノ莒ト即墨ノ二邑三年ニシテ猶ホ未タ下ラス、或人昭王ニ讒シテ曰ク、毅呼吸ノ間ニ七十餘城ニ克テリ、今兩城ヲ下サ、ルモノハ、久シク兵威ニ仗ツテ、以テ齊人ヲ服セシメ、南面シテ王タラント欲スルノミト、昭王置酒大會シ、讒スル者ヲ引テ之ヲ斬リ、國相ヲ遣ハシテ毅ヲ立テ、齊王ト爲ス。毅恐惶シテ之ヲ受ケス、書ヲ拜シ、死ヲ以テ自カラ誓フ。昭王卒シ、惠王立ツ、齊將田單反間ヲ縱ツ、惠王毅ヲ疑ヒ、騎劫ヲシテ代テ將タラシム、毅遂ニ趙ニ奔ル、趙王毅ト謀リ、燕ヲ伐ント欲ス、毅泣テ曰ク、臣曠昔昭王ニ事アルハ猶ホ今日大王ニ事フルカ如シ、若シ復々罪ヲ得テ他國ニ在ラハ、敢テ趙ノ奴隸ダモ謀ラレズ、况シ天子孫ヲ事ヤ。趙王乃チ毅ヲ鄒津ニ封シ、望諸君ト號ス。燕ノ惠王後チ之ヲ悔エ、人ヲシテ毅ヲ讓メ、且ツ謝セシメテ曰ク、將軍燕ヲ捐テ、趙ニ歸ス、自カラ計ヲ爲スハ則チ可ナリ、而シテ何ヲ以テ先王ノ將軍ヲ遇スル所以ノ意ニ報ユルヤト、毅報書ヲ畧ニ曰ク、身ヲ免カレ、功ヲ立テ、以テ先王ノ迹ヲ明カニスルハ、臣ノ上計ナリ、毀辱ノ誹謗ニ罹リ、先王ノ名ヲ墮スハ、臣ノ大ニ恐ル、所ナリ、不測ノ罪ニ臨テ、幸ヲ以テ利ト爲スハ、義ノ敢テ出サ、ル所ナリ、古ノ君子ハ交リ絶ツトモ、惡聲ヲ出サス、忠臣ハ國ヲ去レトモ其名ヲ潔クセス、臣不佞ト雖モ、數々教ヲ君子ニ奉セリ、云々ト。燕王遂ニ毅ヲ子間ヲ封シテ昌國君ト爲ス。而シテ往來シテ復々燕ニ通ス、後趙ニ卒セリ。

(六九) 范雎ノ事跡ヲ問フ

范雎ハ魏ノ人ナリ、初メ魏ノ中大夫須賈ニ從ツテ齊ニ使ス、齊ノ襄王其辨口ヲ愛シ、雎ニ金ヲ賜フ、而シテ賈ハ雎ノ國ノ陰事ヲ以テ齊ニ告クルカト疑ヒ、歸テ宰相魏齊ニ告ク、魏齊怒テ雎ヲ笞撃シ、脅ヲ折リ齒ヲ拉ク、雎伴ハリ死ス、乃チ卷クニ簀ヲ以テシ、之ヲ廁中ニ置キ、醉客ヲシテ交々之ニ尿セシメ、以テ後ヲ懲ス、雎守者ニ告ケテ竊カニ出テ、秦ノ使者王稽ニ附シテ秦ニ奔ル、而シテ姓名ヲ改メテ張祿ト云フ、王稽之ヲ昭王ニ薦ム、王以テ客卿ト爲ス、雎教フルニ遠交近攻ノ策ヲ以テシ、遂ニ衛ヲ以テ丞相魏冉ヲ退ケ、自カラ之ニ代テ應侯ト號ス、偶々魏王大夫須賈ヲ秦ニ使セシム、雎乃チ敝衣間歩シテ、往テ

賈ニ見ユ、賈驚テ曰ク、范叔一ニ寒ユルコト此ノ如キヤト、因テ留メテ飲食セシメ、且ツ一綈袍ヲ出シテ、之ニ與フ、已ニシテ賈買ノ爲メニ馭者ト爲リ、相府ニ至テ曰ク、我先ツ君ノ爲メニ入テ、相君ニ通セント、賈久シク其出ツルヲ待テトモ來ルナシ、因テ門下ニ問フ、門下曰ク范叔ト云フ者ナシ、嚮キノ者ハ吾丞相張君ナリト、賈欺カルヲ知リ、乃チ膝行シ入テ罪ヲ謝ス、唯座シテ叱責シテ曰ク、汝カ死ヲ免カル所以ノモノハ、綈袍戀々トシテ故人ノ意アルヲ以テノミト、乃チ大ニ諸侯賓客ヲ請シ賈ノ前ニ座豆ヲ置キ、馬ノ如クニシテ之ニ食ハシメ、且ツ謂テ曰ク、汝歸テ魏王ニ告ケヨ、速カニ魏齊ノ頭ヲ斬リ來シ、然ラスンハ將ニ大梁ヲ屠ラントスト、賈歸テ之ヲ魏齊ニ告ク、齊出奔シテ遂ニ死ス、後チ唯秦將武安君白起ト隙アリ、廢シテ士伍ト爲シ、劔ヲ賜フテ杜郵ニ死セシム。昭王朝ニ臨テ歎シテ曰ク、内ニ良將ナク、外ニ強敵多シト。唯大ニ懼ル。蔡澤カ曰ク、四時ノ序功ヲ成ス者ハ去ルト、唯病ト稱シテ朝セス、澤之ニ代レリ。

(七〇) 秦ノ白起趙軍四十萬ヲ坑ニセシ次第ヲ記セ

謂ク趙ノ孝成王ノ時、秦白起ヲ將トシ、韓ヲ伐ツ。韓ノ上黨郡ノ守馮亭ソノ地ヲ以テ趙ニ歸ス、趙ノ平陽君豹曰ク、此レ禍ヲ趙ニ嫁セント欲スルナリ、地ヲ受ケサルニ如カスト。而シテ平原君、滕王ニ請フテ之ヲ受ケシム。是ニ於テ秦軍ヲ轉シテ趙ヲ攻ム、趙ノ

將廉頗長平ニ軍シ、壁ヲ堅フシテ出テス、秦人乃チ千金ヲ行ヒ、反間ヲ縱ツテ曰ク、秦獨リ馬服君趙奢ノ子括カ將ト爲ランコトヲ畏ル、ノミト、孝成王括ヲ以テ頗ニ代ヘント欲ス、藺相如曰ク、王名ヲ以テ括ヲ使フ、括カ如キハ徒ニ能ク其父ノ書ヲ讀ムノミ、變ニ合フコトヲ知ラス、譬ヘハ柱ニ膠シテ瑟ヲ鼓スルカ如シト、括カ母モ亦タ上書シテ括ノ使フヘカウサルコトヲ言フ、王聽カス、括亦タ自カラ以爲ラク、天下能ク當ルナシト、括頗ニ代ハル果シテ白起ノ爲メニ射殺セラレ。其卒四十萬皆秦ニ降ル、白起之ヲ長平ニ坑ニス、慘愴ノ極、春秋戰國中、未タ其比ヲ見サル所ナリ。

(七一) 藺相如ノ事跡ヲ記セ

謂ク藺相如ハ趙人、本ト趙ノ惠文王ノ令繆賢カ舍人ナリ。賢相如ノ智謀アルヲ知リ、之ヲ王ニ薦ム。王嘗テ楚ノ和氏ヲ璧ヲ得タリ。秦ノ昭王之ヲ聞キ、十五城ヲ以テ之ト易ヘント請フ、與ヘサラント欲スレトモ璧ノ強ヲ畏ル、與ヘント欲スレハ欺カレンコトヲ恐ル、是ニ於テ相如璧ヲ奉シテ往カンコトヲ願フ、曰ク秦若シ城ヲ償ハスンハ則チ臣璧ヲ完フシテ歸ラント、既ニ至ル秦王果シテ城ヲ償フノ意ナシ、相如乃チ璧ヲ欺キ取り、怒髮冠ヲ衝キ、柱下ニ卻立シテ、叱呼シテ曰ク、臣カ頭壁ト俱ニ碎ケント、而シテ從者ヲシテ壁ヲ懷ロニシ、間行シテ先ツ歸ラシメ、身秦ニ在リテ命ヲ待ツ、昭王之ヲ賢トシ、遂

ニ趙ニ歸ヘス、後マダ趙王ニ從フテ秦王ト澠池ニ會ス。酒ヲ飲ムニ及テ秦王趙王ニ瑟ヲ鼓スルヲ請フ、趙之ヲ載ス、相如乃チ秦王ニ缶ホトキヲ擊テ、秦聲ヲ爲ヌヲ請フ、秦王肯ンセス、相如曰ク、五歩ノ内頸血ヲ以テ大王ニ濺クコトヲ得ント、左右之ヲ殺サント欲ス、相如大聲叱咤ス、衆皆畏懼シテ止マル、秦王遂ニ缶ヲ擊テリ、是ヲ以テ秦終ニ趙ニ加フルコト能ハサリシト云フ。

(七) 廉頗ノ小傳ヲ聞カン

謂ク廉頗ハ趙人ナリ。藺相如ト同ク趙ノ惠文王ニ事フ、己ニシテ相如上卿ト爲リ位頗ノ右ニ在リ。頗怒テ曰ク、我レ趙ノ將ト爲テ攻城野戰ノ功アリ、相如ハ素ト賤人、徒ニ口舌ヲ以テ我上ニ居ル、我レ相如ヲ見ハ、必ス辱シメント。相如聞テ常ニ之ヲ避ケ、人ニ謂テ曰ク、念フニ強秦ノ兵ヲ趙ニ加ヘサル所以ノモノハ、徒ニ吾等兩人アルヲ以テナリ、今兩虎鬪ハ、其勢ヒ俱ニ生クヘカラス、吾カ頗ヲ避クルモノハ、國家ノ急ヲ先ニシテ、私ノ警ヲ後ニスルナリト。頗聞テ大ニ慚チ、肉袒シテ荆ヲ負ヒ、相如ノ門ニ詣ツテ、罪ヲ謝シ、遂ニ刎頸ノ交ヲ爲ス、孝成王立ツニ及テ秦ノ白起來テ趙ヲ侵ス、頗長平ニ軍シ、壘ヲ堅フシテ出テ戰ハス、秦軍大ニ困シム、白起乃チ反間ヲ縱テ、秦人趙奢ノ子括ヲ畏ルト爲ス、趙王悟ラス、頗ニ代フルニ括ヲ以テシ、大ニ秦ノ軍ニ破ラレ、兵卒四十萬ヲ喪フ、頗遂ニ魏ニ奔ル、孝成王薨シ、子悼襄王立ツ、復タ廉頗ヲ用テ將ト爲サント欲シ、人ヲシテ頗ヲ視セシム、頗ノ仇郭開ナルモノ使者ニ金ヲ與ヘテ頗ヲ毀ラシム、使者魏ニ至リ頗ニ見ユ、頗時ニ年七十一、飯ニ斗米肉十斤、甲ヲ被ムリ馬ニ上リ、以テ尙ホ用ユヘキヲ示ス。使者還リ報シテ曰ク、廉將軍尙ホ善ク飯ス、然レトモ臣ト座スルコト頗之ニシテ三タヒ便ヲ泄ラセリト。王以テ老タリト爲シ、遂ニ召サス、頗後楚ノ將ト爲リテ功ナク、尋テ卒ス。

(八) 呂不韋ノ事跡ヲ記セ

謂ク呂不韋ハ素ト陽翟ノ大賈ナリ。嘗テ事アリ趙ニ適ク、時ニ秦ノ昭王太子柱ノ子楚楚別名異趙ニ質タリ、意ヲ得スシテ困頓ス、不韋コレヲ見テ喜テ曰ク、此レ奇貨ナリ、居ク可シト、乃チ楚ニ謂テ曰ク、我レ千金ヲ以テ子ノ爲メニ西秦ニ遊説シ、子ヲ立テ、秦ノ嗣ト爲サント。楚ノ曰ク、必ス君ノ策ノ如クンハ、秦國ハ君ト共ニ與ニセン、是ニ於テ不韋奇物玩好ヲ買ヒ、西シテ秦ニ遊ヒ、太子柱ノ妃華陽夫人ノ姊ニ見エテ、之ヲ華陽夫人ニ獻シ、且ツ説カシメテ曰ク、吾聞ク色ヲ以テ人ニ事フルモノハ、色衰ヘテ愛弛ム、今早ク諸子中ノ賢ナル者ヲ擇ヒ、舉ケ立テ、嫡ト爲シ、之ヲ子トセハ楚ハ妾腹ニシテ夏姬ノ子ナリ故ニ云フ百歳ノ後子トスル所ノ者王トナリ、終ニ勢ヲ失ハス、今楚ハ賢ナリ、誠ニ此時ヲ以テ擢テ、

嫡ト爲サハ、夫人ハ則チ世ヲ竟フルマテ秦ニ寵アラント、夫人以テ然リト爲シ、間ヲ得テ之ヲ太子ニ言フ、太子之ヲ許ス乃チ不韋ヲ請フテ之レカ傅ト爲ス、不韋邯鄲ノ姫ノ絶好ナル者ヲ娶テ娠メルアリ、楚見テ之ヲ請フ、不韋伴ハリ怒リ、既ニシテ之ヲ獻ス、期ニ至リ子ノ政生マル、後秦邯鄲ヲ圍ムコト急ナリ、趙人楚ヲ殺サント欲ス、不韋守吏ニ金ヲ與ヘ、亡ケテ秦ノ軍ニ赴キ、遂ニ歸ルコトヲ得タリ。是ヨリ先キ昭襄王薨ヌ太子柱立ツ、之ヲ孝文王ト爲ス、三日ニシテ薨ス。楚立ツ、之ヲ莊襄王ト爲ス、是ニ於テ不王丞相ト爲リ、文信侯ニ封セラレ、河南洛陽ノ十萬戸ヲ食ム、莊襄王位ニアル四年ニシテ薨ヌ、太子政立ツ、之ヲ始皇帝ト爲ス、實ハ不韋ノ子ナリ、不韋ヲ尊テ相國ト爲シ、仲父ト稱ス、不韋自カラ孟嘗君平原君等ノ四公子ニ如カサルヲ羞チ、士ヲ招キ致シテ厚ク之ヲ遇シ、食客三千人ニ至ル、人人ヲシテ聞ク所ヲ著ハサシメ、呂氏春秋ト名ク、秦王政即位ノ時、甫メテ十三、太后復タ不韋ト私道ス、不韋事ノ覺ハレシコトヲ恐レ、舍人ノ嫪毐ヲ詐ハリテ宦者ト爲シ、之ヲ進メ二子ヲ生メリ、毒遂ニ封セラレテ長信侯ト爲ルニ及ヒ、常ニ曰ク、吾ハ秦王ノ假父ト、將ニ亂ヲ作シトス、而シテ秦王既ニ長シ、毒ヲ捕ヘテ車裂シ、其三族ヲ夷ケ、太后ヲ雍ニ遷シ、二子ヲ撲殺ス、事素ヨリ不韋ニ連ル、然レトモ法ヲ致スニ忍ヒス、書ヲ賜フテ之ヲ責メ、徙シテ蜀ニ處ラシム、不韋誅セラレシコトヲ恐レ、遂ニ飲ヲ飲テ死セリ。

(七) 韓非子ノ事跡ヲ記セ

謂ク韓非子ハ韓ノ諸公子ナリ。天資慧敏、幼ヨリ刑名法術ノ學ヲ喜ム。初メ李斯ト共ニ荀卿ニ學フ、斯自カラ以テ非ニ若カスト爲ス、而シテ非ハ口吃シ、遊説スルコト能ハス、善ク文ヲ作りテ其志ヲ陳ブ、當時六國漸ク微ニシテ、秦獨リ西方ニ雄視ス。非韓ノ孤弱ニシテ、日ニ削ラル、ヲ憤リ、書ヲ以テ韓王ヲ諫ム、韓王用フルコト能ハス、乃チ憤慨シテ孤憤、五蠹、說難諸篇ヲ作ル。後韓益々微ニシテ藩ヲ秦ニ稱シ、韓非ヲシテ地ヲ秦ニ納レ、璽ヲ效サシム。非因テ上書シテ、秦王ニ説ク、秦王政其才ヲ奇トシテ用井ント欲ス。時ニ李斯秦ニ客卿タリ、之ヲ疾シテ王ニ讒シ、讒ニ下シテ自殺セシム。著ハス所韓非子十餘萬言アリ。

(八) 荆軻秦王ヲ劫カセシ次第ヲ記セ

謂ク燕王喜ノ太子丹初メ趙ニ質タリ。秦王政亦タ趙ノ邯鄲ニ生レ、少時丹ト俱ニ嬉戯ス。後丹秦ニ質タリ、而シテ秦王無禮ナリ、丹怒テ亡ケ歸リ、秦ヲ怨テ之ニ報セント欲ス。會々秦ノ將樊於期罪ヲ得テ燕ニ來リ投ス。丹之ヲ舍ス、衛人荆軻ト云フ者アリ、慷慨ニシテ意氣ヲ重ンス、丹其賢ヲ聞キ、辭ヲ卑フシ、禮ヲ厚フシ、以テ之ヲ請ヒ、秦ニ遣ハサ

ント欲ス、軻、樊將軍ノ首及ヒ燕ノ督亢ノ地圖ヲ得、以テ秦ニ獻セント請フ、丹、於期ヲ殺スニ忍ヒス、軻自ラ意ヲ以テ之ヲ諷シ、且ツ曰ク、左手秦王ノ袖ヲ把リ、右手其胸ヲ刺サハ、將軍ノ仇立ロニ報シ、而シテ燕ノ耻雪カント。於期慨然トシテ遂ニ自刎ス、丹奔リ往テ伏シテ哭シ、乃チ函ヲ以テ其首ヲ盛リ、軻利ヒ首ヲ懷ロニシ、以テ往ク。軻咸陽ニ至ル、秦王政大ニ喜テ之ヲ延見ス、軻圖ヲ奉シテ進ミ、圖窮ツテ匕首見ハル、王ノ袖ヲ把テ之ヲ刺ス、未タ身ニ及ハス、王驚キ起ツテ袖ヲ絶ツ、軻之ヲ逐ヒ、柱ヲ環ツテ走ル、秦ノ法ニ群臣殿上ニ侍スル者、尺寸ノ兵亦ヲ操ルヲ得ス、是ヲ以テ左右皆手ヲ以テ之ヲ搏ツ。秦王劍ヲ拔テ軻ノ左股ヲ斷ツ、軻匕首ヲ擲ツテ中ヲス、遂ニ殺サル。

(六) 田齊亡滅ノ有様如何

謂ク襄王卒シテ子ノ建立ツ、客卿多ク秦ノ金ヲ受ケテ、爲メニ反間ヲ爲シ、攻戰ノ備ヲ修メス、五國ヲ助ケテ、秦ヲ攻ムルコトヲ爲サス、専ラ王建ニ勸メテ秦ニ朝セシム、既ニシテ、秦王政五國ヲ滅ホシテ、兵臨淄ニ入ル、王建遂ニ降ル、秦王之ヲ共ニ遷シ松柏ノ間ニ處テ、餓テ死セシム、齊人之ヲ歌フテ曰ク。松邪柏邪。住ニ建共ニ者客邪ト、秦王齊ヲ以テ郡ト爲ス、田齊大公和周ノ安主ノ命ヲ以テ侯ト爲リシヨリ、王建ニ至ルマテ七世ニシテ亡ク。

(七) 周以前ノ帝王世系ヲ記セ

三 皇

太昊伏羲氏

炎帝神農氏

黃帝有熊氏

五 帝

少昊金天氏

顓頊高陽氏

帝嚳高辛氏

帝堯陶唐氏

帝舜有虞氏

夏

(似姓安邑ニ都ス凡ソ十七世四百有餘年)

太禹

帝啓

太康

仲康

帝相

少康

帝杼

帝槐

芒帝

帝泄

帝不降

帝禹

帝廬

帝孔甲

帝皐

帝發

桀癸

商

(後殷ト云フ子姓凡ソ二十八世)

成陽

太甲

沃丁

太康

小甲

雍巳

太戊

仲丁

外壬

河澶甲

祖乙

祖辛

沃甲

祖丁

南庚

陽甲

盤庚

小辛

小乙

武丁

祖庚

祖甲

廩辛

庚丁

武乙

太丁

帝乙

紂辛

(六) 周ノ世系ヲ記セ

謂ク周ノ世系ハ姬姓ニシテ凡ソ三十四世八百七十餘年トス其歴代ハ左ノ如シ

武王 七年	成王 十七年	康王 二十六年	昭王 九年	穆王 五十五年	恭王 十二年
懿王 二十五年	孝王 十五年	夷王 十六年	厲王 五十年	宣王 四十六年	幽王 十一年
平王 五十年	桓王 三年	莊王 十五年	僖王 五年	惠王 二十五年	襄王 三十四年
頃王 六年	匡王 六年	定王 二十一年	簡王 十四年	靈王 二十七年	景王 二十五年
敬王 四十四年	元王 七年	貞定王 八年	考王 十五年	威烈王 二十四年	安王 二十六年
烈王 七年	顯王 八年	慎靓王 六年	赧王 九年	(已上)	

第二編 中古史

(二) 秦ノ始皇ノ一統ヲ記セ

謂ク秦ノ始皇帝、姓ハ嬴名ハ政、實姓ハ呂氏、翟陽ノ大賈、呂不韋ノ子ナリ、乙卯ノ年
 甫メテ十三、王位ニ咸陽ニ即ク、辛未十七年内史勝ヲ遣ハシテ韓ヲ滅シ、癸酉十九年王
 翦ヲ遣ハシテ趙ヲ滅シ、丙子二十二年王賁ヲ遣ハシテ魏ヲ滅シ、戊寅二十四年王翦ヲ遣
 ハシテ楚ヲ滅シ、己卯二十五年王賁ヲ遣ハシテ燕ヲ滅シ、庚辰二十六年王賁ヲ遣ハシテ
 齊ヲ滅シ、始メテ天下ヲ一統ス、自ラ以爲ラク、德三皇ヲ兼テ、功五帝ニ過キタリト、更
 メ號シテ皇帝ト云フ、又命ヲ制ト更メ、令ヲ詔ト更メ、自ラノ稱ヲ朕ト更ム、制シテ曰
 ク、死シテ行ヲ以テ諡ト爲スハ、是レ子ノ父ヲ議シ、臣ノ君ヲ議スルナリ、今ヨリ諡法
 ヲ除キ、朕ヲ始皇帝ト爲シ、後世ハ計ヲ以テ數ヒ、二世三世ヨリ萬世ニ至リ、之ヲ無窮
 ニ傳ヘント、遂ニ諡法ヲ除ケリ、

(三) 秦ノ疆域ヲ概示セヨ

謂ク秦ノ版圖ノ大ナルヲ前代ニ過キ、東ハ遼東朝鮮ニ及ヒ、西ハ臨洮羌中ニ至リ、南ハ
 海ニ達シ、北ハ陰山ニ至ル、黃河揚子江廣東河ノ三大河域概テ其版圖ニ入ル、之ヲ四十
 郡ニ分區スルヲ左ノ如シ、

内史、三川、河東、南陽、南郡、九江、障郡、會稽、潁川、碭郡、泗水、薛郡、東郡、琅邪、齊郡、上谷、漁陽、右北平、遼西、遼東、代郡、鉅鹿、邯鄲、上黨、太原、雲中、九原、雁門、上郡、隴西、北地、漢中、巴郡、蜀郡、黔中、長沙、閩中、南海、桂林、象郡、

(三) 李斯ノ政策ヲ聞カン

謂ク李斯ハ楚ノ上蔡ノ人ナリ、初メ韓非ト俱ニ荀卿ニ學フ、學既ニ成リ、西秦ニ遊説シテ、客卿ト爲ル、秦王政即位十年、秦ノ宗室大臣譏シテ曰ク、諸侯ノ人來テ仕フル者ハ皆其主ノ爲メニ遊説スルノミ、請フ一切之ヲ逐ハント、是ニ於テ大ニ索メテ客ヲ逐フ、李斯亦タ逐客中ニ在リ、乃チ上書シテ曰ク、昔シ穆公由余ヲ戎ニ取リ、百里奚ヲ宛ニ得塞叔ヲ宋ニ迎ヘ、丕豹、公孫枝ヲ晋ニ求メ、國ヲ并スルト二十、遂ニ西戎ニ覇タリ、孝公商鞅ノ法ヲ用ヒテ諸侯親服シ、今ニ至ルマナク治マリ疆シ、惠王張儀ノ計ヲ用ヒ、六國ノ從ヲ散シテ之ヲシテ秦ニ事ヘシメ、昭王ハ范雎ヲ得テ公室ヲ強フス、此四君ハ皆客ノ功ヲ以テス、客何ソ秦ニ負カンヤ、泰山ハ土壤ヲ讓ラス、故ニ大ナリ、河海ハ細流ヲ擇ハス、故ニ深シ、今乃チ黔首ヲ棄テ、敵國ヲ資ケ、賓客ヲ卻ケテ諸侯ヲ業ク、謂ユル寇ニ兵ヲ籍シ、盜ニ糧ヲ齎スル者ナリト、王乃チ李斯ノ言ヲ納レテ逐客ノ令ヲ除キ、其謀ヲ用テ、天下ヲ兼并ス、秦王既ニ天子トナル、丞相王綰等言ク、燕齊ノ地ハ遠ク隔タル王ヲ置カスンハ、以テ之ヲ鎮ムルコト能ハス、請フ諸子ヲ立ント、始皇之ヲ李斯ニ諮詢ス、李斯曰ク、周ノ武王封スル所ノ子弟周姓甚タ衆シ、而シテ後世疏遠ニ屬シ、相攻撃スルコト仇讐ノ如シ、今海内陛下ノ威靈ニ賴リ、一統シテ皆郡縣ト爲ル、諸子功臣賦稅ヲ以テ之ニ賞賜セハ、甚タ足テ制シ易カラシ、諸侯ヲ置クハ不便ナリト、始皇其議ヲ是トシ、天下ヲ分テテ三十六郡ト爲シ、郡毎ニ守、尉、監ヲ置テ、之ヲ統治セシム。

(四) 秦ノ始皇湘山ヲ赭ニセシ所以ヲ記セ

謂ク始皇東巡シテ鄒嶧山ニ上リ、石ヲ立テ功業ヲ頌シテ還リ、西南シテ淮ヲ渡リ、江ニ浮ンテ湘山ニ至ラントス、大風アリ、幾ント渡ルコト能ハス、博士ニ問フテ曰ク、湘君ハ如何ナル神ソ、對テ曰ク、堯ノ女舜ノ妻ト、始皇大ニ怒リ、刑徒ニ命シテ、盡ク湘山ノ樹木ヲ伐リ、其山ヲ赭ニセシム、

(五) 張良始皇ヲ狙撃セシ狀ヲ記セ

謂ク張良ノ祖父張開地及ヒ父張平、韓ノ昭侯ヨリ惠桓王ニ至ル、凡テ五世韓ニ相タリ、韓亡テ爲メニ仇ヲ報ヒント欲ス、會々始皇東遊シテ博浪沙ノ中ニ至ル、良乃ハチ力士ヲシテ鐵椎ヲ操テ、始皇ヲ撃タシム、誤テ副車ニ中ル、始皇驚テ求ムレトモ得ス、天下ニ令シテ大ニ索メシモ、遂ニ其踪跡ヲ得サリシト云フ。

(六) 始皇萬里長城ヲ築キシ所以如何

謂ク始皇北邊ニ巡遊シ、方術ノ士盧生ヲシテ海ニ入り、仙人羨門、子高ヲ求メシム、盧生符讖ノ書ヲ得テ、還リ奏シテ曰ク、秦ヲ亡ホス者ハ胡ナラント、始皇乃チ蒙恬ヲ遣ハシ兵二十萬ヲ發シテ、北方匈奴ヲ伐タシメ、河南ノ地ヲ収メテ、四十四縣ト爲シ、長城ヲ築テ、以テ匈奴ニ備フ、臨洮ヨリ起リテ遼東ニ至ル、蜿蜒トシテ延袤萬餘里ニ及ブ、威匈奴ニ振ヘリ、蓋シ胡ノ讖ハ北胡ノ謂ヒニ非ラスシテ、始皇ノ次子胡亥ナリシナリ。

編者曰ク胡ノ讖古來支那史家ノ傳フ所ナリト雖モ恐クハ盧生カ托言ニ出テシナラン而シテ始皇ノ此言ヲ信シ長城ヲ築クニ至リシトハ頗ル信ヲ匿キ難キ說ナレトモ復タ當時方術ノ士ヲ尊崇セシヨリ推想スレハ未タ必スシモ疑フヘカカサルモノ有ルニ似タリ

(七) 李斯詩書ヲ燒キシ次第ヲ記セ

謂ク始皇ノ三十四年、丞相李斯上書シテ曰ク、昔シハ諸侯並ヒ争ヒ、厚ク遊學ノ徒ヲ招ク、今ハ天下已ニ定テ法令一ニ出テ、百姓家ニ當テハ農工ヲカメ、士ハ法令ヲ學習ス、然ルニ諸主今ヲ師トセス、古ヲ學テ以テ當世ヲ誹リ、民庶ヲ惑亂シ、令ノ下ルヲ聞テハ各々其學ヲ以テ之ヲ議シ、入テハ則チ心ニ非トシ、出テハ則チ巷ニ議シ、群下ヲ率并テ以テ謗リヲ爲ス、臣請フ史官ノ奏ノ記ニ非ルモノ、及ヒ私ニ詩書百家ノ語ヲ藏スルモノ、皆守尉ニ詣ツテ、之ヲ雜ヘ燒カシ、只存スル所ノモノハ醫藥ト筮種樹ノ書ノミト、制シテ其讀ヲ可トス、是ニ於テ大ニ詩書百家ノ語ヲ天下ニ索メテ、之ヲ燒ク、

(八) 始皇儲生ヲ坑ニセシ次第如何

謂ク候生盧生ナル者アリ、相與ニ始皇ヲ誹議シテ亡ク奔ル、始皇大ニ怒テ曰ク、吾レ盧生等ヲ尊テ之ニ賜フコト甚タ厚シ、今ハ乃チ吾ヲ誹謗ス、御史ヲシテ案問セシメ、禁ヲ犯ス者四百六十餘人ヲ得タリ、皆之ヲ咸陽ニ坑ニス、長子扶蘇諫メテ曰ク、諸生皆法ヲ孔子ニ歸ス、今上法ヲ重スシテ之ヲ糾治ス、臣天下ノ安カラザランコトヲ恐ルト、始皇怒テ扶蘇ヲシテ北方蒙恬ヲ軍ヲ上郡ニ監セシメ、以テ邊地ニ處ク、

(九) 阿房宮建築ノ狀如何

謂ク始皇以爲ラク、咸陽ハ人多クシテ、先王ノ宮庭小ナリト、乃チ朝宮ヲ渭南ノ上林苑中ニ營作セントシ、先ツ前殿ヲ阿房ニ作ル、東西五百步、南北五十丈、上ニハ萬人ヲ坐スヘク、下ニハ五丈ノ旗ヲ建ツ可シ、其造構周リ馳セテ、天ノ紫宮(名星)後ノ十七星銀河ヲ總ツテ營室(名星)ニ抵ルニ象トル、乃チ殿下ヨリ直ニ南山ノ頂上ニ抵リテ、門闕ヲ作り、更ニ複道ヲ爲リテ、阿房ヨリ渭水ヲ渡リ、之ヲ咸陽ニ屬ス、其規模ノ宏大ナルコト、古來未タ其比ヲ見サル所ナリ、落成ノ後、令名ヲ擇ハント欲シテ未タ成ラズ、兵燹ニ罹ル、天下之ヲ阿房宮ト云フ、後世愚ヲ阿房ト爲ス、此ニ始マル、

(一〇) 李斯趙高遺詔ヲ矯ヒテ胡亥ヲ立テシ次第ヲ記セ

謂ク始皇即位三十七年、東方ニ巡狩シ、平原津ニ至テ病ニ罹リ、沙邱ノ平臺ニ崩ス、丞相李斯少子胡亥宦者趙高從フ、乃チ天下ク變アラシメトテ恐レ、喪ヲ秘シテ咸陽ニ還ル時ニ長子扶蘇、始皇ヲ諫メテ斥ケラレ、北方蒙恬カ軍ニ監タリ、李斯、趙高、扶蘇ノ賢明ヲ忌ミ、胡亥ト陰クニ謀テ始皇ノ扶蘇ニ賜フ書ヲ破リ、矯ハリテ遺詔ト稱シテ胡亥ヲ立テ、更ニ書ヲ爲シテ扶蘇蒙恬ニ賜ヒ、數フルニ罪ヲ以テシ、皆死ヲ賜フ、扶蘇書ヲ發ラズ、泣テ自殺セント欲ス、恬曰ク、臣三十萬人衆ニ將トシテ邊ヲ守リ、公子監タリ、此レ天下ノ重任ナリ、今一使者來ルノミ、安ソ其詐ハリニ非サルヲ知ラン、復タ請ヌテ而シテ後死スルモ未ダ暮カリタルナリト、扶蘇曰ク父ノ子ニ死ヲ賜ス、尚ホ安ソ復タ請ハシム、即チ自殺ス、而シテ恬疑テ復タ請ヘハ、命シテ之ヲ陽周ニ囚フ、恬曰ク吾レ今兵三十萬人將タリ、其勢ヒ倍叛スルニ足レリ、而シテ義ヲ守ルモノハ敢テ先人ノ教ヲ辱メスシテ、以テ先帝ヲ忘ルカサト、乃チ藥ヲ吞テ自殺ス

(一一) 二世胡亥ノ暴虐如何

謂ク二世胡亥位ニ即チ東方郡縣ヲ巡行シ、趙高ニ謂テ曰ク、人ノ世間ニ生ル、猶ホ六歳ヲ隨セテ穴隙ヲ過クルカ如シ、吾レ耳目ノ好ム所ヲ悉クシ、心志ノ樂ム所ヲ窮メテ、以テ年壽ヲ終ヘント欲ス、可ナランカ下ノ趙高曰ク、盡ク先帝ノ故臣ヲ除キ、更ニ陛下ノ親信スル所ヲ置カバ、則チ執事高クシテ志ヲ肆ニシテ、世ヲ終スルヲ寵樂セント、二世之ヲ然ラトシ、更ニテ法律ヲ爲リテ務メテ益々深刻ニシ、以テ誅戮ヲ大臣及ヒ諸公子ニ行フ、是ニ於テ天下大ニ亂レ、群雄復タ諸方ニ割據スルニ至レリ

(一二) 陳勝吳廣ノ事跡ヲ記セ

謂ク陳勝字ハ涉、楚ノ陽城ノ人ナリ、少時人ニ備ハレテ隴上ニ耕ス、嘗テ傭者ニ謂ツテ曰ク、苟モ富貴ホラハ相忘ル、コト無カラント、傭者笑テ曰ク、汝人ノ爲メニ傭耕ス、何シ富貴ナラン、涉曰ク、燕雀ハ安シソ鴻鵠ノ志ヲ知ランヤト、吳廣字ハ叔、楚ノ陽夏ノ人ナリ、嘗テ徭役ニ徵サレ、漁陽ニ戍ス、廣屯長タリ、會々大雨アリ、道通セス、乃チ徒屬ヲ召シテ曰ク、公等期ヲ失ス、法當サニ斬ラルヘシ、壯士死ナスンバ則チ止ム、死ナバ則チ大名ヲ擧ケン、王侯將相^{イッケン}種有ランヤト、衆皆之ニ從フ、二世皇帝即位元年、二人相與ニ兵ヲ鄣ニ起シ、陳勝ハ公子扶蘇ト詐ハリ、吳廣ハ公子項燕ト詐ハリ、二公子ハ共ニ始皇ノ子前キニ殺戮セラレシ者二人、藉テ以テ民ノ望ミニ從フ、大梁ノ張耳陳餘軍門ニ詣ツテ上謁ス、勝大ニ喜ヒ、遂ニ自立シテ王ト爲リ、國ヲ張楚ト號ス、諸郡縣秦ノ苛法ニ苦シミ、爭テ長吏ヲ殺シテ、以テ勝ニ應シ、威武大ニ振ヘリ、

(三) 趙王武臣ノ事跡如何

謂ク武臣ハ陳ノ人ナリ、初メ陳勝ト友トシ善シ、勝起テ楚王ト爲ルニ及ヒ、臣ヲ擧ケテ將軍ト爲シ、張耳陳餘ヲ左右ノ校尉ト爲シ、以テ趙ノ地ヲ徇ヘシム、武臣行々収メテ數萬人ヲ得、遂ニ三十餘城ヲ下シテ、自立シテ趙王ト爲ル、其翌年、臣ノ將季良太原ヲ畧シテ后邑ニ至リ、將ニ秦ノ井陘ヲ塞カントシテ、前ムコト能ハス、還テ兵ヲ益スヲ請ハントシ、道ニ武臣ノ姊出テ、飲スルニ逢フ、良望見シテ以テ王ト爲シ、道傍ニ伏謁ス、武臣ノ姊醉フテ其將タルヲ知ラス、從騎シラシテ之ニ辭セシム、良其無禮ヲ怒リ、追フテ武臣ノ姊ヲ殺シ、遂ニ邯鄲ヲ襲フテ、武臣及ヒ左丞相邵騷ヲ殺セリ、後張耳陳餘、故ノ趙王ノ遺族趙歇ヲ立テ、王ト爲ス、李良之ヲ攻メテ勝タス、秦ノ將章邯ニ降レリ、

(四) 劉邦沛公ト爲ルシ次第ヲ記セ

謂ク劉邦字ハ季、楚ノ沛郡ノ人ナリ、資性寛仁大度アリテ、家人ノ生産作業ヲ事トセス、壯ナルニ及テ、泗上ノ亭ノ長トナル、會々始皇崩シテ驪山ニ葬ル、郡縣徒ヲ出シテ役作ニ充ツ、季亦タ縣ノ爲メニ徒ヲ送リ、豐西ニ到レハ徒多ク道ニ亡ク、乃チ悉ク之ヲ解縱シテ曰ク、公等皆去レ吾亦コレヨリ去ント、其年七月陳勝兵ヲ起シテ楚王ト爲ル、郡縣コレニ響應ス、沛ノ令マタ之ニ應セント欲ス、條ノ主吏蕭何曹參等曰ク、君秦ノ吏ト爲リテ今之ニ背カント欲ス、恐クハ子弟勸カサラン、請フ諸々ノ亡ケテ外ニ在ル者ヲ召シ、以テ衆ヲ劫カセト、乃チ樊噲ニ命シテ季ヲ召サシムレハ、季ノ衆ハ已ニ數十百人アリ、令梅イテ城ヲ閉ツ、是ニ於テ季昂ニ書シ、矢ニ結ヒテ城上ヲ射、沛ノ父老ニ遺リテ、爲メニ利害ヲ陳ス、父老乃チ子弟ヲ率テ令ラ殺シ、季ヲ迎ヘ、立テ、沛公ト爲ス、時ニ秦ノ二世皇帝即位元年九月ナリ、

(五) 項梁自カラ會稽ノ守ト爲リシ始末如何

謂ク項梁ハ下相ノ人、楚ノ將項燕ノ子ナリ、嘗テ人ヲ殺シテ兄ノ子籍ト譽ヲ吳中ニ避ク、秦ノ始皇會稽ニ遊ヒテ、浙江ヲ渡リシトキ、梁籍ト俱ニ觀ル、籍其隊伍ノ堂々タルヲ見テ、梁ニ謂ツテ曰ク、彼レ取テ以テ代ルヘキナリト、梁其口ヲ掩フテ曰ク、妄言スルナカレ、族セラレント、籍字ハ羽、少時書ヲ學ブ成ラス、去テ劍ヲ學ブ又成ラス、梁怒ル、籍曰ク、書ハ以テ姓名ヲ記スルニ足ルノミ、劍ハ一人ノ敵ナリ、學ブニ足ラス、請フ萬人ノ敵ヲ學ハント、梁乃チ籍ニ兵法ヲ教フ、陳勝兵ヲ擧クルニ及ンテ、會稽ノ守般通勝ニ應セント欲シ、梁ヲシテ將タラシム、梁籍ニ通ヲ斬ラシメ、吳中ノ兵ヲ擧ケテ、下縣ヲ収メ、精兵八千人ヲ得テ、自カラ會稽ノ守ト爲ル、籍ヲ以テ裨將ト爲ス、籍時ニ年二十四、

(二六) 燕王韓廣ノ事跡ヲ問フ

謂ク韓廣ハ素ト趙ノ將ナリ、趙王武臣廣ヲシテ兵ヲ率兼、北方燕ノ地ヲ徇ヘシム、燕ノ豪傑廣ニ謂ツテ曰ク、楚趙己ニ王ヲ立ツ、燕モ亦萬乘ノ國ナリ、願クハ立テ王タレト、廣ノ曰ク、廣ノ母ハ趙ニ在リ不可ナリト、人ノ曰ク、趙ハ西方秦ヲ憂ヘ、南方楚ヲ憂フ、其力我ヲ禁スル能ハス、且ツ楚ノ疆ヲ以テ、敢テ趙王將相ノ家ヲ害セス、趙安ソノ將軍ノ家ヲ害センヤト、廣以テ然リト爲シ、乃チ自立シテ燕王ト爲ル、趙果シテ母ヲ奉シテ之ヲ燕ニ歸セリ、

(二七) 魏王咎ノ事跡ヲ記セ

謂ク楚王陳勝、其將周市ヲシテ齊ヲ徇ヘシム、是ヨリ先キ、齊ノ遺族田儼自立シテ齊王ト爲ル、市之上戰フテ利アラズ、還テ魏ノ地ヲ徇ヘ、魏ノ故ノ公子咎ヲ立テ、魏王ト爲ント欲ス、時ニ咎楚ニ在リテ魏ニ往クヲ得ス、魏ノ地已ニ定マル、衆市ヲ立テ、王ト爲サン欲ス、市肯シキス、是ニ於テ勝咎ヲ立テ、魏王ト爲シ、國ニ往カシム、市遂ニ之ニ相タス、

(二八) 項梁楚王心ヲ立テシ所以ヲ記セ

謂ク楚ノ陳勝時運ニ會シ、民間ヨリ起リテ楚王ト爲リ、儼マ在ルコト一年、其御者莊賈ヲ弑スル所ト爲ル、賈ヲ楚ヨリ起スル者ヲ項梁トス、時ニ居巢ノ人范增、年七十モシテ奇計ヲ好ク、往テ項梁ニ説テ曰ク、陳勝韓ヲ首メ、楚ノ後ヲ立テスシテ自立ス、故ニ其勢ト長カラス、今君江東ヨリ起テ、楚ノ蜂起ノ將争テ君ニ附クモノハ皆君ハ世々楚ノ將ニシテ、必ス能ク楚ノ後ヲ復立セント思ヘハナリト、是ニ於テ項梁楚ノ懷王ノ孫、心ヲ求メ得テ立テ、楚王ト爲シ、以テ民望ニ從フ、

(二九) 李斯末路ノ狀如何

謂ク鄒中ノ令趙高、秦ノ權ヲ專ラニセント欲シ、二世ニ説テ曰ク、天子ノ貴キ所以ハ、群臣ノ其聲ヲ聞テ、其面ヲ見ルコトヲ得サルヲ以テナリ、陛下ハ深く禁中ニ拱シテ、臣及ヒ侍中ノ法ニ習ヘル者ト、事ノ來ルヲ待テ之ヲ候レハ、即チ大臣ハ疑事ヲ奏セスシテ、天下ハ聖主ト稱セント、二世乃チ朝廷ニ坐セスシテ事皆高ニ決ス、高又李斯ノ聲望ヲ忌ミ、其權ヲ傾ケ、以テ自カラ代ラント欲シ、二世燕樂シテ婦女前ニ居ルニ方リ、人ヲシテ丞相李斯ニ事ヲ奏ス可シト告ケシム、斯上謁ス、二世怒テ曰ク、吾レ嘗テ間日多シ、丞相來ラス、吾レ方サニ燕私スレハ輒チ來ルト、高乃チ潛シテ曰ク、丞相ノ長男李由、三川ノ守ト爲リ、盜ト通ス、且ツ丞相外ニ居テハ、權陛下ヨリモ重シト、二世之ヲ然リトシ斯ヲ吏ニ下シ、五刑劓、劓、劓、劓、劓大辟劓、劓、劓、劓、劓ヲ具ヘテ咸陽ノ市ニ腰斬ス、斯蘇ヲ出ツルトキ、願ミテ

中子ニ謂ツテ曰ク、吾レ汝ト復タ黃犬ヲ牽キ、俱ニ上蔡ノ東門ヲ出テ、狡兔ヲ逐ハント
欲スルモ、豈得ヘケンヤト、遂ニ父子相哭シテ三族ヲ夷ケラル

(二〇) 項梁敗死ノ始末ヲ記セ

謂ク項梁東阿ヨリ西定陶ニ至ルマテニ、再度秦ノ軍ヲ破リ、項羽亦タ秦ノ將李由ヲ斬
テ、益々秦ヲ驚ンシ、驕レル色アリ、宋義項梁ヲ諫メテ曰ク、戰勝テ將驕リ、卒惰ルモ
ノハ敗ラル、今我卒少シク情ル、而シテ秦ノ兵ハ日ニ増大ス、臣君ノ爲メニ之ヲ畏ルト、
項梁聽カス、果シテ秦ノ將章部ノ爲メニ敗ラレテ死セリ、是ヨリ先キ、齊王僂魏王咎及
ヒ其相周市亦タ皆章部ト戰ツテ敗死ス

(二一) 項羽諸侯ノ上將軍ト爲リシ次第如何

謂ク秦ノ將章部大ニ項梁ノ軍ヲ破リ、乃チ北シテ趙ヲ伐ツ、趙救ヒテ楚ニ求ム、楚ノ懷
王宋義ヲ以テ上將軍ト爲シ、項羽ヲ次將トシ、范增ヲ末將トシ、趙ヲ救ハシム、宋義安
陽ニ至テ留ルコト四十六日、敢テ進マス、項藉宋義ニ疾ク兵ヲ引テ河ヲ渡ランコトヲ勸
ム、義聽カス、乃チ真帳中ニ即テ之ヲ斬リ、兵ヲ引テ河ヲ渡リ、舟ヲ沈テ蓋ヲ破リ、三
日ノ糧ヲ掃シテ以テ士卒ニ必死ヲ示シ、秦軍ト九戰シテ大ニ之ヲ鉅鹿ト下ニ破リ、王離
等々虜ニシテ、章部、重騎、司馬廣ヲ降ス、時ニ諸侯ノ軍鉅鹿ヲ救タモ、半餘壁ニシテ、

敢テ兵ヲ出スモノナシ、楚ノ軍秦ヲ擊ツニ及テ、皆壁上ヨリ之ヲ觀レハ、楚ノ戰士ハ一
ニシテ、秦ノ十二營ヲナルハナシ、籍既ニ秦ノ軍ヲ破テ諸侯ヲ召シ見ルニ、將ニ轅門ニ
入ラントシテ、膝行シテ前マサレハナク、敢テ仰キ視ルモノナシ、是ニ於テ籍給メテ諸
侯ノ上將軍ト爲リ、諸侯ノ兵皆之ニ屬ス、

(二二) 沛公張良ヲ庇將ト爲セシ次第ヲ記セ

謂ク張良少年百餘人ヲ聚メテ留ニ至リ道ニ沛公ニ遇フ、其人ト爲リヲ見テ曰ク、沛公ハ
殆ト天授ノ君ナリト、遂ニ之ニ屬ス、良數々太公ノ兵法ヲ以テ沛公ニ説ク、沛公常ニ其
策ヲ用弁良ヲ以テ庇將ト爲ス

(二三) 沛公秦ヲ滅セシ次第ヲ聞カン

謂ク初メ楚ノ懷王、諸將ト約シテ曰ク、先ツ入テ關中ヲ定ムル者ハ之ニ王タラント、而
シテ當時秦ノ兵強ク、諸將先ツ關ニ入ルヲ利トスル者ナシ、獨リ項羽秦ノ項梁ヲ殺セシ
コトヲ怨ミ、奮テ沛公ト先ツ關ニ入ランコトヲ願フ、懷王ノ諸老將皆曰ク、項羽カ人ト
爲リ、慄悍ノ猾賊ナリ、惟タ沛公ハ寬大ノ長者、遣ハス可シト、乃チ沛公ヲ遣ル、張良
之ニ從フ、行テ高陽ニ至ル、儒生酈食其入テ見エ、沛公ノ爲メニ説テ陳留ヲ下ス、沛公
大ニ秦ノ軍ヲ破リ、進テ關ニ入り霸上ニ至ル、是ヨリ先キ二世胡亥趙高ノ爲メニ弑セラ

レ、扶蘇ノ子嬰立ツ、是ニ至テ素車白馬頸ニ繫ルニ組ヲ以テシ、出テ、軹道亭ノ旁ニ降ル、秦ハ始皇二十六年ニ天下ヲ併セテヨリ、三世嬰ニ至テ亡シ、帝ト稱スルコト十有五
年ナリ

(二四) 鴻門ノ會ノ有様ヲ記セ

謂ク沛公兵ヲ遣ル、函谷關ヲ守テ諸侯ノ軍ヲ入ル、コトナシ、項羽大ニ怒リ攻メテ之ヲ破ル、范增羽ニ説テ曰ク、沛公ノ志ハ小ニアラス、急ニ擊テ失フ勿レト、羽ノ叔父項伯素ト張良ト善シ、夜馳セテ之ヲ告ク、良因テ堅ク伯ヲ要シ、入テ沛公ニ見ヘシメ、置酒壽ヲ爲シ、約シテ婚姻ヲ爲シテ曰ク、吾レ關ヲ守ル所以ノモノハ、他ノ盜ニ備フルノミ、日夜ニ將軍ノ至ルコトヲ望ム、豈敢テ反セシヤ、伯明カニ之ヲ言ヘト、伯諾シテ曰ク明且早ク自カラ來テ謝セスンハアルヘカラスト、乃チ還テ羽ニ告ケ、且ツ曰ク、人大功アリ、而シテ之ヲ擊ツハ不祥ナリ、因テ更ニ善クスルニ如カスト、羽許諾ス、沛公明且百餘騎ヲ從ヒ、來テ羽ニ鴻門ニ見ユ、羽因テ留メテ飲ム、范增數々羽ニ目シ、佩フル所ノ玉玦ヲ舉ケテ、決斷スヘキヲ示スコト三々ヒス、羽應セズ、增乃チ項莊ヲシテ劍舞セシメ、因テ沛公ヲ擊ントス、項伯モ亦タ起テ劍ヲ拔テ舞ヒ、身ヲ以テ沛公ヲ翼蔽ス、樊噲事ノ急ナクヲ聞キ、盾ヲ持シ、直ニ入テ自ヲ瞋ラシ羽ヲ視ル、頭髮上リ指シ、目眦盡ク、

羽ノ曰ク壯士大ナリト、之ニ卮酒ヲ饒肩ヲ賜フ、卮ハ四升ヲ容ルヘシ、噲飲ミ盡シ、劍ヲ拔テ歸肉ヲ切リ、亦之ヲ盡ス、羽曰ク能ク復タ飲マシカ、噲曰ク臣死スナクモ且ツ辭セズ、豈特ニ卮酒ホキ、且ツ沛公先キニ咸陽ニ入テ師ヲ稱上ニ嗾ラシ、以テ太玉ヲ待ツ大王今日小人ノ言ヲ聽キ、沛公下隕アリ、臣私カニ天下ノ大王ヲ疑ハシコトヲ恐ル、ナリト、羽默然タリ、沛公問テ得テ則ニ往キ、間道ヨリ走テ霸上ニ歸リ、張良ヲ留メテ羽ニ謝セシム、范增歎シテ曰ク、噲豈子與ニ謀ルニ足ラス、將軍ノ天下ヲ奪ハシムノハ必ス沛公ナラント、是ヨリ范增項羽ト善カラズ

(二五) 項羽軍ト爲リシコトヲ記セ

項羽歸關中ニ入テ命ヲ懷王ニ致ス、王曰ク約ノ如クセヨ、(本書二十二ヲ參照ス可シ) 羽怒テ曰ク、懷王ハ吾家ニ立ツル所、何ヲ以テカ專ラ約ヲ主トルヲ得ント、面シテ懷王ヲ伴ハリ尊テ義帝ト爲シ、羽自立シテ西楚ノ霸王ト爲ル、沛公ヲ立テ、漢王ト爲シ、魏王約ヲ徙シテ西魏王ト爲シ、趙王歇ヲ代王ト爲シ、燕王廣ヲ遼東王ト爲シ、燕將臧荼ヲ燕王ト爲シ、齊王市ヲ膠東王ト爲シ、齊ノ將田都ヲ齊王ト爲シ、田安ヲ濟北王ト爲シ、張耳ヲ立テ、常山王ト爲シ、英布ヲ九江王ト爲ス

(二六) 漢王蕭何ヲ丞相ト爲セシコトヲ記ス

漢王蕭何ヲ丞相ト爲セシコトヲ記ス

謂ク項羽既ニ立テ霸王トナリ、乃チ曰ク巴蜀モ亦關中ノ地ナリ、懷王ノ約ニ背ト沛公ヲ立テ、漢王ト爲シ、巴蜀漢中ニ王トラス、而シテ關中ヲ二分シテ、秦降將三人ヲ分封ス、章邯ヲ雍王ト爲シ、司馬欣ヲ塞王ト爲シ、董翳ヲ翟王ト爲シ、以テ漢王ヲ距塞ス、漢王怒テ羽ヲ攻メント欲ス、蕭何諫テ曰ク、願クハ大王漢中ニ至リ、其民ヲ養フテ以テ賢人ヲ致シ、巴蜀ヲ取用シ、還テ三秦ヲ定メ、天下ハ圖ルハキザリト、王其讒ヲ納レ、乃チ國に就キ、何ヲ以テ丞相ト爲ス、

(二五) 韓信の事跡ヲ聞ク

謂ク韓信ハ淮陰ノ人ナリ、初メ家貧フシテ城下ニ釣ス、漂母アリ、信カ饑フルヲ見テ一飯ヲ與フ、信曰ク吾レ必ス厚報ヲ報ス、母怒テ曰ク大丈夫食スルコト能ハス、吾レ哀ク食ヲ進ム、豈敢テ報ヲ望ムヤト、淮陰ノ難少年衆ヲ爲シ、信ヲ辱メテ曰ク、汝好テ長劔ヲ帶タルト雖モ、中情ハ怯ノミ、能ク死セハ我ヲ刺セ、死スルコト能ハス、我勝下ヨリ出テヨト、信之ヲ執視シ、蒲伏シテ勝下ヨリ出テ、一市ノ人皆信カ怯ヲ笑ス、後項梁兵ヲ起シ淮ヲ渡ルニ及テ之ニ從ヒ、數々策ヲ以テ項羽ヲ干ス、オカ用弗ラレズ、ハ漢ニ歸ス、漢以テ治粟都尉ト爲ス、數々蕭何ト語テ何ヨレテ奇トス、漢王素ト武傑ニシテ、ハ大將ヲ呼ブヨリ小兒ヲ呼ブ如クシ、王南鄭ニ至ル、將士多ク亡クルモ、ハアリ、韓信モ亦亡グ、蕭何之ヲ追フ、人々曰ク丞相何亡グト、王怒ル、已ニシテ何還ル至怒テ曰ク、汝亡クルコト何ゾヤ、蕭何曰ク、韓信ヲ追フニ、生曰ク、諸將亡ノルモ、ハ十ヲ以テ數フ、公追テ所ナシ、而シテ獨リ信ヲ追フトハ誰ハリナラシ、何曰ク、諸將ハ得易キモノ、信ハ國士無双ナリト、遂ニ天下ヲ爭フメント欲セ、ハ必ス信ヲ用ルニキヤラ説ク、王乃チ韓信ヲ拜シテ大將トセリ、時ニ蕭何内ニ在リテ巴蜀ノ租ヲ收メテ軍糧ヲ給シ、張良唯唯ニ在リテ軍器ヲ制シ、韓信外ニ在リテ攻伐ヲ專ラニス、世之ヲ漢ノ三傑トス、

(二六) 項羽義帝ヲ弑セシコトヲ記ス

謂ク項羽關ヲ出テ、人ヲシテ義帝ト言ハシメテ曰ク、古ノ帝者ハ地方千里ニシテ、必ス上游ニ居ル、乃チ長沙ト郴縣ト徒シ行テ越カス、群臣稍々倍叛スルモノアリ、而シテ羽陰カニ衡山王吳芮、臨江王共敖ヲシテ之ヲ江中ニ擊殺セシム、項羽畢世ノ失策ハ實ニ此舉ニ在リ、而シテ漢王之ヲ罪スルヲ口實ト爲シ、以テ軍勢ヲ壯シニセリ、

(二七) 陳平ノ事跡ヲ問フ

謂ク陳平字ハ孺子陽武ノ人ナリ、家貧フシテ好テ書ヲ讀ム、里中ノ社ニ、平宰ト爲テ、肉ヲ分ツコト甚タ均シ、里ノ父老ノ曰ク、善シ陳孺子ノ宰タルコトヤト、平曰ク平ヲシ

天下ヲ宰スルヲ得セシメハ、亦此肉ノ如クナラシト、魏無知ニ因テ漢王ニ見エ、漢王
 準ヲ以テ都尉ニ拜シ、驃乘典護軍タラシム、周勃曰ク、陳平美カリト雖モ、冠玉ノ外ニ
 好光アリテ、内ニ有ル所ナキカ如シ、平家ニ居ルトキ、其嫂ヲ盜シ、今護軍ト爲テ、多
 ク諸將ヲ金ヲ受クト、漢王乃チ無知ヲ讓ヒ、無知曰ク、臣ノ言フ所ノモノハ能ナリ、陛
 下ノ問フ所ノモノハ行ナリ、今漢楚相對峙ス、臣奇謀ノ士ヲ進ムルモノハ、願フニ其計
 國家ノ事ヲ利スルニ足レテ以テナリ、嫂ヲ盜ミ金ヲ受ク、何ゾ疑フニ見ラザヤト、陳平
 張良ト共ニ常ニ帷帳ニ在テ策略ヲ臣ズリ、後來高帝曰登ノ國ミヲ既セシモ、平ノ謀ニ出
 二、平高帝ヲ從ヒ、前後六タビ奇謀ヲ出セリ、人コレヲ陳平ノ六奇ト云フ

(三〇) 漢王初メテ項羽ヲ討セシ次第ヲ記セ

謂ク漢王洛陽ニ至ル、新城ノ三老三老トハ郡ノ教化盡公ニ進リ説テ曰ク、項羽無道ニシ
 テ其主ヲ放弑ス、天下ノ賊ナリ、夫レ仁ハ勇ヲ以テモス、義ハ力ヲ以テモス、大王宜シ
 ク三軍ノ衆ヲ率テ之ヲ爲メニ素服シ、以テ諸侯ニ告ケテ羽ヲ伐タバ、則チ四海徳ヲ仰
 カサルハナラシト、是ニ於テ漢王義帝ノ爲メニ喪ヲ發シ、諸侯ニ告ケテ曰ク、天下共ニ
 義帝ヲ立テ、北面シテ之ニ事フ、今羽放弑ス、大道海道ヲリ、寡人悉ク關中ノ兵ヲ發シ、
 三河ノ兵ヲ収メ、願フ諸侯偵ニ從ヒ、楚ノ義帝ヲ弑スル者ヲ擊シト、天下之ヲ義ト
 女曰諸侯將士ヲ漢ニ遣リ、以テ楚ヲ伐スリ

(三一) 張良六國ノ後ヲ立タル不可論事ヲ問フ

謂ク酈食其漢王ニ説クニ、六國ノ後ヲ立テ、楚ノ權ヲ撓ムルヲ以テス、漢王其議ヲ是ト
 シ、越カシテ、六國ノ印璽ヲ刻シ、會々張良來リ謁ス、王方ニ食ス、王具サニ食其
 議ヲ良ニ告ク、良曰ク、請フ前箸ヲ借テ以テ之ヲ籌ラシ、今天下ノ游士來リテ大王ニ
 從フ者、日夜ニ呖尺ノ地ヲ望メバナリ、然ルニ六國ノ後ヲ立テバ、游士各々歸テ其主
 ニ事ヘシ、大王誰レト與ニ天下ヲ取ラントスルカト、漢王食ヲ輟メ哺テ吐テ曰ク、豈儒
 幾シト乃公ノ事ヲ敗ルト、速カニ印ヲ銷セシム

(三二) 陳平楚ノ項王范增ヲ離間セシコトヲ問フ

漢王陳平ニ謂テ曰ク、天下紛々何レノ時カ定マルト、平曰ク、項王ハ恭敬ニシテ人ヲ愛
 ス、然レトモ功ヲ賞シ爵邑ヲ行フニ至テハ、之ヲ難ニス、大王ハ慢ニシテ禮少ナシ、然
 レ能ク人ヲ賞シ、功ヲ行フニ爵邑ヲ以テス、誠ニ各々兩短ヲ去テ、而シテ兩長ヲ集メ
 ハ、天下ハ指麾シテ即チ定マラン、今項王ノ骨髄ノ臣ハ、范增ノ輩數人ノミ、能ク金ヲ
 指テ、反問ヲ行テ以テ其心ヲ疑ハシメ、因テ兵ヲ擧ケテ之ヲ攻メハ、楚ヲ滅スコト必セ
 リト、漢王乃チ黃金四萬斤ヲ出シテ、陳平ノ爲ス所ニ任カス、是ニ於テ陳平多ク反問ヲ

楚ニ縦ツテ曰ク、増等功多ケレトモ、地ヲ裂テ王タルコトヲ得ス、漢ト共ニ項氏ヲ滅シ、其地ヲ分ケテ王タラント欲スト、項羽果シテ之ヲ疑ヒ、使者ヲ漢ニ遣ハス、漢人爲メニ太牢ノ具ヲ爲リ、之ヲ饗セントシテ、楚ノ使者ヲ熟視シ、佯ハリ驚テ曰ク、范亞父ノ使ニアラスト、乃チ持テ去リ、更ニ惡草具ヲ以テ之ヲ饗ス、使者歸テ羽ニ告ク、羽大ニ范増ヲ疑フ、范増羽ニ漢王ヲ榮陽ニ攻ムルコトヲ勸ム、羽聽カス、范増大ニ怒テ楚ヲ去リ道ニ死ス

(三) 韓信齊ヲ破リシコトヲ記セ

謂ク漢王韓信ヲシテ齊ヲ伐タシム、已ニシテ酈食其齊王廣ニ説キ、守兵ヲ罷メ漢ト和セシム、辨士酈徹韓信ニ説テ曰ク、將軍詔ヲ受ケテ齊ヲ伐ツ、今酈生一士、軾ニ伏シ三寸ノ舌ヲ掉ツテ、齊ノ七十餘城ヲ下ス、將軍數萬ノ衆ヲ以テ、歲餘ニシテ乃チ趙人五十餘城ヲ下ス、將タルコト數歳ニシテ、反テ一豎儒ノ功ニ如カサルカト、信コレヲ然ルトシ、遂ニ齊ヲ襲ヒ破ル、齊王食其ノ、己ヲ賣ルヲ怒リ、之ヲ養テ高密ニ走ル

(三) 韓信齊王廣ヲ虜ニセシコトヲ問フ

謂ク齊王廣、軍敗レテ東ニ走ル、韓信之ヲ追フ、楚ノ項王龍且ヲシテ之ヲ救ハシム、或人曰ク、龍且、楚ノ將也、龍且曰ク、信、漂母ニ寄食シテ身ヲ賣クルノ策ナク、辱ヲ袴下ニ受ケテ人ヲ兼スル勇ナシ、畏ル、ニ足ラスト、進テ信ト澠水ヲ夾テ陣ス、信、夜、

人ニ沙ヲ糞ニシテ、水ノ上流ヲ塞カシメ、且ツ兵ヲ引テ渡リ擊チ、佯ハリ敗レテ還リ走ル、龍且喜テ曰ク、吾固トヨリ信ノ怯ヲ知ルト、遂ニ水ヲ渡テ之ヲ追フ、信乃チ人ヲシテ沙糞ヲ決セシム、水大ニ至ル、而シテ龍且ノ軍渡ルモノ末々半ハニ至ラス、急ニ擊テ且ヲ殺シ、齊王廣ヲ虜ニス、是ニ於テ齊ノ相田橫自立シテ齊主ト爲ル、漢ノ將灌嬰擊テ之ヲ走ラス

(三) 漢王韓信ヲ立テ、齊王ト爲セシ次第ヲ問フ

謂ク韓信既ニ齊ニ勝チ、人ヲシテ漢王ニ言ハシメテ曰ク、齊ノ人僞詐ニシテ、變多シ、請フ假王ト爲テ以テ之ヲ鎮メント、漢王怒ル、陳平張良後ニ伏シ、王ノ足ヲ躡ミ、耳ニ附テ語ク、漢王悟テ復タ罵テ曰ク、大丈夫諸侯ヲ定メハ即チ眞王ト爲レ、何ソ假ヲ以テスルヲ爲ント、遂ニ信ヲ立テ、齊王ト爲シ、其兵ヲ徵シテ楚ヲ伐タシム、項羽龍且ノ死ヲ聞テ大ニ懼レ、武涉ヲシテ信ニ説カシメテ曰ク、漢ニ反シテ楚ト連和シ、天下ヲ三分シテ之ニ王タラント、信謝シテ曰ク、臣項王ニ事ヘテ言ハ聽カレス、計ハ用非ラレヌシテ漢ニ歸ス、漢王我ニ上將軍ノ印ヲ授ケ、衣ヲ解テ我ニ衣セ、食ヲ推シテ我ニ食ハシム言ハ聽カレ、計ハ用非ラル、夫レ人深ク我ヲ親信シテ、我コレニ倍クハ不祥ナリ、幸ニ

信ノ爲メニ項王ニ謝セヨト、辨士闕徹、亦々鼎足ニ居テ天下ニ王タルヲ勸ム、信遂ニ聽カス、

(三六) 垓下ノ役ヲ記セ

謂ク楚、漢ト對峙スルコト數年、項羽勢ヒ漸ク微ニシテ遂ニ戰ヘ敗レ奔テ垓下ニ壁ス、漢王韓信彭越等ト之ヲ攻ムルコト急ナリ、羽敗績シテ壁ニ入ル、漢軍之ヲ圍ムコト數重、羽夜四面ノ皆楚歌ナルヲ聞キ、驚テ曰ク、漢已ニ楚ヲ得タルカ、何シ楚人ノ多キヤト、乃チ起テ帳中ニ飲シ、虞美人ニ命シテ起テ舞ハシム、羽悲歌慷慨シテ淚數行下ル、其歌ニ曰ク、力拔^キ山^ノ兮^ノ氣^ヲ蓋^フ世^ヲ。時^ヲ不^レ利^ナ兮^ノ難^ク不^レ逝^カ。難^ク不^レ逝^カ兮^ノ可^ク奈^ラ何^ト。虞^兮虞^兮奈^ラ何^ト。若^ク何^ト。左^ノ右^ノ皆^テ泣^ク。乃チ夜ニ乘シ、八百餘騎ヲ從ヒテ、圍ヲ潰テ南ニ出テ、淮ヲ渡ラントシテ迷テ道ヲ失ヒ、大澤中ニ陷ル、漢ノ追兵之ニ及ブ、東城ニ至テ僅カニ二十八騎アリ、且ツ戰ヘ且ツ走リ、東シテ烏江ヲ渡ラント欲ス、烏江ノ亭長船ヲ艤シテ待チ、羽ニ謂ツテ曰ク、江東小ナリト雖モ亦王タルニ足ラン、願クハ急ニ渡レト、羽曰ク、籍江東ノ子弟八千人ト江ヲ渡テ西ス、今一人ノ還ルモノナシ、縱令江東ノ父兄、我ヲ憐テ王トスルモ、我何ノ目面アツテカ復タ見ヘント、乃チ自刎シテ死セリ、是ニ於テ楚ノ地悉ク定マル、漢王乃チ皇帝ノ位ニ即キ、韓信ヲ改メ封シテ楚王ト爲シ、彭越ヲ梁王ト爲ス、

(三七) 齊玉田横ノ末路如何

謂ク漢王既ニ皇帝ノ位ニ即テ、天下皆之ヲ宗トス、時ニ故ノ齊王横、遁レテ海島ノ中ニ居ル、帝其亂ヲ爲サンコトヲ恐レ、其罪ヲ赦シ、之ヲ召シテ曰ク、横來レ、大ハ王トセシ、小ナルモ侯トセン、來ラヌンハ兵ヲ擧ケテ誅ヲ加ヘント、横乃チ二客ト洛ノ陽客舍ニ至リ、其客ニ謂テ曰ク、横初メハ漢王ト俱ニ南面シテ孤ト稱ス、今漢王ハ天子タリ、面シテ横ハ亡虜タリ、北面シテ之ニ事アルコト其耻甚シト、遂ニ自到ス、二客首ヲ奉シ使者ニ從ヒ入テ之ヲ秦ス、帝乃チ王ノ禮ヲ以テ之ヲ葬ル、既ニ葬テ二客モ自到シ、餘ノ五百人島中ニ在ル者、之ヲ聞テ亦自殺セリ、

(三八) 漢ノ高帝都ヲ長安ニ定メシ所以ヲ問フ

謂ク齊ノ人龔敬、洛陽ニ來リ帝ニ説テ曰ク、陛下洛陽ニ都スルハ、周室ト隣ヲ比セント欲スルカ、洛陽ハ天下ノ中心ニシテ、德アレハ以テ玉タリ易ク、德無ケレハ以テ亡ヒ易シ、秦ノ地ハ山ヲ被ムリ河ヲ帶ヒ、四塞以テ固シト爲ス、卒然ニ急アレハ、百萬ノ衆立ロニ具フ可シ、此レ天下ノ亢ヲ握テ、而シテ其背ヲ觸ナリト、帝以テ張良ニ問フ、良曰ク、洛陽ハ四面ニ敵ヲ受ク、武ヲ用エルノ國ニアラス、關中ハ穀關ヲ左ニシ、隴西ヲ右ニシテ沃野千里、三面山ヲ繞ラシテ、獨リ一面東方諸侯ヲ制ス可シ、此レ所謂金城天府

ノ國ニシテ、敬ノ説ハ是ナリト、帝即日車駕ヲ西シテ長安ニ都ス、敬ヲ郎中ニ拜シ姓ヲ劉氏ト賜フ

(三九) 張良退隱ノ狀ヲ記セ

謂ク張良始メ高帝ニ留ニ遇ヘシヨリ、常ニ奇計ヲ出シテ帝ヲ佐ケ天下ヲ定ム、帝功臣ヲ封スルトキ、良ヲシテ自ラ齊ノ三萬戸ヲ擇ハシム、良曰ク、臣始メ陛下ト留ニ遇シ、此レ天、臣ヲ以テ陛下ニ授クルナリ、留ニ封セラレナハ足ラント、乃チ留ニ封セラル、帝皇敬ノ説ヲ用弁、都ヲ長安ニ遷スヤ、良從ツテ關中ニ入ル、而シテ性病多シ穀ヲ辟ケ門ヲ閉チ、出テスシテ曰ク、吾家世々韓ニ相トシ、韓ノ爲メニ警ヲ報フ、今三寸ノ舌ヲ以テ帝者ノ師トナリ、萬戸侯ニ封セラレ、列侯ニ位ス、此レ布衣ノ極ニシテ、良ニ於テ足レリ、願クハ人間ノ事ヲ棄テ、赤松子神農ノ時ノ仙人ノ號ナリニ從フテ遊ハント欲スルノミト、遂ニ颯然去テ山中ニ入ル、

(四〇) 高帝楚王信ヲ淮陰侯ニ貶セシ次第ヲ記セ

謂ク韓信垓下ノ役ノ功ヲ以テ、齊王ヨリ楚王ニ遷シ、信楚ニ至リ漂母ヲ召シテ千金ヲ賜セ、又嚮キニ已ツ辱ムル少年ヲ召シテ中尉ト爲ス、諸將ニ告ケテ曰ク、此レ壯士ナリ、我ヲ辱ムル時ニ方ケ、之ヲ殺スコト能ハサルニアラス、之ヲ殺スニ名ナシ、故ニ忍テ此事ヲ成セリト信國ニ在テ出入兵ヲ陳ス、人アリ高帝ニ告ケテ曰ク、信將ニ反セントスト、高帝陳平ノ計ヲ以テ、巡狩シテ諸侯ヲ會シ、雲夢ニ遊ブ、信來リ謁ス、帝武士ニ命シ、信ヲ縛シテ後車ニ載ス、信歎シテ曰ク、果シテ人ノ言ノ如シ、狡兔死シテ走狗烹ラレ、高鳥盡キテ良弓藏レ、敵國破レテ謀臣亡ブ、天下已ニ定マレリ、我將ニ烹ラルヘント、行テ洛陽ニ至レハ、信ヲ赦シテ淮陰侯ト爲ス、信病ト稱シテ朝從セス、居常怏怏トシテ周勃灌嬰等ト列スルヲ羞ツ、是ヨリ韓信高帝ヲ恩トセス、

(四一) 高帝蕭何ノ功ヲ第一ニ論セシ事ヲ問フ

謂ク高帝既ニ天下ヲ定メテ、功ヲ論シ、封ヲ行フ、蕭何ノ功盛ナルヲ以テ鄼侯ニ封シ、食邑最モ多シ、功臣皆曰ク、何ハ未タ嘗テ汗馬ノ勞アラス、然ルニ反テ臣等ノ上ニ居ルハ何ゾヤ、帝曰ク諸君獵ヲ知レルカ、獸兔ヲ追殺スルモノハ狗ナリ、發縱シテ指示スルモノハ人ナリ、今諸君ハ徒ニ能ク走獸ヲ得タルノミ、功ハ狗ナリ、何ハ發縱シテ指示ス、功ハ人ナリト、群臣敢テ言フコトナシ、

(四二) 高帝雍齒ヲ什方侯ニ封セシ所以ヲ問フ

謂ク高帝既ニ大功ノ臣二十餘人ヲ封シ、其餘ハ功ヲ争フテ決セス、帝一日洛陽ノ南宮ニ在テ、諸將ノ相與ニ沙中ニ坐シテ語ルヲ望見シ、張良ニ謂テ曰ク、此レ何ヲカ語ルト、良

曰ク、陛下此屬ヲ以テ天下ヲ取り、今封スル所ハ皆故人ニシテ、誅スル所ハ皆怨讐ナリ、故ニ相聚テ反ヲ謀ルノミト帝ノ曰ク、之ヲ爲スコト如何ンカセン、良曰ク、陛下ノ平生憎ム所ニシテ群臣ノ共ニ知レル所ハ誰カ最モ甚シキ、帝曰ク雍齒ナリト、良曰ク、今急ニ先ツ齒ヲ封セハ、則チ人人自ラ安ジセント、是ニ於テ齒ヲ什方侯ニ封ス、群臣皆喜テ曰ク、雍齒スラ尙ホ侯ト爲ル、我屬ハ患ナシト

(三) 高帝白登ニ圍マレシ次第ヲ記セ

謂ク韓ノ襄王ノ孽孫ニ信ト云フ者アリ、淮陰侯韓信ト異ル漢ニ歸ス、漢以テ韓王ト爲ス晉陽ニ都ス、初ノ匈奴秦ノ威武ニ畏レ、遠ク漢北ニ逃レシカ、中原再々亂ル、ニ及テ、來テ韓ヲ圍ム、王韓信數々使ヲ遣ハシ、和ヲ匈奴ニ求ム、高帝之ヲ疑ヒ書ヲ賜ヒテ信ヲ責讓ス、信誅ヲ恐レテ匈奴ニ走リ、匈奴ノ冒頓ト共ニ入テ漢ヲ攻ム、高帝自カラ將トシテ之ヲ伐ツ、冒頓萬餘騎ヲ率テ漢ト戰ヒ、伴ハリ走ル、帝人ヲシテ冒頓ヲ視セシムルニ、還リ報シテ曰ク、擊ツヘシト、更ニ劉敬ヲ遣ハスニ、敬還リ報シテ曰ク、徒ニ羸瘠ノ老弱ヲ見ル、必ス伏兵アラン、擊ツヘカラスト、帝怒リ敬ヲ嘗テ曰ク、齊奴劉敬ハ齊ハ口舌ヲ以テ官ヲ得タリ、今乃チ妄言シテ我軍ヲ沮ムト、敬ヲ械繫シテ平城ニ至レハ、冒頓精兵四十萬騎ヲ縱ツテ、帝ヲ白登ニ圍ムコト七日、帝陳平ノ秘計ヲ用テ厚ク匈奴ノ閼氏ニ賂ヒシ、僅カニ圍ミヲ解クヲ得タリ、帝廣武ニ至リ、敬ヲ赦シテ曰ク、吾レ公ノ言ヲ用非スシテ以テ平城ニ困メリト、乃チ敬ヲ封シテ建信侯ト爲シ、平ヲ更メ封シテ曲逆侯ト爲セリ

(四) 漢匈奴ト和親ヲ結ヒシ次第ヲ聞カン

謂ク高帝兄ノ喜ヲ封シテ代王ト爲ス、匈奴ノ冒頓強大ニシテ、控弦ノ士三十餘万アリ、盡ク北夷ヲ服從シテ、南方漢ト敵國タリ、是ニ至テ大舉入寇シ、大ニ代王喜ノ軍ヲ破テ之ヲ走ラス、是ヨリ連年漢ニ寇シ、數々北邊ヲ苦ム、劉敬高帝ニ説テ曰ク、冒頓ハ武ヲ以テ服スヘカラスト、誠ニ公主ヲ以テ之ニ妻ハセ、子ヲ生マハ必ス太子ト爲サン、冒頓死シ太子位ニ即カハ、豈敢テ外孫ノ大父ニ抗禮スルコトアランヤト、高帝乃チ家人ノ兒女ヲ取テ名ケテ長公主ト爲シ、劉敬ヲ遣ハシテ以テ冒頓ニ妻ハシ、長ク匈奴ト和親セリ、

(五) 高帝齊楚ノ大族豪傑ヲ關中ニ移セシ所以ヲ問フ

謂ク劉敬高帝ニ説テ曰ク、關中ハ北方匈奴ニ近フシテ、東方ニ疆族アリ、願クハ六國ノ後及ヒ豪傑ノ名家ヲ徙シテ關中ニ居カン、天下事ナケレハ以テ匈奴ニ備フヘク、變アレハ率非テ以テ東伐スヘシ、此レ本ヲ強クシ末ヲ弱クスルノ術ナリト、是ニ於テ楚ノ昭、屈、景、三氏齊ノ懷、田二氏、及ヒ豪傑ヲ關中ニ徙シテ、田宅ヲ與フルコト凡ソ十萬

(四六) 呂后韓信ヲ夷滅セシ事ヲ問フ

謂ク初メ陳豨、代ノ相ト爲リ、任ニ赴カントシテ信ニ辭別ス、信其手ヲ把リ左右ヲ辟ケテ曰ク、公居ル所ノ地ハ天下精兵ノ處ナリ、公畔カハ吾レ中ヨリ起ラン、天下ハ圖ルヘキナリト、豨曰ク、謹テ教ヲ奉セント、十年ニシテ豨果シテ反シ、自立シテ代王ト爲ル、高帝自カラ將トシテ之ヲ伐ツ、信病ト稱シテ從ハス、偶々信ノ舍人罪ヲ信ニ得タリ、信囚ヘテ之ヲ殺サント欲ス、舍人ノ弟變ヲ上言シ、信反セント欲スルノ狀ヲ告ク是ニ於テ呂皇后相國蕭何ト謀リ、詐テ豨敗死スト言ヒ、信ヲ欺テ入テ賀セシメ、武士ニ命シテ信ヲ縛シ之ヲ斬ル、信歎シテ曰ク、吾レ蒯徹ノ謀ヲ用弁ス、乃チ兒女子ノ詐ハル所ト爲ルヲ悔フ、豈ニアラスヤト、呂后遂ニ信ノ三族ヲ夷ケリ

(四七) 樊噲闕ヲ排シテ高帝ヲ諫メシコトヲ問フ

謂ク高帝禁中ニ臥シ、戶ヲ守ル者ニ詔シテ、群臣ニ入ルヲ得ルコト無カラシム、樊噲之ヲ聞キ、闕ヲ排シテ直ニ入り、帝ノ獨リ幸スル所ノ宦者ノ股ニ枕シテ臥スルヲ見ル、噲流涕シテ曰ク、始メ陛下臣等ト豐沛ヨリ起リテ天下ヲ定ム、何ソ其レ壯ンナルヤ、今天下已ニ定テ又何ソ慮ルヤ、陛下獨リ趙高ノ事ヲ見サルカト、高帝笑テ起ク

(四八) 高沛帝宮ニ置酒セシ有様ヲ問フ

謂ク淮南布王叛ス、高帝自ラ將トシテ伐テ之ヲ殺シ、還テ道、沛邑ヲ過ク、乃チ沛宮ニ置酒シ、悉ク故人父老子弟ヲ召シテ宴ニ待セシム、酒酣ニシテ、帝筑ヲ擊テ歌テ曰ク、大風起兮雲飛揚、威加海内兮歸故郷。安得猛士兮守四方。ト因テ起テ舞ヒ、沛ノ父老ニ謂テ曰ク、游子ハ故郷ヲ悲ム、吾レ關中ニ都スト雖モ、萬歳ノ後ハ魂魄猶ホ沛ヲ思ハント、遂ニ沛ヲ以テ湯沐ノ邑ト爲ス

(四九) 高帝蕭何ヲ獄ニ下セレ所以ヲ問フ

謂ク相國蕭何、長安地狹フシテ、上林ノ中ニ多ク空地ノ荒棄セラル、モノアルヲ以テ、民ニ入テ田ツクルコトヲ得セシメント請フ、帝怒テ曰ク、相國多ク民ノ財物ヲ受クト、廷尉ニ下シテ之ヲ械繫ス、王衛尉曰ク、民ニ便アツテ之ヲ請フハ、眞ノ宰相ノ事ナリ、且ツ陛下楚ヲ拒クコト數歳ニシテ、相國關中ヲ守レリ、關中足ヲ搖カセハ、則チ關西ハ陛下ノ有ニアラス、相國此時ヲ以テ利ヲ爲サスシテ、乃チ賈人ノ金ヲ利センヤト、帝赦シテ之ヲ出シテ曰ク、相國民ノ爲メニ吾死ヲ請フテ許サレス、我レ桀紂ノ主タルニ過キスシテ、相國ハ賢相タリ、吾レ故ニ相國ヲ繫キ、百姓ニ吾過チヲ聞カシメント欲セシナリト

(五〇) 高帝呂后ニ遺詔セシ語如何

謂ク高帝、淮南王布ヲ伐テ流矢ニ中リ、疾甚シ、呂后問テ曰ク、陛下百歳ノ後、蕭相國死セハ誰レヲ以テカ之レニ代フヘキ、曰ク曹參、其次ハ、曰ク王陵、然レトモ少シオホカ戀ナリ、陳平以テ之ヲ助クヘシ、平ハ智餘リアリ、然レトモ獨リ任シ難シ、周勃ハ重厚ニシテ文少ナシ、太尉タラシムヘシ、劉氏ヲ安ニスル者ハ勃ナラン、復タ其次ヲ問フ、帝曰ク、此後ハ乃カ知ル所ニアラサルナリト、遂ニ崩ス

(五一) 曹參ノ治績ヲ問フ

謂ク相國蕭何卒シテ曹參コレニ代ハル、參事ヲ舉ケテ一ニ蕭何ノ制規ニ遵ヒ、日夜酒ヲ飲テ事ヲ治メス、惠帝參ヲ讓ム、參冠ヲ免テ謝シテ曰ク、陛下自ラ察スルニ、聖武ハ高帝ニ孰カ、臣ハ蕭何ノ賢ニ孰レカ、高帝蕭何ト天下ヲ定メテ、法令既ニ明カナリ、遵フテ之ヲ失フナクンバ亦可ナラスヤト、參相タルコト三年、百姓之ヲ歌テ曰ク、蕭何爲法、較若畫一。曹參代之。守而勿失。載其清淨。民以寧一。以テ其治績ヲ察スルニ足ルベシ

(五二) 王陵諸呂ノ王ニ封セルヲ拒ミシ議ヲ問フ

謂ク惠帝崩シテ呂太后朝ニ臨ミ、諸呂ヲ立テ、王ト爲サンコトヲ議ス、相國王陵曰ク、高帝白馬ヲ斬テ盟テ曰ク、劉氏ニアラスシテ王タル者アラハ、天下共ニ之ヲ擊テト陳平、周勃亦陵ノ議ヲ可ト爲ス、議遂ニ罷ム

(五三) 諸呂漢ノ權ヲ収メシ原因ヲ問フ

謂ク呂太后嘗テ諸呂ニ權勢ヲ與ヘント欲ス張良ノ子辟疆、陳平ニ謂テ曰ク、惠帝壯子無フシテ、太后君等ヲ畏ル、今請フテ呂台呂産ヲ拜シテ將ト爲シ、南北軍ニ居ラシメヨ、諸呂内ニ居テ事ヲ用フルコト此ノ如クンハ、太后ノ心ハ安カラシ、君等禍ヲ脱スルヲ得ヘシト、陳平之ニ從フ、而シテ諸呂ノ權ハ此ヨリ起レリ

(五四) 呂氏ノ亂トハ如何

謂ク呂太后、呂台呂祿ヲ相繼テ北軍ノ將ト爲シ、呂産ヲ南軍ノ將ト爲ス、兵馬ノ權全ク諸呂ニ歸シテ、太尉周勃兵ヲ主トルコト能ハス、諸呂遂ニ亂ヲ企テ陰カニ漢ヲ奪ハンコトヲ謀ル、已ニシテ太后崩ス、朱虛侯劉章ハ齊王肥ノ子高帝ノ孫ナリ、入テ漢ニ宿衛シ、呂祿ノ女ヲ娶リテ其陰謀ヲ知ル、太后ノ崩スルヤ、其發セサルニ先ダテ、兄齊王襄ニ告ケテ兵ヲ發シテ西セシメ、而シテ已レ内應ヲ爲シ、東西夾ミ擊テ諸呂ヲ誅セントス、是ニ於テ呂産等灌嬰ヲ將トシ、東シテ齊ヲ擊タシム、灌嬰榮陽ニ至リ謀テ曰ク、諸呂劉氏ヲ危フセント欲ス、今我レ齊ヲ破ラハ、是レ其資ヲ益スナリ、乃チ齊王ト連和シ、以テ

呂氏ノ變ヲ待チ、共ニ之ヲ誅セントスト、陳平モ亦計ヲ以テ鄭寄ヲシテ呂祿ニ説キ、兵ヲ以テ周勃ニ授ゲシム、勃乃チ軍門ニ入り令シテ曰ク、呂氏ノ爲メニスルモノハ右祖セヨ、劉氏ノ爲メニスルモノハ左祖セヨト、軍中皆左祖ス、勃遂ニ此軍ニ將トシ、齊王襄、劉章、陳平等ト共ニ諸呂ヲ捕ヘテ少長トナク皆之ヲ斬ル、高帝ノ遺詔ニ、劉氏ヲ安ニスルモノハ勃ナラント、此ニ至テ驗アリ

(五) 文帝ノ治世ヲ問フ

謂ク文帝名ハ恒高帝ノ中子ナリ、始メ代ニ封セラル、諸大臣諸呂ヲ誅シ、帝ヲ迎テ位ニ即カシム、帝恭儉ニシテ徳ヲ以テ民ヲ化ス、即位ノ初メ養老ノ令ヲ定メ、又誹謗ノ法ヲ除テ衆臣ニ情ヲ通セシム、賈誼、鼂錯ヲ舉ケテ政ヲ問ヒ、張釋之ヲ以テ廷尉ト爲シ、申屠嘉ヲ以テ丞相ト爲ス、釋之法ヲ執ルコト八年、刑罰私ナク、嘉剛直ニシテ風俗矯正ス、百姓ニ田租ヲ賜フコト前後兩度、戸々給シ人々足り、天下大ニ治マル

(六) 七國ノ反トハ如何

謂ク文帝崩シテ景帝立ツ、帝未タ太子タリシ時ヨリ、鼂錯大ニ親愛セラル、錯人ト爲リ峭直ニシテ智囊ト稱セラル、嘗ツテ山東諸侯ノ強大ニシテ制スヘカラサルヲ慨キ、其地ヲ削リテ以テ弱メント欲ス、會々吳王濞朝セズ、錯曰ク、之ヲ削ルモ反シ、削ラサルモ亦反セント、吳ノ地ヲ削ルニ及テ吳、膠東、膠西、菑川、濟南、楚、趙ノ七國錯ヲ誅スルヲ以テ名ト爲シ、兵ヲ舉ケテ同ク反ス、錯素ト吳ノ相袁盎ト善カラス、盎帝ニ見エ錯ヲ讒シテ曰ク、錯議シテ吳楚ノ地ヲ削ルヲ以テ反ス、今獨リ錯ヲ斬ラハ、及ニ血ヌラスンテ俱ニ罷ムヘント、帝即チ錯ヲ誘ヒ出シテ市ニ腰斬ス、僕射鄧公上書シテ曰ク、吳ノ反計ヲ爲スハ數十歳ナリ、怒ヲ地ヲ削ルニ發シ、錯ヲ誅スルヲ以テ名ト爲スハ、其意錯ニアラサルナリ、夫レ錯ノ地ヲ削ルヲ請フハ、諸侯ノ強大ヲ制シ、京師ヲ強フセント欲スルニ在リ、萬世ノ利ナリ、計畫始メテ行ハレテ刑戮ヲ受ク、内ハ忠臣ノ口ヲ杜キ、外ハ諸侯ノ爲メニ仇ヲ報ス、臣竊カニ陛下ノ爲メニ取ラサルナリト、帝大ニ悔エ、周亞夫ヲ以テ三十六將軍ニ將トシ、大ニ吳楚ノ軍ヲ破テ、諸王皆誅ニ伏ス、之ヲ七國ノ反ト云フ

(七) 武帝ノ外征ヲ問フ

謂ク武帝名ハ轍景帝ノ中子ナリ、天資英邁ニシテ膽略アリ、嘗テ威武ヲ四表ニ輝カサント欲シ、將軍王恢等ヲシテ兵三十餘萬ヲ率井、馬邑ノ旁ノ谷中ニ匿レシメ、匈奴ノ單于ヲ誘テ之ヲ塞ニ入レ、虜ニシテ以テ皇帝平城ノ耻ヲ雪カンコトヲ謀ル、單于雁門ノ尉史ヲ捕ヘテ漢兵ノ居ル所ヲ知り驚テ還ル、是ヨリ匈奴漢ト和親ヲ絶チ數々來リテ邊ヲ侵ス、帝乃チ衛青、霍去病、李廣利等ノ諸名將ヲ用井深ク北地ニ侵入セシメ、連戰連勝匈奴

奴ヲ殺虜スルコト前後合セテ八九萬ニ及ブ、是ヨリ匈奴遠ク遁レテ漢南復タ王庭ナキニ至レリ、又郭昌等ヲシテ西南夷ヲ平ケシメ、揚僕等ヲ遣ハシテ朝鮮ヲ伐テ之ヲ降シ、李廣利西夷ノ大宛ヲ降シ、張騫滇國ニ使シテ西域諸國ヲ跋涉シ皆之ヲ漢ニ通セシム疆土ノ廣大ナルコト前中漢未タ其比ヲ見サルニ至レリ

(五六) 蘇武ノ事跡ヲ問フ

謂ク武帝、中郎將蘇武ヲシテ匈奴ノ使ノ漢ニ留マル者ヲ送ラシム、既ニ至レハ單于漢ノ降人衛律ヲシテ武ヲ召シ誘フニ富貴ヲ以テセシム、武應セス律曰ク吾計ヲ聽カスンハ、後ニ我ヲ見ント欲スルモ得可シヤト、武罵テ曰ク汝人ノ臣子ト爲テ恩義ヲ顧ミス蠻夷ニ降ル、何ソ汝ヲ見ルヲ爲サント、律乃チ單于ニ白フシテ武ヲ大窖中ニ幽シ絶テ飲食セシメス、武窖中ニ在テ雪ト旃毛トヲ嚙ミ、併セテ之ヲ吞テ數日死セス、匈奴以テ神ト爲シ武ヲ北海ノ濱ニ徙シ羝羊ヲ牧セシム、後單于漢ト和親ス、漢ノ使者來テ武等ヲ求ム匈奴詐ハリテ武死セリト爲ス、常惠モ亦タ武ト共ニ匈奴ニ在リ、漢ノ使者ニ教テ曰ク、天子上林ノ中ニ雁足ノ書ヲ得タリ、言フ武ハ某ノ澤中ニ在リト、使者惠ノ語ノ如クシ以テ單于ヲ讓ム單于驚キ謝シテ乃チ武ヲ歸ス、武匈奴ニ留マルコト十九年、強壯ニシテ往キ、還ルニ及テ鬚髮盡ク白シ、昭王以テ曲屬國ニ任ス

(五九) 霍光ノ事跡ヲ問フ

謂ク霍光武帝ニ事ヘテ禁闈ニ出入スルコト二十餘年小心翼々トシテ未タ嘗テ過チアラヌ、帝ノ太子據薊キニ反シテ死ス、帝乃チ弗陵ヲ立テ、太子ト爲サント欲ス、而シテ尙ホ幼ナリ、病篤キニ及テ群臣ノ少主ヲ輔クヘキモノヲ察スルニ、獨リ霍光ノ忠厚ニ、若クモノナシ、是ニ於テ黃門ヲシテ周公成王ヲ負フテ諸侯セシムルノ圖ヲ畫カシメ、以テ光ニ賜ヒ、光ヲ大司馬大將軍ト爲シテ崩ス、弗陵立ツ之ヲ昭帝ト爲ス、而シテ政一ニ光ヨリ出ツ時ニ燕王且帝ノ兄ヲ以テ立ツヲ得ス、常ニ怨望ス、桑弘羊、桀安等亦タ事ニヨリテ光ヲ怨ム、乃チ相謀リテ光ヲ誣奏ス、帝時ニ年十四、能ク其詐ハリヲ知ル、後復タ光ヲ潜スルモノアリ、帝輒チ怒テ曰ク大將軍ハ國家ノ忠臣ニシテ先帝ノ屬シテ以テ朕カ身ヲ輔クル所ナリ、敢テ誹ルモノハ罪ニ坐セント、後桀安等事覺ハレテ誅ニ伏シ燕王自殺ス、帝崩シテ宣帝立ツ光政ヲ歸サンコトヲ請フ許サレス、諸事皆先ツ關白シテ然シテ後ニ奏ス、光二世政ヲ攝シ天下漢ノ伊尹ト稱ス、光輔弼ニ在ルノ間天下安寧百姓休息セリ

(六〇) 疏廣疏受ノ事跡ヲ問フ

謂ク疏廣字ハ仲翁東海ノ人、漢ノ宣帝ノ太子爽ノ太傅タイフタリ、疏受字ハ公子、疏廣ノ兄ノ

子太子ノ少傅タリ、太子年十二ニシテ論語孝經ニ通ス、廣一日受ニ謂テ曰ク、吾レ聞ク

足ルヲ知レハ辱メラレス、止マルヲ知レハ殆カラスト、即日俱ニ上疏シテ退職ヲ請フ、

帝之ヲ許シテ黄金ヲ加賜ス、公卿故人皆東都ノ門外ニ送り之レカ爲メニ祖道ヲ設ク、道

路ノ觀ル者皆曰ク賢ナルカナニ大夫ト、涙下ルモノアリ、廣受既ニ郷里ニ歸リ日ニ黄金

ヲ賣テ具ヲ供ヘ、族人故舊賓客ヲ請フテ俱ニ相娛樂ス、或人子孫ノ爲メニ産業ヲ立ツル

ヲ勸ムルモノアリ、廣曰ク、子孫賢ニシテ財多ケレハ則チ其志ヲ損シ、愚ニシテ財多ケ

レハ則チ其過チヲ益ス、且ツ此金ハ聖主ノ以テ老臣ヲ養フ所ナリ、故ニ卿黨宗族ト其賜

モノヲ饗クルヲ樂ムト遂ニ優遊自適シテ老フ

(六二) 匈奴ノ呼韓邪單于漢ニ來朝セシ次第ヲ記セ

謂ク漢ノ武帝ノ末ノ頃ヨリ匈奴大ニ亂レ、五單于立ツヲ爭ヒテ相攻襲シ、互ヒニ勝敗有テ

部落多ク呼韓邪單于ノ稽侯狁ニ降ル、狁ノ兄左賢王呼屠吾斯亦自立シテ郅支骨都侯單于

ト爲リ漢ニ朝スルヲ請フ、宣帝詔シテ之ヲ議セシム、丞相御史曰ク、王制ニ諸夏ヲ先ニシ

テ夷狄ヲ後ニス宜シク諸侯王ノ如クシテ位次ハ下ニ在ラシムヘシ、蕭望之曰ク、宜シク

待スルニ臣トセザルノ禮ヲ以テシテ、諸侯王ノ上ニ在ラシムヘシ、詔シテ客禮ヲ以テ之

ヲ待シ、位次諸侯王ノ上ニ在ラシム、參謁ニハ臣ト稱シテ名イハス、爾後烏孫ヨリ以西

ノ諸國匈奴ニ近キ者ハ皆漢ヲ尊ヘリ

(六三) 麒麟閣ノ功臣トハ如何

謂ク宣帝戎狄ノ賓服ヲ喜ヒ、股肱ノ臣ヲ美ヲ思フテ、其人ヲ麒麟閣上ニ圖書シ、其官爵

姓名ヲ署セシム、唯々霍光ハ名ヲスレテ、大司馬大將軍博陸侯薓氏ト云フ、其次ハ

張安世、韓增、趙充國、魏相、丙吉、杜延年、劉德、梁邱賀、蕭望之、蘇武、凡テ十一

人ナリ、皆功德アツテ名ヲ當世ニ知ラル

(六四) 西漢中宦官ノ權勢ヲ極メシハ何ノ時ナルヤ

謂ク元帝立テ蕭望之、史高、周堪等宣帝ノ遺詔ヲ受ケテ政ヲ輔ケ、尙書ノ事ヲ領ス、而

シテ宦官ノ弘恭、石顯等宣帝ノ時ヨリ中書尙ト爲リ、久シク樞機ヲ典トル、望之以爲ラ

ク、中書ハ政ノ本ニシテ、宦者ハ古ノ刑人ヲ近ケナル義ニ違ヘリ、因テ帝ニ白フシテ更

ニ士人ヲ置カント欲ス、恭顯聞テ望之ヲ讒シ逮捕セント請フ、時ニ帝始メテ位ニ即テ事

ヲ經ス、徒ニ廷尉ニ致スノミニテ、獄ニ送ルヲ爲スヲ省セス、乃チ其奏ヲ可トス、是ニ

於テ顯等急ニ執金吾ノ車騎ヲ授シテ、馳セテ其第ヲ圍マシム、望之歎シテ曰ク、吾嘗テ

位ニ將相ニ備ハリ、老テ牢獄ニ入ル、苟モ生活ヲ求ムルハ亦タ鄙シカラスヤト、乃チ燒

ヲ飲テ自殺ス、帝之ヲ聞キ驚テ手ヲ拆ツテ曰ク、吾賢傳ヲ殺スト、因テ食ヲ卻ケ涕泣シ

テ左右ヲ哀動ス、然レトモ遂ニ顯等ヲ罪スルコト能ハス、是歲恭死ス、顯遂ニ中書令ト爲ル

(六四) 王氏專權ノ原因如何

謂ク宣帝ノ時、平陵ニ王禁ト云フ者アリ、少フシテ法律ヲ學ビ廷尉ノ吏ト爲ル、大志アリ廉隅ヲ修メス、酒色ヲ好テ多ク傍妻ヲ娶トル、四女八男アリ、長女ハ君俠、次ハ政君、君力、君弟、長男ハ鳳、次ハ曼、譚、崇、商、立、根、逢時、元帝立ツニ及テ、禁ノ次女政君ヲ納レテ后ト爲シ、太子驚ヲ生ム、帝崩シ太子立ツ、之ヲ成帝ト爲ス、乃チ元舅王鳳ヲ以テ太司馬大將軍ト爲シ尙書ノ事ヲ領セシメ、其弟譚、商、立根、逢時ヲ封シテ列侯ト爲ス世ニ之ヲ五侯ト謂フ、時ニ曼ト崇ト既ニ死シテ與カラス、而シテ曼ノ子ハ實ニ王莽ナリ、前漢ノ亡滅ハ元帝成帝ノ際ニ原因ス

(六五) 劉向ノ事跡ヲ問フ

謂ク劉向字ハ子政、麒麟閣ノ功臣劉德ノ子ニシテ漢ノ宗室タリ、年十二ニシテ輦郎ト爲リ既ニ冠シ、行ヒテ修飾ヲ以テ擢ラレテ諫大夫ト爲ル、時ニ王氏愈々盛ニシテ、郡國ノ府相刺史皆其門ニ出、向乃チ封事ヲ成帝ニ上リ極諫シテ曰ク、王氏劉氏ト勢ト並ビ立ツルハ陛下縱キ身ノ爲メニ大ナルモ、宗廟ヲ奈何セン、宜シク宗室ヲ援キ近ツケ、

外戚ヲ黜ケ遠クシテ、身宗室ト爲テ三世ニ歷事ス、吾ニシテ言ハサレハ、執レカ言フベキモノゾ、云々、帝向ヲ召シ、慰テ悲傷嗟歎ス、然レトモ遂ニ斷スルコト能ハス、帝又皇后許氏ヲ廢シテ婕妤ノ位ニ趙氏ヲ立テ、皇后ト爲ス、趙氏子ナク、寵少シク衰ヘテ別館ニ居リ、待中宮奴ノ子多キモノニ通ス、然レトモ遂ニ子ナシ、劉向以爲テク王教ハ近キヨリ始マルト、詩書載スル所ノ賢妃貞婦、國ヲ興シ家ヲ顯ハン、及ヒ嬖妾ノ亂亡ヲ爲スモノヲ採リ集メ、序次シテ列女傳ト爲シ、數々上書シテ得失ヲ言ヒ法戒ヲ陳ス、帝内ニ其言ヲ嘉ミスト雖モ、然レトモ遂ニ用フルコト能ハサリシト云フ

(六六) 王莽當初ノ行爲如何

謂ク王莽字ハ巨君、王太后ノ弟曼ノ子ナリ、曼早死シテ侯タラス、莽幼ニシテ孤ナリ、當時五ノ侯子時ニ乗シテ奢侈ヲ極ム、而シテ獨リ莽恭儉ニシテ學ヲ勤メ、外ハ英俊ニ交ハリ、内ハ諸父ニ事テ曲サニ禮意アリ、王鳳コレヲ憐ミ病シテ將ニ死ントスルヤ、太后及ヒ成帝ニ請フテ黃門郎ニ拜ス、已ニシテ帝之ヲ新都侯ニ封シ大司馬ト爲ス、爵位益々尊フシテ節操愈謙ナリ、嘗テ其母病ス、公卿列侯夫人ヲ遣ハシテ疾ヲ問ハシム、莽ノ妻之ヲ迎ヘテ衣地ヲ曳カス、布蔽レテ膝露ハル、見ル者以テ僮使ト爲ス、問テ其夫人ナルヲ知テ皆驚ク、哀帝ヲ經テ平帝ニ至ル、太皇太后朝ニ臨ミ、莽大司馬ヲ以テ政ヲ秉リ、百官

己レニ總テ以テ聽ク、竊カニ益州ニ諷諭シテ、塞外ノ蠻夷ニ自ラ越裳氏ト稱シテ譯ヲ重
キ來リ、白雉ヲ獻セシム、蓋シ周公成王ヲ輔クルノ德ニ比セシナリ、群臣盛ニ莽ノ功德
ヲ陳ブ、乃チ號ヲ安漢公ト賜フ、其名ヲ飾リ實ヲ盜ム、大奸ノ情見ルヲ得ヘシ

(六七) 王莽ノ篡奪ヲ記セ

謂ク王莽平帝ノ世ニ在テ政ヲ攝シ、周公周ノ太宰ト爲リ、伊尹殷ノ阿衡ト爲ルニ倣ヒ、
號ヲ宰衡ト賜ヒ尋テ九錫ヲ加フ、莽遂ニ毒酒ヲ進メテ帝ヲ弑シ、宣帝ノ玄孫中尤モ幼ナ
ル嬰ヲ迎ヒ、自ラ攝ニ居テ詐ヲ踐ミ朝見ニ假皇帝ト稱セシム、次テ孺子嬰ヲ廢シテ安定
公ト爲シ、自カラ皇帝ノ位ニ即キ國ヲ新ト號ス、漢ハ高帝ヨリ孺子嬰ニ至ルマテ十三世
二百七年ニシテ王氏ノ奪フ所ト爲ル、莽大ニ宗族ヲ封シテ公侯伯子男ト爲シ、周ノ制ヲ
復シテ井田法ヲ定メ、天下ノ田ヲ收メテ王田ト稱シ、一切賣買スルヲ得カラシム、莽ノ
法令煩苛ニシテ徭役繁劇ナリ、是ニ於テ所在盜起リ州郡制スルコト能ハス、就中新市ノ
人王匡率フル所ノ新市ノ兵、平林ノ人陳牧、廣漢等率フル所ノ平林ノ兵ト稱スルモノ最
モ猖獗ニシテ、莽之ヲ伐テ克ツ能ハス、已ニシテ漢ノ宗室劉縯及弟秀、兵ヲ春陵ニ起
シテ帝室ノ復興ヲ謀ル、新市平林ノ兵皆之ニ應ス、莽之ヲ伐テ大ニ敗績シ漢兵武關ニ入
リ進シテ長安ヲ攻メ遂ニ莽ヲ斬ル、莽帝ト稱スルコト僅カニ十五年ナリ

(六八) 劉縯劉秀始メテ兵ヲ起セシ時入有様如何

謂ク劉縯字ハ伯升、性剛毅慷慨ニシテ大節アリ、弟劉秀字ハ文叔、性謹厚ニシテ稼穡ヲ
勤ム、南頓ノ令劉欽ノ二子ニシテ、漢ノ景帝ノ子長沙王廢後オシ、王莽漢ノ詐ヲ奪フ
ニ及ヒ、劉縯帝室ノ復興ヲ謀リ、自ラ春陵ノ子弟ヲ徵ス、子弟恐懼シテ皆亡ケ匿ル、劉
秀ノ絳衣大冠ヲ着クルヲ見ルニ及テ皆驚テ曰ク、謹厚ノ者モ亦復々之ヲ爲スト、乃チ稍
々自カラ安ニス、是ニ於テ子弟七八千人ヲ得タリ、縯更ニ族人ヲシテ新市平林ノ兵ヲ招
キ説カシム、皆之ニ附テ兵勢漸ク熾シナルニ至レリ

(六九) 漢ノ將帥劉玄ヲ立テ、皇帝セシ所以如何

謂ク劉玄字ハ聖公、春陵戴侯劉買ノ子ニシテ、亦タ、縯秀ト祖ヲ同フセリ、嘗テ其弟人
ニ殺サレ玄爲メニ警ヲ報ヘント欲シ、去テ平林ノ軍ニ入り更始將軍ト號ス、縯秀、新市
ノ兵ト合スルニ及テ、漢兵ノ衆十餘萬ニ至ル、是ニ於テ劉氏ヲ立テ、以テ人望ニ從ハン
ト欲ス、南陽ノ豪傑ハ皆劉縯ヲ立テント欲シ、而シテ新市平林ノ將帥ハ、縯ノ威明ヲ憚
カリ、玄ノ怯弱ヲ貪テ、先ツ共ニ策ヲ定メテ之ヲ立テ、縯ヲ以テ司徒ト爲シ、秀ヲ以テ木
常偏將軍ト爲ス、玄既ニ立テ南面群臣ヲ朝セシム、手以テ席ヲ摩リ、羞愧汗ヲ流シテ言
フコト能ハス、豪傑多ク望ミテ失フ、宛降ルニ及テ入テ之ニ都ス

(七〇) 昆陽ノ戰ノ狀ヲ記セ

謂ク王莽其將王邑王尋ヲシテ山東ニ向ハシメ、虎豹犀象ノ屬ヲ驅テ威武ヲ助ケ、其衆百萬ト號ス、漢ノ諸將其兵勢ノ盛ナルヲ見テ、皆走テ昆陽ニ入り、惶怖シテ諸城ニ歸リ散セント欲ス、劉秀乃チ王常等ヲシテ昆陽ヲ守ラシメ、夜ニ城ヲ出テ、鄧定陵ニ至リ、悉ク諸營ノ兵ヲ發シテ俱ニ進ム、自カラ步騎千餘ヲ率テ前鋒ト爲リ、急ニ尋、邑等ヲ擊テ之ヲ奔ラシ首ヲ斬ルコト數千級、更ニ敢死ノ士三千人ト城西ヨリ其中堅ヲ衝テ尋ヲ殺ス、莽ノ兵大ニ潰散ス、是ニ於テ諸方ノ豪傑響ノ如クニ應シ、爭フテ其牧守ヲ殺シテ將軍ト稱シ漢ノ年號ヲ用テ以テ詔命ヲ待ツニ至レリ

(七一) 更始帝劉縯ヲ殺セシ次第ヲ問フ

謂ク李軼ナル者初メ縯兄弟ト善シ、後更ニ更始ニ詔ヒ事ス、秀乃チ縯ヲ戒メテ曰ク、此人復タ信スヘカラスト、縯從ハス、縯ノ部將劉稷ナル者勇三軍ニ冠タリ、更始ノ立ツヲ聞テ怒テ曰ク、本ト兵ヲ起シテ大事ヲ圖ルモノ、伯升兄弟ナリ、今更始ハ何シタルモ、縯ヲ殺シ、更始縯ヲ捕ヘテ之ヲ誅セントス、縯因テ固ク爭フ、李軼遂ニ縯ヲ更始ニ讒シ、縯伊テ縯ヲ殺カシ、縯ノ弟劉秀父城ヲ圍メ、之ヲ圍テ馳セテ宛ニ詣リ、深ク兄ヲ爲メニ罪ヲ謝シ、縯モ昆陽ノ功ヲ論テ、宛ニ伯升ノ爲メニ喪ヲ服セス、飲食言笑平生

ノ如シ、更始甚テ以テ慚キ、秀復拜シテ破虜大將軍ト爲ス

(七二) 劉秀始メ更始ニ貳奉リシハ何事ヲ時ヲ

謂ク王莽ノ時ニ自カラ成帝ノ子子與ト稱スルモノアリ、莽捕ヘテ之ヲ殺ス、更始ノ時ニ至テ邯鄲ノ卜者王郎詐シテ眞ノ子與ト稱シ、百姓之ヲ信シテ立テ、天子ト爲シ、州郡響應ス、劉秀擊テ之ヲ破リ王郎ヲ斬ル、是ニ於テ更始使ヲ遣ハシ、秀ヲ立テ、蕭王ト爲シ、兵ヲ罷メシム、秀ノ將耿弇曰ク、公ノ功名已ニ著ルシ、天下ハ檄ヲ傳ヘテ定ムヘキナリ、公自カラ取ルヘシ、他人ニ之ヲ得セシムル勿レト、秀辭スルニ河北ノ地未ダ平カサルヲ以テス、是ニ至テ始メテ更始ニ貳アリ

(七三) 蕭王秀銅馬帝ノ稱ヲ得シ所以ヲ問フ

謂ク蕭王秀銅馬ノ諸賊ヲ擊テ、悉ク破テ之ヲ降ス、而シテ諸將未ダ降者ヲ信セス、降者モ亦各自カラ安セス、是ニ於テ王敕シテ各々營ニ歸テ兵ヲ勒セシメ、乃チ自カラ輕騎ニ乘シテ諸部ヲ案行ス、降者相語テ曰ク、蕭王ハ赤心ヲ推シテ人ノ腹中ニ置ク、安ソゾ死ヲ效サ、ルヲ得ンヤト、是ヨリ關西ノ地王ノ德ヲ稱シテ銅馬帝ト云フ

(七四) 赤眉賊トハ如何

謂ク新市、平林ノ兵ニ次テ起ルモノヲ鄧鄧ノ樊崇ノ兵ト爲ス、崇ソノ衆ノ王莽ノ兵ト亂

ル、ヲ恐レ、皆其肩ヲ朱ニシテ以テ相識別ス。是ニ由テ號シテ赤眉ト云フ、後ニ漢ノ宗室劉盆子ヲ立テ、帝ト爲シ州郡ヲ掠奪ス、是ヨリ先キ更始帝宛ヨリ洛陽ニ遷リ、遂ニ關中ニ入テ長安ニ都ス、赤眉賊來リ逼ル、更始出奔ス、尋テ赤眉ニ降リ爲メニ殺サル、此時ニ當テ赤眉賊最モ猖獗ヲ極ム

(七五) 蕭王秀即位ノ狀ヲ記セ

謂ク蕭王秀自カラ兵ヲ引テ燕趙ヲ徇ヒ、尤來、大槍等ノ諸賊ヲ擊テ悉ク之ヲ破リ、還テ中山ニ至ル、諸將尊號ヲ上ラント請フ、許サス、南平棘ニ至テ固ク請フ、又許サス、耿純進ンテ曰ク、天下ノ士大夫親戚ヲ捐テ土壤ヲ棄テ、大王ニ矢石ノ間ニ從フモノハ、固ヨリ龍鱗ニ攀チ鳳翼ニ附テ以テ、其志ス所ヲ成サント欲スレハナリ、今位號ヲ正サス時ヲ過クサバ、恐クハ士大夫ノ望ミ絶ヘ討窮マリ、則テ去歸ノ思アラシ、大衆一タヒ散セハ復タ合フコト難カルヘシト、馮異モ亦上言ス、是ニ於テ王遂ニ位ニ即キ、建武ト改元ス、之ヲ東漢ノ世祖光武皇帝ト爲ス、帝即位後數月更始赤眉ノ爲メニ殺サル

(七六) 赤眉降服ノ有様如何

謂ク赤眉勢ト窮マリ、劉恭ヲ遣ハシ降ヲ乞フテ曰ク、盆子降ル陛下何ヲ以テカ之ヲ待シ、光武帝曰ク、汝ヲ待ツ事不死ヲ以テ其キニシテ降ル、帝盛ンニ軍馬ヲ陳シ、盆子君臣ニ之ヲ觀セシメテ曰ク、降テ憐ニルコト無キヲ得シカト、盆子ノ丞相徐宣叩頭シテ曰ク、猶ホ虎口ヲ去テ慈母ニ歸スルカ如シ誠誠誠喜限リナシト、帝曰ク卿ハ所謂鐵中ノ鏘鏘、庸中ノ佼佼タル者ナリト各々田宅ヲ賜フ

(七七) 光武ノ二十八將トハ如何

謂ク鄧禹、馬成、吳、王漢梁、賈復、陳俊、耿弇、杜茂、寇恂、傅俊、岑彭、堅鐔、馮異、王霸、朱祐、任光、祭遵、李忠、景丹、萬修、蓋延、邳彤、姚期、植臧、耿純、臧宮、馬武、劉隆、以上二十八將ハ皆光武中興ノ功臣ナリ、光武崩シ明帝立ツニ及テ、之ヲ圖畫シテ南宮ノ雲臺ニ懸ケ、以テ麒麟閣ノ功臣ニ倣フ

(七八) 處士嚴光ノ事跡ヲ問フ

謂ク嚴光字ハ子陵、會稽餘姚ノ人ナリ、少キ時光武帝ト遊學ヲ同フス、帝、位ニ即クニ及テ物色ヲ以テ之ヲ求ム、齊國上言ス、一男子アリ羊裘ヲ被テ澤中ニ釣リスト、帝使ヲ遣ハシテ之ヲ聘ス、使者三反シテ然シテ後ニ至ル、車駕即日館ニ幸ス、嚴光臥シテ起キス、帝其臥所ニ即キ光ノ腹ヲ撫シ、曰ク、咄咄子陵相助ケテ治ヲ爲スヘカラサルカト、光乃チ目ヲ張リ熟視シテ曰ク、昔シ唐堯徳ヲ著ハシテ巢父ハ耳ヲ洗フ、士ハ固ヨリ志アリ何ソ相逼ルニ至ランヤト、帝曰ク子陵吾レ遂ニ汝ヲ下メコト能ハサルカト歎息シテ去

ル、後復タ光ヲ引キ入レテ舊故ヲ論道シ、因テ共ニ偃臥ス、光足ヲ以テ帝ノ腹上ニ加
 フ、明日大史奏上ス曰ク客星御座ヲ犯スコト甚タ急ナリト、帝笑テ曰ク朕ハ故人ノ嚴子
 陵ト共ニ臥スルノミト、帝光ヲ除シテ諫議大夫ト爲ス、從ハスシテ去リ、富春山中ニ隱
 レテ耕釣シテ終フ

(七九) 佛法始メテ支那ニ入リシハ何レノ時ナルヤ

謂ク東漢ノ明帝西域ニ神アリ佛ト云フト聞キ、天使ヲ天竺ニ遣ハシテ其道ヲ求メシム、
 使者其書及ヒ沙門ヲ得テ歸ル、是ヨリ支那始メテ其道ヲ傳ヘ其形像ヲ圖ニスルニ至レ
 リ

(八〇) 明帝儒學ヲ獎勵セシ次第ヲ聞カン

謂ク明帝儒學ヲ崇尚シ、皇太子諸侯王ヨリ、大臣ノ子弟功臣ノ子孫ニ至ルマテ經書ヲ受
 ケシメサルハナシ、又外戚ノ樊氏、郭氏、陰氏、馬氏ノ諸子ヲ爲メニ、學館ヲ南宮ニ立
 テ四姓ノ小侯ト號ス、五經ノ師ヲ置キ、高能ノ士ヲ選ヒ以テ其業ヲ援ク、期門羽林ノ士
 ト雖モ悉ク孝經章句ニ通セシム、匈奴モ亦太子弟ヲ遣ハシテ學ニ入ラシムルニ至レリ

(八一) 馬太后ノ賢明ヲ記セ

謂ク馬太后ハ明帝ノ后、ニシテ伏波將軍馬援ノ少女ナリ、身ノ長七尺一寸、鼻、春秋

ニ明カニシテ淑徳後宮ニ冠タリ、明帝崩シ章帝立テ二年天下大ニ早ス、或人曰ク外戚ヲ
 封セサルノ故ト、太后詔シテ曰ク、凡ソ事ヲ言フ者ハ皆吾ニ媚テ以テ福ヲ求ムルナリ、
 昔シ王氏ノ五侯同日ニ封セラレテ黃霧四モニ塞カル、而シテ滯雨ノ應アルヲ聞カス、古
 ヲリ外戚貴盛ニシテ宗室ノ傾覆モサルモノ鮮シト、又后ノ兄馬攀上疏シテ曰ク夫レ政ヲ
 修メ風ヲ移スハ必ス其本アリ、傳ニ曰ク吳王劍客ヲ好テ百姓創痍多ク、楚曰細腰ヲ好テ
 宮中餓死多シ、長安語シテ曰ク城中高髻ヲ好メハ四方高キコト一尺、城中廣眉ヲ好メハ
 四方額ノ半ニ至ラントシ、ニ中大袖ヲ好メハ四方一匹ノ帛ヲ全フス、斯ノ言ハ戲ノ如ク
 ニシテ事實ニ切ナルアリト、太后深ク之ヲ納レ、常ニ以テ戒メト爲ス

(八二) 章帝孔僖ヲ郎中ニ拜セシ所以ヲ記セ

謂ク章帝魯ニ至リ、孔子及ヒ七十二弟子ヲ闕里ニ祠ル、大ニ孔子ノ子孫六十二人ヲ會シ、
 孔僖ニ謂テ曰ク、今日ノ會卿ノ宗ニ於テ光榮アルヤト、僖對テ曰ク、臣聞ク明王聖主ハ
 師ヲ尊ヒ道ヲ貴ハサルナシ、今親カラ萬乘ヲ屈スルハ、此乃チ先師ヲ崇禮シ聖徳ヲ增輝
 スルモノニシテ、臣ノ家ノ私ニ榮アラサルナリト、帝大ニ笑テ曰ク、聖者ノ子孫ニアラ
 スンハ安ンソ斯ノ言アラシヤト、僖ヲ郎中ニ拜ス

(八三) 東漢ノ時帝官權ヲ恣ニスルニ至リシ原因如何

謂ク初メ章帝崩シテ和帝立ツ尙ホ幼ナリ、竇太后朝ニ臨ミ制ヲ稱ス、是ニ於テ竇憲車騎將軍ト爲リ、父子兄弟朝廷ニ充滿シ遂ニ相與ニ逆ヲ謀ル、帝既ニ長シテ之ヲ知リ、陰カニ中常侍鄭衆ト議ヲ定メ、兵ヲ勒シテ憲カ印綬ヲ押收シ、憲ニ迫テ自殺セシム、鄭衆慧敏ニシテ機畧アリ、帝常ニ之ト政ヲ議シ遂ニ衆ヲ以テ大長秋ト爲ス、宦官權ヲ用フルコト此ヨリ始マル

(八四) 虞詡ノ事跡ヲ問フ

謂ク虞詡字ハ升卿、陳ノ人ナリ年十二ニシテ能ク尙書ニ通ス、漢ノ和帝ニ事ヘテ郎中ト爲ル、和帝崩シ殤帝安帝相次テ幼ナリ、鄧太后朝ニ臨ミ政ヲ聽ク、時ニ邊境多事ナリ、太后ノ兄大將軍鄧騭、涼州ヲ棄テ、カヲ北邊ニ并セント欲ス、虞詡曰ク不可ナリ、關西ハ將ヲ出シ關東ハ相ヲ出ス、而シテ涼州ハ多ク武夫ヲ出スト、衆皆詡ノ議ニ從フ、隗陰カニ詡ヲ惡ム、會々朝歌ノ賊長吏ヲ攻メ殺シテ州郡禁スル能ハス、隗乃テ詡ヲ以テ朝歌ノ長ト爲ス、故舊皆詡ヲ吊ス、詡曰ク、盤根錯節ニ遇ハスンバ以テ利器ヲ別ツナシト、官ニ到ルニ及テ壯士ヲ募リ、謀ヲ以テ賊ヲ敗ル、縣境悉ク平ク、尋テ武都ノ太守トナリ、叛羌ヲ擊テ復タ大ニ之ヲ敗ル、羌賊之ニ由テ潰散セリ

(八五) 楊震ノ事跡ヲ記セ

謂ク楊震字ハ伯起弘農ノ人ナリ、孤貧ニシテ學ヲ好ミ、博覽通達諸儒語シテ曰ク、關西ノ孔子ハ楊伯起ト、鄧騭聞テ之ヲ召シ荆州ノ刺史ト爲ス、震荆州ノ茂才王密ヲ舉ケテ昌邑ノ令ト爲ス、密夜金ヲ懷ロニシ來テ震ニ遺ル、震受ケス天知ル地知ルノ語アリ、後司徒ニ拜セラル時ニ宦官樊豐、及ヒ安帝ノ乳母王聖、并ニ其女伯榮等、宮掖ニ出入シテ姦賂ヲ傳通ス、震上疏シテ曰ク、臣聞ク政ハ賢ヲ得ルヲ以テ本ト爲シ、治ハ穢ヲ去ルヲ以テ務メト爲ス、方今賢才事ヘスシテ嬖倖庭ニ充ツ、宜シク速カニ阿母ヲ出シテ外舍ニ居ラシメ、伯榮ヲ斬テ往來セシムルコトナカルヘシト、帝省セス、而シテ樊豐等數々震ヲ譏ス、帝遂ニ震ノ印綬ヲ押收シ、故郷ニ遣リ歸ス、震城西ノ夕陽亭ニ至リ、慷慨シテ曰ク、死ハ士ノ常分、吾レ恩ヲ蒙リ上司ニ居リ、奸臣ノ狡猾ヲ疾シテ而カモ誅スルコト能ハス、嬖女ノ傾亂ヲ惡シテ而カモ禁スルコト能ハス、何ノ面目アツテカ復タ日月ヲ見ント、遂ニ鳩ヲ飲テ卒ス

(八六) 順帝宦官十九人ヲ列侯ニ封セシ次第ヲ問フ

謂ク安帝崩シテ、皇后閻氏朝ニ臨ミ、久シク國政ヲ專ニセント欲シテ、其兄車騎將軍閻顯ト策ヲ禁中ニ定メ、章帝ノ孫、濟北惠王ノ子懿ノ尙ホ幼ナルヲ迎ヘ立テ、位ニ即カシム、僅カニ八月ニシテ崩ス、閻后顯ト謀テ喪ヲ秘シ、更ニ諸王子ノ幼ナル者ヲ選テ立テ

ントス、是ニ於テ中黃門孫程等、安帝ノ子、濟陰王保ヲ迎ヘ立テ、帝ト爲ス、之ヲ順帝トス、帝遂ニ閭顯等ヲ誅シ、太后ヲ離宮ニ遷シ、程等ノ十九人ヲ封シテ列侯ト爲ス、世之ヲ十九侯ト云フ、宦官ノ權力是ヨリ盛シナリ

(八七) 東漢ノ末黨朋分立ノ原因如何

謂ク桓帝未タ蠶吾侯タリシトキ、學ヲ甘陵ノ周福ニ受ク、位ニ即クニ及テ福ヲ擢テ、尙書ト爲ス、時ニ同郡ノ房植マタ名アリ、郷人謠フテ曰ク、天下ノ規矩ハ房伯武植ノ字ハ師タルニ因テ印ヲ獲ルハ周仲進仲進ハト、福ノ字、二家ノ賓客互ニ相讖リテ遂ニ隙ヲ爲ス、是ヨリ甘陵郡ニ南北部アリテ、黨朋ノ讖此ヨリ始マル

(八八) 黨朋ノ獄トハ如何

謂ク和衆帝鄭ヲ重ク用井、順帝孫程等十九人ヲ列侯ト爲セシヨリ、宦者ノ勢力漸ク熾ンニシテ、桓帝ニ至リテハ其權勢殆ント強盛ヲ極ム、時ニ陳蕃、李膺、杜密、范滂等ノ諸賢、名節ヲ以テ高シトシ、臧否ヲ以テ相尙ビ、宦者ヲ排斥シ朝廷ヲ一掃センコトヲ謀ル、大學ノ諸生三萬餘人郭泰、賈彪等ニレカ冠ト爲リ、相黨シテ膺密等ヲ推重ス、會々其黨ノ南陽ノ太守成瑨、大原ノ太守劉瓛、太赦ノ後ニ於テ宦者ノ黨ヲ案殺ス、帝怒リ成瑨劉瓛ヲ獄ニ下シ斬テ市ニ棄ントス、尋テ山陽ノ守翟超東海ノ相黃浮モ亦宦者ノ家屬ノ法ヲ犯セルモノヲ取メテ之ヲ殺ス、是ニ於テ宦官冤ヲ訴テ二人罪ヲ得タリ、太尉陳蕃之ヲ等ヒトモ帝聽カス、既ニシテ宦官人ニ李膺等ヲ誣奏セシメテ曰ク、司徒校尉李膺、大僕杜密等大學ノ遊士ヲ養フテ共ニ部黨ヲ爲シ、朝廷ヲ誹訕シ、風俗ヲ疑亂スト、帝震怒シテ追捕四出セシメ、膺、密以下其黨二百餘人ヲ獄ニ下セリ、後赦サレテ田里ニ歸リ、靈帝立ツニ及テ再ヒ朝ニ立チシモ、宦者曹節復タ讖ヲ搆ヘ、死徒廢錮六七百人ノ多キニ至レリ

(八九) 黨朋ノ三君、八俊、八顧、八及、八厨トハ如何

謂ク竇武、陳蕃、劉淑ヲ三君ト爲ス、言フコ、ロハ一世ノ宗トスル所ナリ、李膺、荀昱、杜密、王暢、劉祐、魏郎、趙典、朱寓ヲ八俊ト爲ス、言フコ、ロハ人英ナリ、郭泰、范滂、尹勳、巴肅、宗慈、夏馥、蔡衍、羊陟ヲ八顧ト爲ス、言フコ、ロハ能ク德行ヲ以テ人ヲ引クナリ、張儉、翟超、岑暉、薨康、劉表、陳翔、孔昱、檀敷ヲ八及ト爲ス、言フコ、ロハ能ク人ヲ導テ宗ヲ追及セシムルナリ、度尙、張邈、王孝、劉儒、胡母班、秦周、蕃嚮、王章ヲ八厨ト爲ス、言フコ、ロハ能ク利ヲ以テ人ヲ救フナリ

(九〇) 趙苞鮮卑賊ヲ破リシ事ヲ問フ

謂ク靈帝ノ六年鮮卑賊遼西ニ寇ス、遼西ノ太守趙苞、使ヲ遣ハシテ母ヲ迎テ、鮮卑苞ノ

母ヲ捕へ、載セテ以テ郡ヲ擊チ母ヲ出シテ苞ニ示ス、苞悲號シ母ニ謂テ曰ク、微祿ヲ以テ奉養セント欲シ反テ母ノ禍ヲ爲ス、昔シハ母子ト爲テ今ハ王臣タリ、義トシテ私恩ヲ顧ミ忠節ヲ毀フコトヲ得ス、惟タ萬死ニ當ル、以テ罪ヲ塞クナケント、母遙カニ謂テ曰ク、人各々命アリ何ソ相顧ミテ以テ忠義ヲ虧クヲ得ン、汝其レ之ヲ勉メヨト、苞即チ進ミ戰フテ大ニ賊ヲ破リ其母賊ノ害スル所トナル、苞歸テ母ヲ葬リ終リ、郷人ニ謂テ曰ク、祿ヲ食ンテ難ヲ避クルハ忠ニ非ルナリ、母ヲ殺シテ義ヲ全フスルハ孝ニ非ルナリト、遂ニ愛憤シテ死ス

(九一) 黃巾賊トハ如何

謂ク鉅鹿郡ノ張角妖術ヲ以テ教授シ太平道ト稱ス、符水ヲ以テ病ヲ療シ、弟子ヲ四方ニ遣ハシテ轉々相誑誘シ十年ノ間ニ徒衆數十萬アリ、三十六方ヲ置ク、大方ハ萬餘、小方ハ六七千、各々渠師ヲ立テ皆黃巾ヲ額ニ加フ、所在ニ蟠伏シ旬月ノ間ニシテ一時ニ起ル、北地ノ太守皇甫嵩左中郎將ニ拜セラレ、朱儁右中郎將ニ拜セラレ、沛國ノ曹操ト軍ヲ合セ賊ヲ擊テ之ヲ破リ事平ラク

(九二) 何進奏シテ董卓ヲ京城ヲ召セシ所以如何

謂ク靈帝崩シテ太子辨立チ、太后何氏朝ニ臨ム、汝南ノ袁紹、宦官等ノ久シク漢家ノ權機ニ居リ以テ奸毒ヲ逞フスルヲ惡ミ大將軍何進ニ説テ悉ク之ヲ誅セントス、進以テ太后ニ白フス、太后曰ク中官ノ禁省ヲ統領スルハ漢家ノ故事ナリ、復タ何ゾ士人ト事ニ對セシヤト、紹遂ニ畫策シテ四方ノ猛將ヲ召シ、並ニ兵ヲ引テ京城ニ向ハシメ、以テ太后ヲ脅カサントス、進之ヲ然リトシ破虜將軍董卓ヲ京ニ召ス、卓字ハ仲穎隴西ノ人、性粗猛ニシテ膂力人ニ過ク、時ニテ賊ヲ敗テ武威三軍ニ冠タリ、召ニ應シテ即日途ニ就キ、上書シテ宦者ヲ捕ヘント請ヒ、驛ヲ馳セ兵ヲ進メテ平樂觀ニ入ラントス、太后大ニ懼レ中常待、小黃門ヲ罷メ悉ク里舍ニ歸ラシム

(九三) 袁紹閔貢等悉ク宦者ヲ誅セシ次第ヲ記セ

謂ク宦者張讓等悉ク罷メラレ皆大將軍何進ニ詣ツテ謝シテ曰ク、惟タ處置スル所ノマ、ト、紹乃チ勸メテ之ヲ斬ラシム、進躊躇シテ未タ決セス謀頗ル泄ル、讓ノ子ノ婦ハ何太后ノ妹ナリ、讓叩頭シテ曰ク、老臣罪ヲ得タリ、當サニ新婦ト私門ニ歸ルヘシ、惟タ願クハ一タヒ入直シテ太后ノ顔色ヲ奉望シ、然シテ後退テ溝壑ニ就カハ死ストモ恨ミス、太后乃チ詔シテ復タ皆入テ直セシム、進長樂宮ニ入り太后ニ白フシテ盡ク諸常侍ヲ誅セント請フ、張讓、段珪潜カニ人ニ聽カシメテ具サニ其語ヲ聞ク、乃チ其黨數十人ヲ率井、兵ヲ伏セテ何進ヲ斬リ、太后、少帝、及陳留王ヲ將井テ北宮ニ奔ル、尙書盧植戈ヲ執テ

閣道ノ臆下ニ立チ珪ヲ數ム、珪懼レテ太后ヲ釋ス、太后閣ニ投シテ免ル、ヲ侍タリ、袁紹兵ヲ引テ闕下ニ屯シ、遂ニ北宮門ヲ閉テ諸宦官ヲ捕ヘ、少長トナク皆之ヲ殺ス、讓珪等僅カニ遁レテ帝及ヒ陳留王ヲ將井河上ニ至ル、河南中部ノ椽閔貢追テ之ニ及ビ、聲ヲ厲マシテ讓等ヲ責メ數人ヲ斬殺ス、讓等惶懼シ河ニ投シテ死セリ

(九四) 董卓漢帝ヲ廢立セシ次第ヲ記セ

謂ク閔貢既ニ張讓等ヲ誅シ、帝辨及ヒ陳留王協ヲ扶ケテ南ニ行ク、董卓之ヲ北芒阪下ニ迎ヘテ帝ト語ルニ帝語ヲ全フスルコト能ハス、更ニ陳留王ト語リ禍亂ノ由ヲ問フニ始ヨリ終ニ至ルマテ遺失スル所ナシ、卓大ニ喜テ以テ賢ト爲シ、且ツ王ハ董卓太后ノ養フ所トナリ、自カラ姓ヲ同フスルヲ以テ、遂ニ廢立ノ意アリ、京ニ至テ袁紹ニ謂テ曰ク、天下ノ主ハ宜シク賢明ナルヘシ、靈帝ヲ念フ毎ニ人ヲシテ憤痛セシム、陳留王可ナルニ似タリト、紹曰ク今上春秋ニ富テ未タ天下ニ不善アラス、公嫡ヲ廢シ庶ヲ立テント欲ス、恐クハ衆從ハサラシヤ、卓劍ヲ按シ紹ヲ叱シテ曰ク豎子敢テ然ルヤ、天下ノ事ハ我ニ在リ、汝董卓ノ劍ヲ利カラスト爲スカト、紹勃然トシテ曰ク、天下ノ健者ハ豈惟タ董公ノミナランヤト、佩刀ヲ引テ橫楫シ、徑ニ出テ、冀州ニ逃奔セリ、卓遂ニ帝辨ヲ廢シテ弘農王ト爲シ、陳留王ヲ立テ、位ニ即カシム、之ヲ獻帝ト爲ス、尋テ卓マダ何太后ヲ弑セリ

(九五) 董卓ノ亂トハ如何

謂ク獻帝既ニ立テ、董卓自カラ相國ト爲リ劍履シテ殿ニ上ル、何后ノ葬ニ臨テ靈帝ノ陵ヲ發キ悉ク藏中ノ珍物ヲ取ル、又公主ヲ姦亂シ、宮人ヲ妻略シ、兵士ヲ縱ツテ洛中ノ資物ヲ剽掠ス、後洛陽ノ宮廟ヲ燒キ諸帝ノ山陵ヲ發キ西シテ長安ニ遷都ス、卓遂ニ朝廷ニ諷シテ太師ト爲リ、位諸侯王ノ上ニ在リ、自カラ帝者ノ車服ニ僭擬ス、是ニ於テ司徒王允、中郎將呂布等、相謀テ兵ヲ北掖ニ伏セ、卓ヲ誘ヒ殺ス、一時人心洶々トシテ朝夕ヲ保タサルニ至レリ、之ヲ董卓ノ亂ト云フ

(九六) 劉虞ノ事跡ヲ問フ

謂ク董卓ノ朝ニ立テ暴虐ヲ逞フシスルヤ、袁紹自カラ車騎將軍ト號シテ河内ニ屯シ、天下ノ豪傑ト共ニ卓ヲ伐タント欲ス、是ニ於テ關東ノ州郡兵ヲ起シ紹ヲ推シテ盟主トセリ、乃チ諸將議シテ曰ク、朝廷幼冲ニシテ董卓ニ逼ラル、遠ク關塞ヲ隔テ、存亡ヲ知ラス、大司馬劉虞ハ宗室ノ賢俊ナリ、之ヲ立テ、以テ共ニ戴カント、乃チ虞ニ尊號ヲ奉ル、虞色ヲ勵マシ叱シテ曰ク、今天下崩亂シテ主上蒙塵ス、吾レ重恩ヲ被テ未タ國耻ヲ雪クコト能ハス、官シクカラ戮セテ共ニ王室ヲ復興スヘシ、而ルニ返テ逆謀ヲ爲シ以テ相垢汚スルカト、匈奴ニ奔テ自カラ絶ント欲ス、紹等乃チ止ム

(九七) 公孫度ノ事蹟如何
 謂ク公孫度字ハ升濟遼東ノ人ナリ、同郡ノ徐榮董卓ノ將ト爲リ、度ヲ薦メテ遼東ノ太守ト爲ス、度高麗、烏桓ヲ伐テ大ニ其境域ヲ擴ム、時ニ中原大ニ亂レ、群雄諸隅ニ割據シテ戰鬪攻伐ヲ事トセシモ、度局外ニ中立シテ獨リ東方ニ威武ヲ輝カセリ、是ヲ以テ中國人トシノ亂ヲ避クルモノ皆往テ之ニ歸ス、度ノ遺業ハ三國ヲ經テ、司馬懿ノ爲メニ滅セラ

(九八) 呂布董卓ヲ刺セシ狀ヲ問フ

謂ク呂布字ハ奉先、五原ノ人ナリ初メ驍武ヲ以テ并州ノ刺史丁原ニ事カフ、董卓布ヲ誘ヒテ原ヲ殺サシメ、布ヲ以テ騎都尉ト爲ス、其勇ヲ愛シ誓ヘテ父子ト爲ル、布嘗テ少シク卓ノ意ニ逆フ、卓怒テ手戟ヲ拔テ布ニ擲ツ、布避ケテ免ルヲ得タリ、後司徒王允布ニ謀テ卓ヲ刺サントス、布曰ク父子ヲ如何セン、允曰ク君自カラ姓ハ呂、素ヨリ骨肉ニ非ス、戟ヲ擲ツノ時豈父子ノ情アランヤト、布乃チ之ヲ諾シ、卓入朝スルニ當テ、勇士ヲ北掖門ニ伏セ之ヲ刺サシム、卓車ヨリ墮テ大ニ布ヲ呼ブ、布曰ク、詔有テ賊臣ヲ討スト、聲ニ應シテ矛ヲ執リ卓ヲ刺セリ

(九九) 呂布末路ノ狀如何

謂ク卓已ニ刺ニ遇フ、其將李傕等兵ヲ擧ケテ關ヲ犯シ、王允ヲ殺ス、呂布走テ關ヲ出テ袁術ニ歸セリ、尋テ之ヲ去リ數々曹操劉備等ト雄ヲ爭フ、後徐州ノ牧タランコトヲ欲シ、陳登ヲシテ曹操ニ説カシメテ曰ク、將軍ヲ養フハ虎ヲ養フカ如ク肉ニ飽カシムヘシ飽カサレハ則チ人ヲ噬マント、操曰ク然ラス、譬ハ鷹ヲ養フカ如シ、饑ユレハ則チ人ニ附キ、飽ケハ則チ揚リ去ルト、登歸テ布ニ報ス、布望ヲ失フ、已ニシテ操來リ攻ム、布戰敗レ困迫シテ出テ降ル、操布ヲ縛シテ曰ク、虎ヲ縛スルハ急ナラサルヲ得スト、遂ニ之ヲ縊殺セリ

(一〇〇) 袁術ノ事跡ヲ問フ

謂ク袁術字ハ公路、司徒逢ノ子袁紹ノ從弟ナリ、紹、董卓ト隙アリ東ニ走ルヤ、卓ニ袁ノ變ヲ爲サンコトヲ恐レ、紹ヲ渤海ノ太守ト爲シ、術ヲ後將軍ト爲シ、之ヲ招キ致シテ以テ殺サント欲ス、術走テ南陽ニ據リ、長沙ノ太守孫堅ヲ遣ハシテ數々卓ヲ討伐セシム、已ニシテ壽春ニ移リ自ラ僭シテ帝ト稱ス、時ニ孫堅已ニ死シ其子孫策書ヲ與ヘテ曰ク、湯武ハ聖德アリト雖モ、桀紂道ヲ失フナクンハ、逼テ取ルニ由ナキナリ、今主上ハ徒ニ幼少ヲ以テ強臣ニ脅カサル、宜シク忠ヲ効シ節ヲ守リ、以テ王室ニ報スヘシト、術聽カス策コレヨリ術ト絶テリ、術僞號ヲ竊ンテヨリ淫侈度ナク、媵妾數百側ニ侍シテ日夜

宴樂ヲ事トス、是ニ於テ資財空乏シ自カラ立ツコト能ハスシテ、宮室ヲ燒キ其部曲ノ簡ニ奔ル、簡ノ人復タ之ヲ拒ム、遂ニ大ニ困窮シ、帝號ヲ從兄紹ニ歸シ、北シテ青州ニ至リ、紹ノ子譚ハ從ハント欲ス、劉備兵ヲ率井テ之ヲ道ニ要ス、術進ムコト能ハス、壽春ニ走リ還リテ遂ニ憂憤シス死ス

(一〇二) 袁紹ノ事跡ヲ問フ

謂ク袁紹字ハ本初、司徒湯ノ孫ナリ漢帝辨ノ時宦官ヲ族滅シテ功ヲ立テ、司隸校尉ニ拜セラル、董卓帝ヲ廢シ何后ヲ弑シ、獻帝ヲ立ツルニ及テ、奔リテ冀州ニ據リ、關東諸將ノ盟主ト爲リテ、數々董卓ト兵ヲ交ユ、卓誅戮セラルトニ及テ、幽州ノ公孫瓚ト連年雄ヲ爭ヒ、瓚稍々奢侈ニ耽リ、百姓怨叛スルニ乘シテ遂ニ之ヲ攻滅ス是ヨリ曹操ト交戦シ互ニ勝敗アリ、後精兵十萬騎一萬ヲ擇ヒ、大舉シテ許ヲ攻メント欲ス、沮授諫メテ曰ク曹操天子ヲ奉シテ以テ天下ニ令ス、今兵ヲ舉ケテ南ニ向フハ、義ニ於テ則チ違ハン、竊カニ公ノ爲メニ之ヲ懼ルト、紹聽カス操ト官渡ニ相拒ク、操襲テ其輜重ヲ破ル、紹ノ軍大ニ潰ユ、紹慚憤シテ遂ニ死セリ、三子アリ少子尙其後ヲ承ケ、長子譚ハ青州ノ刺史タリ、次子熙ハ幽州ノ刺史タリ、曹操譚ヲ擊テ之ヲ南皮ニ斬リ、熙尙遼東ニ奔テ公孫康ニ殺サル、

(一〇三) 東漢ノ名士ヲ記セ

謂ク東漢安帝以來朝政益々衰へ、而シテ名士愈ヨ多シ就中、黃憲楊震、荀淑、郭泰ノ四士ノ如キハ當時ノ名士ト稱スヘシ

(一〇四) 黃憲ノ事跡ヲ問フ

謂ク黃憲字ハ叔度、汝南慎陽ノ人ナリ、父ハ牛醫タリ、潁川ノ荀淑慎陽ニ至リ、憲ニ逆旅ニ遇フ、時ニ年十四、淑疎然之ヲ奇トシ、共ニ談リ、日ヲ移シテ去ルコト能ハス、憲ニ謂テ曰ク、子ハ吾ノ師表ナリト、已ニシテ袁閭ノ所ニ至リ、未タ勞問スルニ及パスシテ、曰ク子ガ國ニ顔子アリト 閭曰ク、吾叔度ヲ見ルカ、又大守王龔郡ニ在リ、賢達ヲ禮進シ、降致スル所多シ、然レモ卒ニ憲ヲ屈スルコト能ハス、郭林宋少シク汝南ニ游ブ、先ツ袁閭ヲ過キ、宿セズシテ退ク、往テ憲ニ從ヒ、累日ニシテ還ル、或人林宋ニ問フ、林宋曰ク、奉高袁閭ノ器ハ之ヲ汎濫ニ譬フ、清シト雖モ挹シ易ク、叔度ハ汪々トシテ千頃ノ波ノ如シ、之ヲ澄セモ清マス、之ヲ滄セモ濁ラズ量ルベカラサル也ト、

(一〇五) 羅馬ノ漢ニ通セシ顛末如何

謂ク漢土ノ名ノ歐洲諸邦ニ聞ユルニ至リシハ、班超ノ功ヲ絕域ニ建テシヨリ來ル、班超、椽甘英ヲ遣ハシ、往テ大秦當時支那人羅馬ヲ稱シテ大秦ト云フニ通シ、條支ニ抵リ、海ニ臨ミ渡ラント

欲ス、安息西界ノ船人、告クルニ海水廣大往復三歲ノ糧ヲ齎ラス可キヲ以テス、英遂ニ
顧疑シテ之ヲ止ムト云フ、當時支那ニテハ、北部ハルンヌヲ安息ト稱シ、南方灣ニ臨ム
ノ條支ト稱セリ

(一〇五) 班超ノ事跡ヲ問フ

謂ク班超字ハ仲升、扶風平陵ノ人ナリ、徐ノ令彪ノ少子ナリ、人爲リ大志アリ細節ヲ修
メス、然レモ内、實ニ孝謹家ニ居テ常ニ勤苦ヲ執リ、勞辱ニ屈セス、雄辨ニシテ書傳ニ
涉獵ス、兄ハ歴史家班固ナリ、兄妹皆ナ文事ヲ以テ著ハル、超獨リ武事ニ長ス、嘗テ業
ヲ止メ筆ヲ投シ歎シテ曰ク、大丈夫它ノ志略ナシ、猶當ニ傳介子張騫ニ效テ功ヲ異域ニ
立テ、以テ封侯ヲ取ルヘシ、安ソ能ク、筆硯ヲ友トセン哉ト、左右皆之ヲ笑フ、超曰ク
、小子安ゾ壯士ノ志ヲ知ランヤ、明帝ノ世ニ於テ西域諸國征シテ大功ヲ立テ、章帝ノ世
ニ又莎車ヲ擊テ之ヲ降シ、月氏龜茲ノ諸國ヲ平定シ、和帝ノ世ニ焉耆ヲ破フリ、遂ニ西
域五十餘國ヲ征服シテ裏海ノ濱ニ及ベリ、遂ニ永和九年甘英ヲ西羅馬ニ至ラシム、超ノ
西域ニ在ルコト三十一歳、年老タルヲ以テ上疏シテ歸ランコトヲ請フ、乃チ徵シテ還ス、拜
シテ射聲校尉ト爲ス、超素ト胷脇ノ疾アリ、既ニ至ルル病遂ニ加ハル、帝黃門ヲ遣ハシ
テ疾ヲ問ハシム、醫藥ヲ賜フ、十四年九月卒ス、年七十一、朝廷愍惜シ、使者弔祭贈甚
タ厚シ

第三編

近古史

(一) 三國鼎争ノ有様如何

謂ク東漢ノ末天下大ニ亂レ、群雄處々ニ割據シ各々一方ニ雄視セシカ終ニ三大國トナリ、鼎足ノ勢ヲナス、三大國トハ魏、吳、蜀ナリ、魏ニ曹操アリ、吳ニ孫權アリ、蜀ニ劉備アリ、各雄ヲ競ヒ、互ニ攻伐シ、天下紛争セシコ四十二年ニ亘レリ、世ニ之ヲ三國鼎争ノ時代ト云フ

(二) 曹操ノ事跡ヲ問フ

謂ク曹操字ハ孟德、一名ハ吉利、小字ハ阿瞞、沛國雒ノ人ナリ、身ノ長七尺聰明絶倫權謀ニ富ム、梁國ノ名士橋玄、人ヲ相ス、曾テ曹操ヲ見テ之ヲ異トシ、謂テ曰ク、天下將ニ亂レントス、命世ノ方ニ非サレハ濟フコ能ハス、能ク之ヲ安スルモノハ、其レ君ニ在ン乎ト、靈帝ノ世黃巾ノ賊ヲ討チ、功ヲ以テ濟南ノ相國ト爲ル董卓ノ獻帝ヲ廢スルニ及ビ、曹操諸豪ヲ率ヒ、卓ヲ討伐シテ兗州ノ牧トナリ、帝ノ洛陽ニ還ルニ及ヒ、大將軍ト爲リ、武平侯ニ封セラル、漢帝西ニ遷リシヨリ朝廷日ニ亂レシモ、此ニ至リ、宗廟社稷制度始メテ立ツ、是皆ナ曹操ノ功ニシテ、天下ニ覇タルノ所以是ニ出ツ、遂ニ天下ノ知勇ヲ網羅シ、帝ヲ擁シテ四方ニ號令シ、後ヲ帝許ニ遷シ操傑然トシテ北部ニ割據シ、出

テ、帝號ヲ稱ス、其版圖タル、東ハ遼東ニ至リ、西ハ嘉峪關ニ至リ、長江ニ至リ、北ハ

長城ニ在リ、黄河ノ河域ヲ占ム、十二州六十八郡、人口四百四十三萬二千餘ヲ有ツ、

(三) 孫權ノ事跡ヲ問フ

謂ク吳ノ孫權ハ孫堅ノ子、孫策ノ弟ナリ、始メ曹操ト同時ニ起リ、英雄ト稱セラレタル者ハ孫堅ナリ、然ルニ堅不幸ニシテ早ク不虞ノ鋒ニ死ス、二子策權父ノ業ヲ繼キ、江東ニ據リ天下ヲ争フ、孫策又早世シテ權ニ佩フル所ノ印綬ヲ授ク、故ニ其眞ニ鼎峙ノ勇ヲ争ヒシモノハ孫權ナリ、孫權字ハ仲謀、方願大口、碧眼紫髯、人ト爲リ宏度快濶知勇絶倫、人皆之ヲ仰ク、孫權已ニ嗣キ、父兄ノ遺命ヲ受ケテ江東ヲ治ス、周瑜ヲ以テ心膂トシ、張昭魯肅ヲ股肱トシ、其他異能奇材ノ士ヲ招ク、曹操孫權ニ任子ヲ責ム、周瑜之ヲ拒ミ、遂ニ質ヲ送ラス、孫權兵ニ將トシテ黃租ヲ破リ、遂ニ之ヲ斬リ、其男女數萬口ヲ虜ス、後チ帝ヲ武昌ニ稱シ、吳ノ太祖トナル、其版圖東南ハ海ニ至リ、北ハ長江、西北ハ烏江ニ至リ、五州四十三郡、人口二百三十萬餘ヲ保ツ、

(四) 劉備ノ事跡ヲ問フ

謂ク蜀ノ劉備字ハ玄徳、其先ハ漢ノ景帝ノ子、中山靖王勝ノ後ナリ、曹操孫堅ト同時ニ崛起シ、共ニ天下ヲ争フ、魏ノ東漢ヲ亡ボスニ及ヒ帝位ニ即キ蜀ニ都ス是ヲ蜀漢ノ昭烈

皇帝トス、劉地ヲ得ルヲ最モ晩ク、人ヲ得ルヲ最モ寡ナシト雖モ諸葛亮ノ賢、關羽張飛等ノ勇ヲ得テ、道ニ魏吳ト對峙ス劉備少ニシテ孤ナリ、家貧フシテ、母ト共ニ履ヲ販クヲ以テ業ト爲ス、然レ資性弘寛、言語寡ナク、素ヨリ大志アリ、身丈七尺、手ヲ垂レ、膝ヨリ下リ、自ラ顧ミテ其耳ヲ見ル、其版圖タルヤ荆益二州ニ跨リ、更ニ漢中ヲ併セ、二州二十二郡、人口九十萬餘ヲ有セリ、

(五) 蜀ノ治亂興亡如何

謂ク昭烈帝既ニ位ニ即キ、章武ト改元シ、成都ニ都ス、諸葛亮丞相タリ、二年帝自ラ將トシテ吳ヲ伐ツ、吳ノ陸遜蜀ノ營ヲ破ル、蜀軍潰敗シ帝夜ル遁ル、三年帝殂シ、其子劉禪立ツ、建興ト改元シ、孔明遺詔ヲ受ケ、政治ヲ補佐ス、魏主屢ハ舟師ヲ以テ吳ニ臨ミ江水長盛ニシテ志ヲ得ズシテ還ル、孔明北ノ方中原ヲ圖リ、屢々魏ヲ伐ツ、鞠躬盡瘁スルヲ十二年、遂ニ軍中ニ卒ス、蜀ノ霸業此ヨリ衰フ、後數年ヲ經テ魏相司馬昭鄧艾鍾會ヲシテ蜀ヲ伐シム、蜀人ノ不意ニ出テタルヲ以テ城守ヲ爲スニ暇アラス、帝出テ降り、終ニ魏ノ爲メニ滅セラル、蜀二代四十三年ニシテ亡ブ、

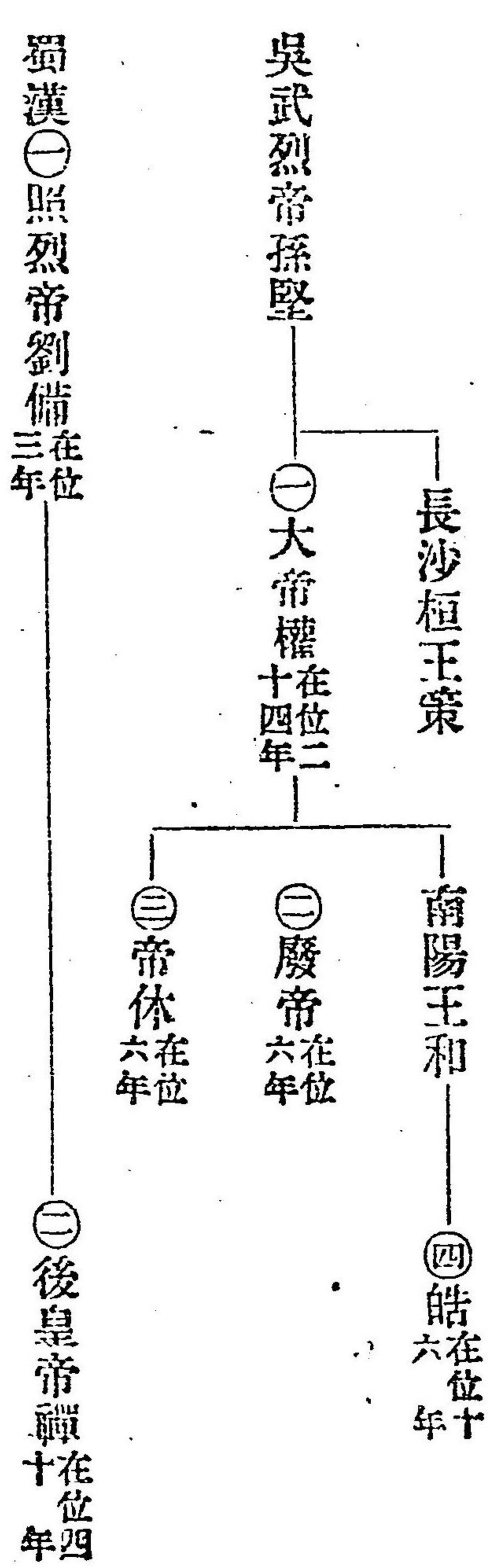
(六) 魏ノ治亂興亡如何

謂ク魏ノ文帝曹丕ハ曹操ノ子ナリ、東漢ノ帝位ヲ篡テ天位ニ即キ、洛陽ニ都ス、黃初ト改元ス、位ニ在ルヲ七年、子叡立チ、是ヲ明帝ト爲ス、明帝天姿秀英沈毅明敏、事ヲ裁決スルニ臣相皆ナ其大略ニ服ス、然レ性土功ヲ好ミ宴樂ニ耽ル、諫ムルモノアレハ皆之ヲ納レズ、明帝終ニ臨ミ、司馬懿ニ後事ヲ託シテ卒ス、在位十四年間、齊王芳立ツ、是ヲ廢帝邵陵王ト爲ス、厲公司馬師ノ廢スル所トナル、曹髦立ツ、是ヲ廢帝高貴郷公トス、司馬昭ノ廢スル所トナル、曹奐立ツ、是ヲ常道郷公元帝ト爲ス、元帝ノ時蜀ヲ滅セシガ後司馬炎終ニ位ヲ篡ヒ、國名ヲ晋ト改ム、魏文帝ヨリ五世四十六年ニシテ亡ブ、

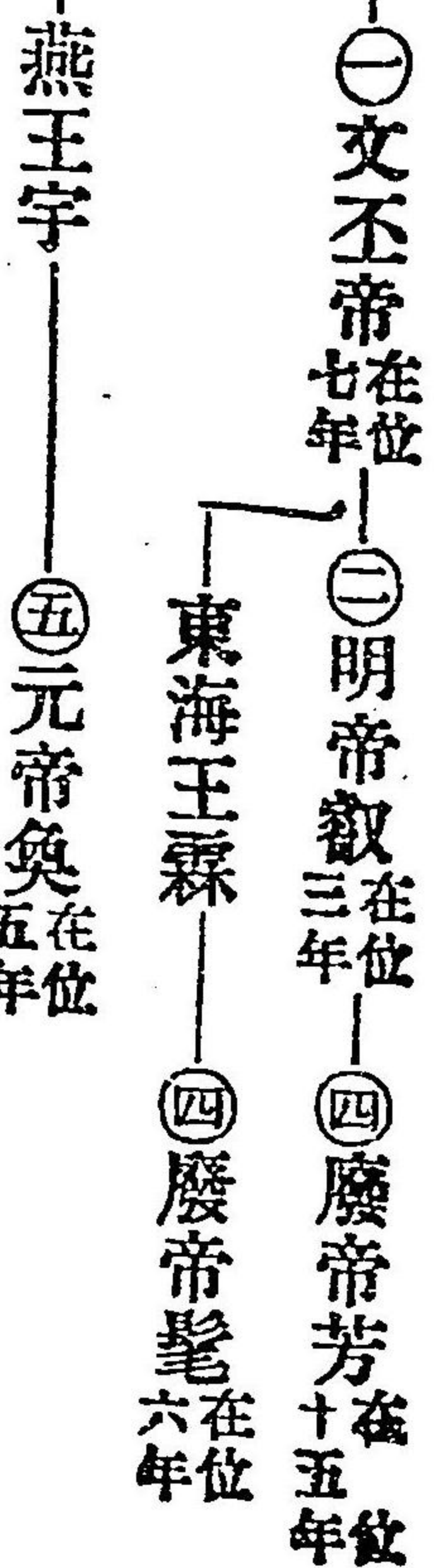
(七) 吳ノ治亂興亡如何

謂ク吳ノ大帝孫權已ニ建業ニ都シ、周瑜等ヲ股肱トシテ屢魏軍ニ勝テ大ニ霸威ヲ振フ、後數世ヲ經テ、遂ニ晋ノ爲ニ滅亡セララル、

吳王孫權帝ト稱セシヨリ四代五十二年ニシテ亡ブ、左ニ圖示ス



魏太祖武帝曹操



(八) 司馬懿孫淵ヲ擊ツノ所以如何

謂ク東漢ノ末遼東ノ大守公孫度、東ハ高句麗ヲ伐チ、西ハ烏桓ヲ擊チ、自ラ平州牧ト稱ス、孫淵ニ至リ魏ニ叛キ、自立シテ燕王トナル、景初二年魏司馬懿ヲシテ淵ヲ擊タシム、懿襄平ヲ圍ミ淵ヲ斬ル、遼東、帶方、樂浪、玄菟ノ四郡皆平定ス、

(九) 赤壁ノ戰トハ何ソヤ

謂ク曹操、劉表ヲ擊ツ、表卒ス、操ノ軍追テ新野ニ至リ、勢方ニ盛ナリ、表ノ子琮荊州ヲ舉ケテ操ニ降ル、劉備吳ニ走リ、救ヲ孫權ニ請フ、時ニ曹操書ヲ孫權ニ送テ曰ク、近者奉辭伐罪、旌旗南指、劉琮束手、今治水軍八十万衆、方與將軍、會獵於吳、ト孫權之ヲ群臣ニ示ス、長史張昭操ノ勢威ニ懼レ、之ヲ迎ヘント請フ、魯肅固ク執リテ聽カス、周瑜孫權ニ謂テ曰ク、漢操名ヲ相ニ托スト雖死、其實ハ漢賊ナリ、將軍神武雄才ヲ以テ、兼テ父兄ノ烈ニ仗リ、江東ニ割據シ、地方數千里兵精シク用ユルニ足リ、英雄業ヲ樂ム、當ニ天下ニ横行シ、漢家ノ爲ニ殘ヲ除キ、穢ヲ去ルヘシ、請フ將軍ノ爲メニ之ヲ籌セン、

今北土未タ平ゲス、馬超、韓遂尙關西ニアリ、操ノ後患ヲ爲ス、操鞍馬ヲ舍テ、舟楫ニ在リ、吳越ト術ヲ争フ、今又盛寒馬ニ糞草ナシ、中國ノ士衆ヲ馳セテ、遠ク江湖ノ間ニ涉リ、土ニ習ハス必ス疾病ヲ生セン、此數者ハ用兵ノ患ナリ、操皆之ヲ冒ス、將軍操ヲ擒ニスル今日ニ在ルベシ、瑜諸ノ精兵數萬ヲ得テ、進テ夏口ヲ往キ、將軍ノ爲ニ之ヲ破ラン、ト孫權刀ヲ拔キ、前ノ奏案ヲ研テ曰ク、諸將吏敢テ復タ操ヲ迎與フベシト言フモノアラバ、此案ト同ジカラント、直ニ瑜ヲ以テ三萬人ヲ督セシム、瑜進テ操ト赤壁ニ會ス、乃チ蒙衝鬪艦十艘ヲ取テ、燥荻枯柴ヲ載セ、油ヲ其中ニ灌井、帷幔ニ裹ミ、上ニ旌旗ヲ建テ、豫メ走舸ヲ備ヘテ其尾ニ繫ク、先ツ書ヲ操ニ遣リ、詐リ降ラント欲ス、時ニ東南風急ナリ、蓋十艘ヲ以テ最モ前ニ着ケ、中江帆ヲ舉ケ、餘船次ヲ以テ進ム、北軍ヲ去ル一二里餘、同時火ヲ發ス、火烈シク風猛ク、船馳スルノ如ク、北船ヲ燒盡シ、烟焰天ニ漲リ、人馬溺燒スルノ無數、瑜等輕銳ヲ率井テ其後ヲ繼キ大ニ進ム、北軍大ニ潰テ、操走ル、劉備、周瑜、水陸並ヒ進ミ、追テ南部ニ至ル、操軍死スル者大半、遂ニ軍ヲ引テ還ル、後世之ヲ赤壁ノ戰ト云フ、

(一〇) 曹操周瑜ノ人ト爲リヲ慕フ如何

謂ク初メ曹操、瑜ノ人ト爲リヲ慕ヒ、辨士蔣幹ヲシテ布衣葛巾、私ニ行テ瑜ヲ説カシム、

瑜出テ、迎ヘ、立ロニ之ニ謂テ曰ク、子翼(蔣幹ノ名)良々苦ミ、遠ク江湖ヲ涉テ曹氏ノ説客ト爲ル乎ト、因テ幹ヲ延キ、共ニ周チク營中ヲ觀セシメ、官庫、軍資、器仗ヲ視ル、訖リ還テ飲宴ス、因テ幹ニ謂テ曰ク、大丈夫世ニ處シ、知己ノ主ニ遇ヒ、外ハ君臣ノ義ニ託シ、内ハ骨肉ノ恩ヲ結ビ、言聽カレ計行ハレ、禍福之ト共ニス、假令蘇秦ヲシテ復生セシムルモ、安ソ其意ヲ移サンヤ、ト、幹但タ笑テ言フ所ナク、還リ操ニ謂テ曰ク、瑜ノ雅量高致、言辭ノ能ク問スル所ニ非サル也、

(二) 司馬懿ノ篡立ヲ問フ

謂ク司馬懿字ハ仲達沈毅權略ニ富ム、初メ武帝ニ仕ヘ、武帝崩後明帝ニ仕テ、明帝歿ス、子芳立ツ、懿大傅トナリ、曹爽ヲ殺シテ丞相トナル、懿ノ子司馬昭ニ至リ、相國トナリ晉公ニ封セラレ、專權ヲ極ム、其子司馬炎魏主ヲ廢シテ天子ノ位ニ即ク、是ヲ晉世祖武皇帝ト爲ス

(三) 劉備諸葛孔明ヲ三顧セシ次第如何

謂ク瑯邪ノ諸葛亮字ハ孔明、襄陽ノ隆中ニ高臥シ、毎ニ自ラ管仲樂毅ニ比ス、時人之ヲ許スヲナシ、唯潁川ノ徐庶、雀淵平ト之ヲ然リト爲ス、劉備荊州ニ在リ、士ヲ襄陽ノ司馬徽ニ訪フ、徽曰ク、儒生俗士、貴時務ヲ識ンヤ、時務ヲ知ルモノハ俊傑ニ在リ、此間

自ラ伏龍鳳雛アリト、劉備問フ、誰ト爲ス、曰ク諸葛孔明龐士元也、傲庶新野ニ於テ劉備ヲ見ル、劉備之ヲ器トス、庶備ニ謂テ曰ク、諸葛孔明ハ臥龍也、將軍豈之ヲ見ルヲ願フ乎、劉備曰ク、君與ニ來レ、庶曰ク、此人ヲ見ルベシ、屈致スヘカラス、將軍宜シク駕ヲ枉ケテ之ヲ願ルヘシ、備是ニ由テ亮ヲ訪フ、凡ソ三度往キ乃チ見ユ、因テ策ヲ問フ亮乃チ三分ノ策ヲ陳シテ曰ク、曹操百萬ノ衆ヲ擁シ、天子ヲ挾テ諸侯ニ令ス、是レ誠ニ與ニ鋒ヲ爭フ可カラス、孫權江東ニ據リ、國險ニシテ民附キ、賢能ク之レガ用ヲ爲ス、此レ與ニ援ヲ爲スヘク圖ルヘカラルナリ、若シ將軍荊益二州ヲ跨有シ、其巖阻ヲ保チ戎越ヲ撫和シ、好ヲ孫權ニ結ビ、内政治ヲ修メ、外時變ヲ觀、天下事アラハ則チ荊州ノ軍ハ宛洛ニ向ヒ、益州ノ衆ハ秦川ニ出テバ孰レカ箠食壺漿シテ將軍ヲ迎ヘサルモノアラシヤ、此ノ如クナラハ、漢室興リ霸業成ルヘシ、劉備曰ク善シト、是ヨリ亮ト情好日ニ厚ク、用テ丞相トス、

(三) 諸葛亮魏ヲ伐ツノ始末ヲ問フ

謂ク丞相亮相軍ヲ率井テ北ノ方漢中ニ駐マリ、魏ヲ伐ツ長史張裔、參軍蔣玩ヲシテ留府ノ事ヲ統ヘシム、發スルニ臨ミテ上書シテ曰ク、先帝臣ノ謹慎ヲ知り、故ニ崩スルニ臨ミ、臣ニ寄スルニ大事ヲ以テス、今ヤ南方已定マル、甲兵乙足、當サニ三軍ヲ獎テ北ノ

方中原ヲ定ムヘシ、庶クハ驚鈍ヲ竭シテ姦凶ヲ攘除シ、漢室ヲ興復シ、舊都ヲ還シ、此臣先帝ニ報シテ陛下ニ忠スル所以ノ戰分也、ト遂ニ行ヲ汚北陽平石馬ニ屯ス、明年亮大軍ヲ率テ祁山ヲ攻ム、參軍馬穆亮カ節度ニ違ヒ、大ニ街亭ニ敗ル、亮兵ヲ引テ散關ヨリ出テ陳倉ヲ圍ミ克タス、亮糧盡キ引キ還ル、魏ノ將軍王雙亮ヲ追フ、亮擊テ之ヲ斬ル、亮還テ農ヲ勸メ武ヲ講ジ、木牛流馬ヲ作り、邸閣ヲ治メ、米ヲ運シ又魏ヲ伐チ、兵ヲ分チテ屯田セシム、亮數々戰ヲ挑メモ司馬懿出テ戰ハス、幾ナラスシテ亮病篤ク遂ニ營中ニ卒ス、

(二四) 孔明ノ八陣トハ何ツヤ

曰ク天、地、風、雲、龍、鳥、虎、蛇ノ八陣ナリ

(二五) 孔明卒後司馬懿ノ舉動如何

謂ク諸葛亮既ニ卒ス、長吏揚儀軍ヲ整テ還ル、百姓奔テ司馬懿ニ告ク、懿之ヲ追擊ス、姜維儀ヲシテ旗ヲ反シ鼓ヲ鳴ラシ、懿ヲ向ハントスルカ如クセシム、懿敢テ逼ラヌ、百姓之レカ懿ヲ作テ曰ク、死セル諸葛、生クル仲達懿ノ字也ヲ走ラスト、懿笑テ曰ク、吾レ能ク生ヲ料ルモ、死ヲ料ルヨ能クナク

(二六) 劉備驛肉ヲ生スル事歎シテ如何

謂ク劉備軍ヲ領シテ汝南ニ至リ、汝南ヨリ荆州ニ奔ル、劉表備ノ至ルト聞キ、自ラ郊ニ出テ、迎ヘテ上賓ノ禮ヲ以テ之ヲ待ツ、其兵ヲ益シ、新野ニ屯セシム、劉備嘗テ表ノ座ニ於テ起テ劇ニ至ル、還テ慨然涙ヲ流ス、表怪テ之ヲ問フ、備曰ク常時身鞍ヲ離レヌ、驛肉嘗生セス、今復騎ラス、驛裏肉生ス、日月流ル、ガ如ク、老将ニ至ラントス、功業達ズ、是ヲ以テ悲ムノミト

(二七) 孔明馬謖ヲ斬ルヲ問フ

謂ク越雋ノ太守、馬謖才器人ニ過キ、好テ軍計ヲ論ス、亮深ク之ヲ異トス、劉備終リニ臨ミ、亮ニ謂テ曰ク、馬謖言其實ニ過ク、大ニ用ユベカラス、ト亮猶然ラスト爲シ、謖ヲ以テ參軍ト爲シ、殊ニ引見談論、晝ヨリ夜ニ違ス、祁山ニ軍スルニ及ビ、亮謖ヲ以テ諸軍ヲ督セシム、謖張郃ト街亭ニ戰ヒ、亮ノ節度ニ違ヒ、大ニ敗ル、亮漢中ニ還リ、涕ヲ揮テ馬謖ヲ斬リ、答ヲ引キ躬ヲ責メ、矢ヲ境内ニ布キ、詔シテ自ラ三等ヲ貶シ、右將軍ヲ以テ丞相ノ事ヲ行フ、

(二八) 西晉全國ノ版圖ハ如何

謂ク晉全國ヲ分テ十九州ニス、乃チ司州、兗州、豫州、冀州、并州、青州、徐州、荊州、揚州、涼州、雍州、秦州、益州、梁州、幽州、平洲、交州、廣州ニシテ、合計舞因

百七十三ナリ、

(一九) 西晉ノ治亂興亡ヲ問フ

謂ク晉ノ武帝司馬炎ハ司馬懿ノ孫ナリ、魏ヲ傾ケ、帝位ニ昇リ、洛陽ニ都ス、次デ魏ヲ亡ボシ、天下ヲ一統セシガ、晩年ニ至テ政ニ怠ル、惠帝立テ暗愚ナリ、皇后賈氏政ヲ亂シ、諸王族亂ヲ起シテ互ニ相殘害シ、國內ノ政機大ニ亂ル、初メ漢魏以來北方蒙古地ノ人種服從セシモノ皆從テ國ノ北部ニ居リシガ、漸ク強盛ノ勢ヲ成シ、是ニ至テ一方ニ崛起シ、劉淵等ヲ首トシテ國ノ西北部ニ割據スルモノ多シ、是ヲ五胡ノ亂ン云フ、後愍帝ノ時ニ至テ、長安ニ徙リ、劉曜ノ爲メニ滅亡サル、茲ニ於テ瑯琊王睿乃チ建康ニ即位ス、中宗元帝是ナリ

(二〇) 八王ノ亂トハ何ソヤ

謂ク武帝崩後太子立ツ、是ヲ孝惠帝ト爲ス、初メ武帝崩スルニ臨ミ、汝南王亮ヲ以テ皇后ノ父揚駿ト同シク政ヲ輔ケントス、駿其詔ヲ匿シ、矯テ亮ヲ許品ニ鎮セシム、惠帝已ニ立チ、賈后權ヲ擅ニシ、駿ヲ殺シ、揚太后ヲ廢シ、亮ヲ徵シテ入り、衛權ト共ニ政ニ參ス、亮、楚王瑋ト協ハス、瑋、賈后ニ諂ヒ、亮、權ノ廢立ノ謀アルヲ隠ユ、后乃チ帝ヲシテ瑋ニ詔シ、亮、權ヲ殺サシメ、又瑋ヲ坐シ、矯テ亮、權ヲ殺スノ罪ヲ以テ即日瑋

殺ス、后益々淫慾ヲ恣ニシ、太子遙ヲ廢シ、揚太后ヲ弑ス、時ニ趙王倫司馬懿ノ第九子、賈后賈后ノ從弟ノ太子ヲ殺スニ乘シ、遂ニ詔ヲ矯テ、齊王冏齊王修ノ子ト共ニ兵ヲ率テ宮ニ入り、后

ヲ廢シテ金墉城ニ幽シ、尋テ之ヲ害ス、倫自ラ相國侍中都督諸軍事ト爲リ、其嬖人孫秀

等勢ヲ恃ミテ縱恣ヲ極ム、冏内ニ不平ヲ懷ク、倫位ヲ僭シ、惠帝ヲ以テ太上皇ト爲シ、

之ヲ金墉ニ遷ス、是ニ於テ冏、河間王容惠帝ノ從叔、成都王穎惠帝ノ弟ト共ニ兵ヲ起シテ倫ヲ討ス、

倫兵敗シ、其將王與、倫ヲ廢シ惠帝ヲ迎ヘテ位ニ復ス、倫等誅ニ伏シ、冏京ニ入ル、

帝冏ヲ大司馬ニ拜ス、冏、大權握ニ在リ、酒色ニ溺レ入朝セス、座ナカラ百官ヲ召シテ

非法ヲ行フ、校尉李含リ、詐テ詔アリト稱シ、河間王容ヲシテ冏ヲ討セシム、容遂ニ表

ヲ上ケ、冏ヲ廢シ、成都王ヲ以テ政ヲ輔ケ、并ニ長沙王又ニ檄シ、内主ト爲サント謂フ

冏兵ヲ遣シテ又ヲ襲フ、又徑ニ宮ニ入り、帝ヲ奉シ、討テ冏ヲ斬ル、容心事ノ齟齬セル

ヲ以テ朝權ヲ執ルヲ能ハス、是ニ於テ將張方ヲシテ兵ヲ率ヒテ穎ト同シク京師ニ向フ、

帝又々又ニ詔シテ大都督ト爲シ、方等ヲ拒ク、東海王越京ニアリ、事濟ラサルヲ慮カリ

殿中將ト又ヲ收ヘテ金墉ニ送ル、又張方ノ爲ニ殺サル、穎、京ニ入り、尋テ鄴ニ還ル、

容穎ヲ表シテ皇太弟ト爲シ、相國ニ位シ、乘輿服御及ヒ宿衛兵皆鄴ニ遷ル、左將軍陳胗、

不平、帝ヲ奉シテ穎ヲ討ツ、穎、將石超ヲ遣ハシ、帝ヲ蕩陰ニ敗ル、超遂ニ帝ヲ以テ鄴

ニ入ル、平北將軍王浚兵ヲ起シテ穎ヲ討ツ、穎戰敗ル、仍ホ帝ヲ擁シテ洛陽ニ還ル、時ニ容張方ヲシテ穎ヲ救バシメ、方遂ニ帝ヲ挾ム、穎、長安ニ歸ルニ及ビテ、容穎ヲ廢シテ豫章王熾ヲ立テ、皇太弟ト爲ス、東海王越徐州ヨリ兵ヲ起シ、大駕ヲ迎ク、容又穎ニ命シ、兵ヲ統ベテ之ヲ河橋ニ拒ク、戰敗レ、越ノ兵關ニ入り、惠帝ヲ奉シテ洛陽ニ還ル、惠帝崩シ、皇太弟立ツ、懷帝是ナリ、宗室迭ヒニ相殄滅シ、晉國大ニ亂ル、諸王事ニ關スルモノ凡テ八人、之ヲ八王ノ亂ト云フ、

(二) 河間王容ノ計畧ヲ遂ケザリシ所以如何

謂ク齊王冏ノ兵ヲ遣ハシテ長沙王又ヲ襲メヤ、心竊ニ以爲ラク、又弱クシテ冏強シ、故ニ又ハ冏ノ爲メニ殺サレ、而シテ又ハ又ヲ殺スノ罪ヲ以テ之ヲ討シ、因テ帝ヲ廢シテ、穎ヲ立テ、己ニ宰相ト爲リ、以テ政ヲ擅ニスベキヲ冀フ、然ルニ又先ツヲ殺スニ及ビテ、其計遂ニ果サス、茲ニ於テ兵ヲ率テ京師ヲ襲ヒシナリ

(三) 五胡華ヲ亂ルノ始末如何

謂ク晉室ノ大亂ニ乘シ、夷狄四ニ起ル、漢以來南匈奴ノ後裔塞内ニ居ル者、其先世漢ノ甥ナルヲ以テ劉氏ヲ稱ス、魏ノ武帝其衆ヲ分テ五部トス、晉ノ武帝左賢王ノ子淵ヲ以テ五部ノ帥トス、晉ノ天下大ニ亂ルニ際シ、淵左國城ニ至リ、漢王ト稱ス、胡晉ノ之ニ歸スル愈々衆シ、懷帝ノ二年漢王劉淵帝ト稱シ、テ平陽ニ都ス、其子聰及ヒ石勒ヲシテ晉ヲ改メシメ、洛陽ニ至ル、遂ニ之ヲ陷レ、帝ヲ執ヘテ平陽ニ送リ尋テ之ヲ殺ス、五胡トハ胡、羯、氏、蓋、及ヒ鮮果ナリ

(三) 劉淵ノ傳ヲ問フ

謂ク劉淵字ハ元海、左賢王豹ノ子ナリ、幼ニシテ聰明雋異博ク經史ニ通ス、長スルニ及ヒテ射ヲ善クシ、膂力人ニ絶ス、侍子トナリテ洛陽ニ在リ、王渾之ヲ重シ、屢々帝ニ薦メテ曰ク、淵文武ノ長才アリ、陛下任スルニ東南ノ事ヲ以テセハ、吳ハ平クルニ足ラサル也、ト豹卒スルニ及ンデ、淵ヲ以テ代テ左部帥トナシ、己ニシテ北部ノ都督トス、淵財ヲ輕ンシ、施ヲ好ミ、心ヲ傾ケ物ニ接ス、五部ノ豪傑靡然トシテ之ニ歸ス、遂ニ中原ヲ一統スルノ志アリ、是ニ至テ漢王ト稱シ、都ヲ平陽ニ遷レ、其將石勒ヲ遣ハシ、荐ニ晉ノ内部ヲ攻ム、淵ノ從祖右賢王宣族人ニ謂テ曰ク、漢亡ビシヨリ以來、我輩干徒ニ虛號ヲ有シ、手ヲ歛メテ役ヲ受ケ、奄チ百年ヲ過ク、左賢王英武超世、天苟クモ匈奴ヲ興スコトヲ欲セズンバ、必ス虛シク此人ヲ生セザラン、今ヤ司馬氏骨肉相殘シ、四海鼎沸ス、呼韓邪ノ業ヲ復センコト、此レ其時ナリト、遂ニ左國城ニ至リテ、大單于ト爲ル、二旬ノ間、衆五萬都ヲ左國城ニ建テ、國號ヲ建テ漢ト曰ヒ、改元シテ元熙ト曰フ、淵死シテ太

子和立チ、其弟聰弒シテ之ニ伐ル、

(二四) 石勒ノ事跡ヲ問フ

謂ク石勒ハ武卿ノ甥人ナリ、雄才大度ニシテ又武勇アリ、晋ノ世擾亂スルニ當リ、漢主劉淵ニ仕ヘテ其將トナリ、劉聰ト共ニ晋ヲ討チ、洛陽長安ヲ陥ル、劉聰卒シ、劉粲其臣靳準ノ爲メニ弒ラル、ニ及ヒ、勒準ヲ討ツ、劉淵ノ族子曜自立シテ勒ヲ封シテ趙公ト爲ス、勒自ラ趙王ト稱ス、曜亦號ヲ改メテ趙トナシ、勒ヲ後趙ト云フ、互ニ兵ヲ構ヘ鬪戰ス、東晋ノ顯宗成帝ノ弟、勒大ニ曜ノ軍ヲ破リ、曜ヲ擒ニシ、之ヲ殺ス、是ニ於テ天王ト稱シ、尋テ帝ト稱ス、晋ノ成帝咸和八年ニ卒ス、

(二五) 淵聰ノ人ト爲リハ如何

謂ク聰ノ資性驍勇絶倫、博ク經史ニ涉リ、善ク文ヲ屬シ、弓ヲ彎ク一三百斤、成都王穎、聰ヲ以テ積弩將軍ト爲ス、後洛陽及長安ヲ陷レ、懷帝ヲシテ青衣ヲ着シ、酒ヲ行ハシムルニ至ル

(二六) 晋室滅亡ノ基因ハ如何

謂ク武帝吳ヲ平ゲシヨリ、詔シテ州郡ノ武備ヲ撤去シ、兵馬ヲ解放シ、大郡ニハ武吏百人ヲ置キ、小郡ニハ五十人ヲ置クノミ、交州ノ牧陶璜上言シテ曰ク、州兵未タ約損シテ

以テ單虛ヲ示スヘカラス、ト侯景山濤モ亦奏シテ曰ク、宜シク州郡ノ武備ヲ去ルヘカラスト帝之ヲ聽カス、而シテ漢魏以來羌胡鮮卑ノ降ル者、多ク之ヲ塞内ノ諸郡ニ處ク、侍御史郭欽徒論戎ヲ唱ヘ、上疏シテ曰ク、戎狄疆圉ニシテ古ノ歷テ患ヲ爲ス、宜ク吳ヲ平クル威、及ヒ謀臣猛將ノ略ニ由テ漸ク内地ノ雜胡ヲ邊地ニ徙シ、四夷出入ノ防ヲ峻クシ先王荒服ノ制ヲ明ニスヘシト帝聽カス、遂ニ於テ遂ニ五胡ノ亂始マリ、遂ニ晋室ヲ倒スノ基因トナレリ、

(二七) 大傅越等終末ハ如何

謂ク永嘉二年、劉淵自ラ皇帝ト稱シ、都ヲ平陽ニ遷シ、其子聰及ヒ石勒等ヲ遣ハシテ晋ニ寇セシム、晋大傅越、使ヲ遣ハシテ羽檄ヲ以テ天下ノ兵ヲ徵セシモ卒ニ至ルモノ無シ、五年越卒ス、大尉王衍等越ノ喪ヲ奉シ、還テ東海ニ奔ル、石勒輕騎ヲ以テ之ヲ追フ、一人モ得テ免ル、モノナシ、衆皆ナ死ヲ畏レテ自ラ陳ス、獨リ襄陽王範、神色儼然、衆人ヲ叱シテ曰ク、今日ノ事何ソ紛紜タラン、ト、勒、孔萇ニ語テ曰ク、吾天下ヲ行ク一多シ、未タ嘗テ此輩ノ人ヲ見ズ、尙存スベキヤ、萇曰ク、彼ハ皆晋ノ王公子ナリ、終ニ吾用ヲ爲サス、勒曰ク、要スルニ加フルニ鋒刃ヲ以テスベカラス、ト、夜人ヲシテ之ヲ殺サシム、越ノ柩ヲ剖キ、其屍ヲ焚ク、曰ク、天下ヲ亂ル者ハ此人ナリ、吾天下ノ爲ニ之

ヲ報スト世子毗及ヒ宗室四十八王皆勒ニ沒ス

(二六) 洛陽長安ノ陥落ヲ問フ

謂ク漢主聰、前軍大將軍呼宴晏ヲシテ、兵萬二千ヲ將テ洛陽ニ寇セシム、河南ニ到ルニ及ビテ、晉兵前後十二敗レ、死スル者三萬餘人、始安王曜、王彌、石勒皆兵ヲ引テ之ニ會ス、未タ至ラス、晏先ツ洛陽ニ至ル、外繼至ラザルヲ以テ俘掠シテ去ル、漢舟ヲ洛水ニ具シ、將ニ東ニ走ラントス、晏悉ク之ヲ焚ク、未タ幾ナラズ彌及ビ曜等繼テ至ル、晏乃チ先ツ宣陽門ニ克テ入ル、帝華林園ノ門ヲ出テ、長安ニ奔ラントス、漢兵進テ之ヲ執リ、太子詮ヲ殺シ、帝ヲ平陽ニ遷シ、會稽郡公ニ封ス、聰、曜等ヲ遣ハシ、長安ヲ攻メテ之ニ克ツ、曜ヲ以テ長安ヲ鎮セシム、

(二九) 孝愍帝ノ事ヲ問フ

謂ク安定ノ太守賈疋、馮翊ノ太守索紘ト晉室ヲ回復セシコトヲ謀ル、乃テ共ニ衆ヲ帥井テ長安ニ向フ、漢主聰、曜ヲ遣ハシテ長安ヲ鎮セシム、茲ニ於テ曜、疋等ト戰テ大ニ敗ル疋等兵勢頗ル震ヒ、秦王業ヲ迎ヘテ雍城ニ入ル、聰、懷帝ヲ弑スルニ及ンテ業、哀ヲ舉テ皇帝ノ位ニ即ク、是ヲ孝愍帝ト爲ス、麴允ヲ以テ左僕射ト爲シ、索紘ヲ以テ衛將軍ト爲シ、軍國ノ事悉ク之ニ委ス

愍帝建興四年劉曜攻メテ長安ヲ陥井リ、帝羊車ニ乘シ、肉袒出テ、降ル、群臣號泣車ヲ攀ツ、帝モ亦悲シ、御史中丞吉奮死ス、曜、帝ヲ平陽ニ送ル、聰帝ヲ以テ光祿大夫ト爲シ懷安侯ニ封ス、麴允自殺シ、索紘斬ラル、帝遂ニ害ニ遇ヒ、西晉四主五十二年ニシテ滅亡ス、

(三〇) 東晉ノ基業ヲ問フ

謂ク懷愍ノ兩帝ハ脆クモ漢兵ノ爲メニ殺サル、是ニ於テ瑯琊王司馬睿、位ニ建康ニ即キ、是ヲ中宗元帝ト爲ス、帝諱ハ睿字ハ景文、宣帝ノ曹孫、瑯琊王觀ノ子、初メ安東將軍タリ、時ニ海内大ニ亂レ、獨リ江東ヤ、安シ、中國ノ士民亂ヲ避ケテ江東ニ渡ルモノ多シ、其江東ニ據ルヲ以テ史家之ヲ東晉ト曰フ

(三一) 東晉輔弼ノ諸良ヲ問フ

謂ク王尊、祖狄、庾亮、下壺、刁協、陳碩、甘卓、周妨、劉混、陶侃等ノ諸良アリ初メ鎮東司馬王導、睿ニ説キ、其俊才英士ヲ收メテ之ト事ヲ共ニセシム、睿之ニ從テ豫屬百餘人ヲ辟ス、時人之ヲ百六椽ト謂フ、

(三二) 祖狄ノ事ヲ問フ

謂ク祖狄少ヨリ大志アリ、劉混ト俱ニ司州ノ主簿ト爲リ、同シク寢ス、中夜鷄鳴ヲ聞キ、

混ヲ蹴リ覺シテ曰ク、此レ惡聲ニ非ス、因テ起舞ス、江ヲ渡ルニ及ビテ、睿以テ軍諮祭
 狄酒ト爲ス、狄京師ニ居リ、驍健ヲ糾合ス、睿ニ言テ曰ク、晋室ノ亂上無道ニシテ下怨叛
 スルニ非ス、宗室權ヲ爭ヒ、自ラ相魚肉スルニ由ル、遂ニ戎狄ヲシテ虜ニ乘シテ毒ヲ中
 上ニ流サシム、今ヤ遺民既ニ殘賊ニ遭テ、人々自ラ奮ハンコトヲ思フ、大王誠ニ能ク將ヲ命
 シ、師ヲ出シ、狄輩ヲシテ之ヲ統ベテ以テ中原ヲ復セシム、郡國ノ豪傑必ス風ヲ望ミテ
 響應スルモノアラシ、ト睿素ヨリ北伐ノ志ナシ、狄ヲ以テ豫州刺史ト爲シ、千人ノ虜、布
 三千疋ヲ給シ、敢テ鎧仗ヲ給セス、自ラ召募セシム、狄部曲百餘家ヲ將テ江ヲ渡ル、中
 流楫ヲ擊テ誓テ曰ク、祖狄中原ヲ廓清スルコト能ハズシテ、復濟ラハ大江ノ如キアラント
 遂ニ淮陰ニ屯シ、治ヲ起シテ兵器ヲ鑄ル、二千餘人ヲ募リ得テ進ム、己ニシテ志ヲ得ズ
 ト感憤病ヲ發シテ卒ス

(三三) 睿即位ノ模様如何

謂ク祖狄ノ卒後、睿師ヲ出シテ露次シ、檄ヲ移シテ北往ス、己ニシテ愍帝ノ凶問建康
 ニ達スルヤ、睿遂ニ帝位ニ即ク、百官皆陪列ス、帝王導ニ命シテ御床ニ升テ共ニ座セシ
 ム、導固辭シテ曰ク、若シ太陽下テ萬物ト同シカラシニハ、蒼生何ニ由テ照ヲ仰カント
 乃チ止ム、帝嘗テ從容トシテ王導ニ謂テ曰ク、卿ハ吾蕭何也、ト

(三四) 大將軍漢ノ天王トハ何ソヤ

謂ク大興元年漢主聰卒シ、太子燦立ツ、太后ノ父斬準、燦ク弒シテ之ニ代ル、劉氏ノ男
 女少長皆ナ之ヲ東市ニ斬ル、淵聰ノ二陵ヲ發キ、聰ノ死ヲ斬リ、其廟ヲ焚キ、自ラ大將
 軍漢ノ天王ト號ス、石勒進ヲ討シテ之ヲ破リ、丞相曠僭シテ位ニ即キ、國號ヲ改メテ趙
 ト稱シ、單于ヲ以テ祖ト爲ス、

(三五) 王敦ノ亂ヲ問フ

謂ク元帝始メ江東ヲ鎮スルヤ、王敦其從弟王導ト心ヲ同クシテ翼戴ス、敦征討ヲ總ヘ、
 導機政ヲ專ラニス、群從子弟皆顯要ニ布列ス、時人爲ニ語テ曰ク、王ト馬ト天下ヲ共ニ
 スト、後敦驕恣ナリ、帝之ヲ畏惡シ、劉琨、刀協等ヲ引テ王氏ヲ抑損ス、導モ亦疎外セ
 ラル、敦、益々不平ヲ懷キ、遂ニ兵ヲ武昌ニ舉ゲ、劉琨ヲ罪狀ス、沈亮モ亦兵ヲ吳興ニ
 起シテ敦ニ應ス、帝大ニ怒リ、詔シテ曰ク、敦ヲ殺スモノアラハ、五千戸侯ニ封セント、
 戴淵劉隗ヲシテ入テ建康ヲ衛ラシム、王導其宗族二十餘人ヲ帥テ罪ヲ待ツ、敦石頭ニ
 據ル帝刁協劉隗戴淵等ヲシテ石頭ヲ攻メシメ、協隗俱ニ敗ル、帝憂憤シテ崩シ、明帝立
 ツ、敦、位ヲ篡ハンコトヲ謀ル、導、敦ヲ討ス、敦病ミ尋テ卒ス、敦ノ黨與悉ク平ク、

(三六) 王導周顛ヲ救ハサリシハ何ソヤ

謂ク王導其宗族二十餘人ヲ帥非テ、毎且臺ニ隨テ罪ヲ待ツ、周顛將ニ入ラントス、導之ヲ呼テ曰ク、伯仁周顛ノ字百口ヲ以テ卿ヲ累サン、ト顛直ニ入テ願ミス、既ニ帝ニ見エ、導ノ忠誠ヲ言ヒ、申救スルト甚タ至ル、帝其言ヲ納ル顛喜ヒ酒ヲ飲ミ醉テ出ズ、導猶門ニ在リ、又之ヲ呼ブ、顛與ニ言ハス、既ニ出ツ、又表ヲ上テ導ノ無罪ヲ明ニス、言甚タ割切、導之ヲ知ラズ、甚タ之ヲ恨ム、帝命シテ導ヲ還シテ朝服召シテ之ヲ見ル、導稽首シテ曰ク、賤臣逆子何代ニカ之レ無カラン、意ハザリキ今ヤ近ク臣ノ族ニ出デントハ、帝跳ニシテ其手ヲ執テ曰ク、茂弘方ニ卿ニ寄スルニ百里ノ命ヲ以テセン、是レ何言ソト導ヲ以テ前鋒大都督ト爲ス、既ニシテ敦、周顛ヲ殺ス、導之ヲ救ハス、後チ中書故事ヲ料檢シテ顛ノ表ヲ見ル、之ヲ執リ流涕シテ曰ク、吾伯仁ヲ殺サズト雖モ、伯仁我ニ由テ死ス、幽冥ノ間此良友ニ負クト、

(三七) 蘇峻ノ叛亂ヲ問フ

謂ク歷陽ノ内史蘇峻、前ニ臨淮、守タリ、王敦再ヒ闕ヲ犯セシ時入衛功アリ、威望漸ク著ハル、歷陽ニ在ルニ及ビテ卒銳ニ器精シク、志朝廷ヲ輕シテ亡命ヲ招納ス、瘦亮石頭城ヲ修メテ以テ之ニ備フ、建請峻ヲ徵シテ大司農ト爲ス、王導十壺滋嶠之ヲ諫ムレモ納レズ、峻遂ニ命ニ應セス、兵ヲ舉テ叛シ姑熟ヲ陷非ル、十壺、軍ヲ督シ、峻ト力戰シテ

死ス、瘦亮出奔ス、峻ノ兵闕ヲ犯ス、陶侃、温嶠、入テ峻ヲ討シテ之ヲ斬リ、亂平ク、

(三八) 陶侃ノ事跡ヲ問フ

謂ク陶侃ハ東晉第一ノ良臣ナリ、侃初メ明帝ノ時征西大將軍トナリ荆湘等八州ノ軍事ヲ都督ス、資性聰敏明毅善ク斷ス、人之ヲ欺クコト能ハス、軍ニアルコト四十二年、南陵ヨリ白帝ニ至ルマテ數千里、路、遺テタルヲ拾ハス、嘗テ州ニ在リ、朝ニ石甕ヲ齋外ニ運ヒ、暮ニ齋内ニ運フ、人其故ヲ問フ、答ヘテ曰ク、吾方ニカラ中原ニ致ス、故ニ勞ヲ習フノミト、其忠誠勤勞此ノ如シ成帝ノ世瘦亮ト共ニ蘇峻ノ叛ヲ討シテ功アリ、晋室ノ能ク社稷ヲ保チシモノ實ニ侃ノ力最モ多キニ居ル

(三九) 東晋ノ治亂興亡ヲ概示セヨ

謂ク元帝ノ事前ニ逃ブルカ如シ、明帝、成帝相繼テ明君ナリ、穆帝ノ時桓温ナル者大ニ五胡ノ秦ヲ敗リシカ、北部ハ爭亂益々甚シ、孝武帝ニ至テ謝安政ヲ行フ、時ニ秦ノ符堅大舉シテ來攻シ、謝玄大ニ之ヲ淝水ニ破ル、是ヨリ西北部愈亂レ、自立スルモノ十六國ニ至ル、其中拓跋氏最強大ニシテ王ト稱シ、國ヲ魏ト號ス、後安帝ヨリ恭帝ニ至テ劉裕ナル者征伐ノ功アリ、遂ニ帝位ヲ篡ヒ、國名ヲ宋ト改ム、時ニ北魏ノ拓跋氏モ亦更ニ強大トナリ、是ヨリ諸州皆兼有シ、宋ト魏ト天下ヲ二分シ、之ヲ南北朝ト稱セリ

(四〇) 桓温ノ事跡ヲ問フ

謂ク桓温人トナリ卓犖磊落英雄ノ姿性アリ、康帝ノ世蜀ヲ平クルノ功ヲ以テ征西大將軍ト爲リ、臨賀郡公ニ封セラル、穆帝ノ世又秦ヲ征シテ功アリ、是ニ於テ威名一世ニ高ク、陰ニ不忠ノ志ヲ抱キ、先ツ功ヲ河朔ニ立テ還ツテ九錫ヲ受ケントセリ、然ルニ帝奕ノ世ニ至リ、燕ヲ征シテ枋頭ニ利アラス、玆ニ於テ威名頓ニ挫ク、嘗テ枕ヲ撫シテ歎シテ曰ク、男子芳ヲ百世ニ流スト能ハズンハ、亦當サニ臭ヲ萬年ニ遺スベシ、ト温遂ニ入朝シ大后ニ白シテ帝ヲ廢ス、尋テ温疾アリ、姑孰ニ還ル、疾篤シ、諷シテ九錫ヲ求ム、安担之故ヲニ其事ヲ緩ニシ、温遂ニ卒ス

(四一) 桓温漢ヲ伐ツノ始末如何

謂ク孝宗穆帝永和三年、温帥ヲ率テ漢ヲ伐ツ、拜表シテ行ク、朝廷蜀道陰遠ニシテ、温ノ衆少ナク、深入スルヲ以テ憂トス、惜惟劉以爲ラク必ス克タント、既ニシテ温自ラ歩卒ヲ將テ直ニ成都ヲ指ス、漢主勢、衆ヲ悉シテ出テ戯フ、温勝ニ乘シテ成都ニ至リ火ヲ縱チテ其城門ヲ燒ク、漢人惶懼シテ又鬪フノ志ナシ、勢、隆文ヲ温ニ降リ、尋テ觀ヲ與ヒ面縛シテ軍門ニ詣ル、温縛ヲ解キ、襯ヲ焚キ、勢及ヒ宗室十餘人ヲ建康ニ送り、賢ヲ擧善ヲ旌ハス、蜀人之ヲ悦フ、詔シテ勢ヲ歸義侯ニ封ス、漢遂ニ亡ブ

(四二) 桓温秦伐ヲツノ始末如何

謂ク永和十年、桓温帥ヲ率テ秦ヲ伐チ、大ニ秦兵ヲ藍田ニ敗リ、進ミテ灊上ニ軍ス、三輔ノ郡縣皆來リ降ル、温、居民ヲ撫諭シ、堵ニ安シ、菜ニ復セシム、民争テ牛酒ヲ持シ、迎ヘ勞ス、男女路ヲ夾ミテ之ヲ觀ル、耆老泣ヲ垂ル、モノナリ、曰ク圖ラザリキ今日復官軍ヲ觀ントハ、

(四三) 王猛ノ事跡ヲ問フ

謂ク王猛ハ北海ノ人、字ハ景略、少ニシテ學ヲ好ム、倜儻卓異ニシテ大志アリ、初メ華陰ニ隱ル、桓温、關ニ入ルコヲ聞キ、禍ヲ被テ之ニ謁ス、虱ヲ捫テ當世ノ務ヲ談ス、旁ラ人ナキカ如シ、温之ヲ異トシ問テ曰ク、吾レ命ヲ奉シテ殘賊ヲ除クニ三秦ノ豪傑未ダ至ル者アラサルハ何ソヤ、猛曰ク、公千里ヲ遠トセス深ク敵境ニ入ル、今長安呎尺ニシテ灊水ヲ渡ラス、百姓未ダ公ノ心ヲ知ラス、至ラザル所以也、ト温默然トシテ以テ應スルコナシ、徐クシテ曰ク、江東卿ニ比無シ、乃チ猛ヲ軍諮祭酒ニ署ス、温、秦兵ト白鹿原ニ戰フ、利アラス、温、猛ト俱ニ還ラントス、猛從ハス、後秦主苻堅ニ事フ、符堅其材略ヲ奇トシ、一歳ニシテ五タヒ其官ヲ遷ス、猛、賢ヲ輔ケ才ヲ擧ケ、廢職ヲ修メ農桑ヲ課シ、因窮ヲ恤レム、秦ノ民悅服セザルハナシ、後燕ヲ討テ關東ヲ平ゲ、晋ヲ討テ梁

益二州ヲ略取シ、尋テ丞相トナリ中外ノ諸軍事ヲ都督ス、是ニ於テ秦國大ニ治マリ、富強天下ニ敵ナシ、其病率スルニ及ビ、秦主大ニ之ヲ嘆シテ曰ハク、天啓ヲシテ天下ヲ平定セシムルコトヲ欲セサルカ、何ソ吾カ景略ヲ奪フノ速力ナルヤト、

(四) 劉裕ノ事跡ヲ問フ

謂ク劉裕ハ彭城ノ人、東晋ノ末ニ見ハル、相傳ヘテ漢ノ楚ノ元王ノ後ナリト云フ、幼字ハ寄奴、字ハ德興長スルニ及ヒ、勇健ニシテ大志アリ、身長七尺六寸、風骨高偉僅ニ字ヲ知ル劉牢之ノ軍ニ參タリ、曾テ賊ヲ覘ヒ、數千ノ賊ト會ス、裕乃チ長刀ヲ揮ツテ獨リ之ヲ驅リ、衆軍因ツテ勢ニ乘シ、進撃シテ賊ヲ破ル、裕ノ名是ヨリ知ラル、其後東晋ニ將相タルコト二十餘年、桓玄ヲ誅シ、孫恩盧循ヲ平ケ、南燕後秦ヲ滅シテ卒ニ晋帝ノ禪ヲ受ケ、帝位ニ即ク、在位三年ニシテ卒ス、

(五) 王猛最後ノ上疏

謂ク烈宗孝武帝、寧康三年、秦ノ丞相清河侯王猛率ス、初メ猛、疾ニ寢ス、上疏シテ曰ク、臣聞ク、德ニ報スルハ言ヲ盡スニ如クハ莫シ、伏惟ルニ陛下威烈八荒ニ震ヒ、聲教六合ニ光レリ、九州百郡十二其七ニ居リ、燕ヲ平ケ蜀ヲ定ムルコト、芥ヲ拾フカ如シ、夫レ作ヌ善クスルニ者ハ必スシモ成ラ善クセズ、始テ善クスル者ハ必スシモ終テ善クセズ

是ヲ以テ古先ノ哲王、功業ノ易カラサルヲ知り、戰々競々トシテ深谷ニ臨ムカ如シ、伏惟ルニ陛下隆ヲ前聖ニ追ハシ、天下幸甚カラシ、ト、符堅、之ヲ覽テ悲慟ス、是ニ於テ堅親ヲ猛ノ弟ニ至リ、疾ヲ視、訪フニ後事ヲ以テス、猛曰ク、晋ハ江南ニ僻處スト雖モ、正統相承ケ、上下安和、臣沒スルノ後、願クハ晋ヲ圖ルコトヲ爲ス勿レ、鮮卑、西羌ハ我仇敵ナリ、終ニ大患ヲ爲サン、宜シク漸ク之ヲ除クベシ、言訖テ卒ス、

(六) 謝安兄ノ子ヲ舉クル所以如何

謂ク晋、秦人ノ益々強大ニ至ルヲ憂ト爲シ、詔シテ文武ノ良將以テ北方ヲ鎮禦スベキモノヲ求ム、謝安乃チ兄ノ子玄ヲ以テ詔ニ應ス、郗超之ヲ聞キ、歎シテ曰ク、安ノ明、乃チ能ク衆ニ違テ親ヲ舉ゲ、玄ノ才以テ舉クル所ニ負カサルニ足レリ、吾嘗テ玄ト共ニ桓公ノ府ニ在リ、其才ヲ使フヲ見ルニ、屐履ノ間ト雖モ、未タ嘗テ其任ヲ得ズンハアラス是ヲ以テ之ヲ知ル、ト、玄廣陵ヲ鎮ス、戰ヲ捷タザルハ無ク、北府ノ兵ト號ス敵人ノヲ畏レサルハナシ、

(七) 淝水ノ戰ヲ問フ

謂ク秦王堅群臣大極殿ニ會シ、大舉シテ晋ヲ伐シコトヲ謀ル、諸臣多ク其不可ヲ陳シ之ヲ諫ム、堅聽カス、曰ク今吾カ衆ヲ以テ、鞭ヲ江足ニ投シテ其流ヲ斷タン、又何ノ險ヲカ

之レ恃ムニ足ランヤ、又曰ク、吾ヲ以テ晋ヲ擊ツハ猶疾風ノ秋葉ヲ掃フカ如シト、遂ニ

戎卒六十餘萬騎二十七萬騎ヲ以テ長安ヲ發シ、水陸齊シク進ム、前後千里、晋謝石謝玄ヲ

以テ衆八萬ヲ帥弄テ之ヲ拒カシム、既ニシテ秦兵泐水ニ追テ陳ス、晋兵渡ルコトヲ得ス、

謝玄使ヲ遣シ敵將ニ謂ハシメテ曰ク、君、軍ヲ懸テ深入シ、陳ヲ置クコト水ニ逼ル、此レ

乃チ久キヲ持スルノ計、速ニ戰ント欲スル者ニ非ザル也、若シ陳ヲ移シテ少シク却キ、

晋兵ヲシテ渡ルコトヲ得セシメ、以テ勝負ヲ決セバ、亦善カラスヤ、堅伴リテ之ヲ許シ、半

ハ渡ラシメ之ヲ蹙シメント欲シ、兵ヲ靡テ退カシム、秦ノ兵退キ復止ムベカラス、朱序

陳後ニアリ、呼テ曰ハク、秦兵敗ブレタリト、輒チ晋軍ニ奔ル、玄等兵ヲ引キ、水ヲ渡

テ之ヲ追撃シ、大ニ之ヲ破ル、秦兵自ラ相踏藉シ、死者野ヲ蔽ヒ川ヲ塞ク、其走ル者風

聲鶴唳ヲ聞キ、皆以テ晋兵ノ至ルト爲ス、堅流矢ニ中リ、慕容垂之ヲ護シテ長安ニ還ル、

(四六) 謝安ノ事ヲ問フ

謂ク謝安ハ晋ノ宰相タリ、時ニ秦人屢入寇シ、邊兵利ヲ失シ、衆人危懼ス、安毎ニ之ヲ

鎮スルニ和靜ヲ以テス、其秦兵大舉入寇スルニ及デ都下震恐ス、謝玄入テ計ヲ謝安ニ問

フ、安夷然トシテ答テ曰ク、已ニ別ニ旨アリ、ト已ニシテ寂然タリ、玄、復言ハス、安

遂ニ駕ニ命シテ出テ、山野ニ遊フ、玄ト棋ヲ圍ミ、野ヲ賭ニス、安ノ棋常ニ玄ニ劣レリ、

是日玄懼レテ使チ敵手ト爲テ又勝タス、安遂ニ遊陟シ夜ニ至テ還ル、桓冲、深ク根本ヲ

以テ憂ト爲シ、粘銳三千ヲ遣シテ入テ京師ヲ援ケシム、安固ク之ヲ却ケテ曰ク、朝廷ノ

號分已ニ定テ兵甲闕クルコトナシ、西藩宜ク留メテ以テ防ヲ爲スベシト、既ニシテ秦兵敗

走スルヤ安時ニ方ニ客ト圍棋シ、書ヲ擲ケテ床上ニ置キ、了ニ喜ベル色ナク、棋ヲ圍ム

コト故ノ如シ、客之ヲ問フ徐クニ答ヘテ曰ク、小兒輩遂ニ已ニ賊ヲ破ル、既ニ罷テ内ニ還

リ、戶限ヲ過テ、屐齒ノ折ルコトヲ覺エスト云フ

(四九) 南北朝禪位ノ次第ヲ概示セヨ

謂ク漢土分レテ二大國トナル、宋ハ晋ノ遺業ニ依リテ南方ノ諸州ヲ割據シ、宋之ヲ齊ニ

傳ヘ、齊之ヲ梁ニ傳ヘ、梁之ヲ陳ニ傳フ、之ヲ南朝ト云フ、魏ハ北方ノ諸州ヲ據有シ、

後ニ東魏西魏ノ兩部ニ分レ、東魏ハ北齊ニ傳ヘ、西魏ハ之ヲ後周ニ傳フ之ヲ北朝ト云フ、

後周ハ北齊ヲ併吞シテ之ヲ隋ニ傳ヘ、隋ハ陳ヲ滅シ、南北一統ニ歸ス、

(五〇) 五胡十六國ノ名ヲ示セ

謂ク五胡ハ前胡ニ答ヘシ如ク、匈奴羯羌氏鮮卑ナリ、是等ノ蕃族河北河南ニ縱橫擾奪シ、

僭號シテ王ト稱スルモノ十六國アリ、曰ク前趙、後趙之ヲ二趙ト云フ、前燕、西燕、南燕、

北燕、之ヲ四燕ト云フ、前秦後秦、西秦之ヲ三秦ト云フ、前涼、後涼、南涼、北涼、西

涼之ヲ五涼ト云フ、己上ノ十四國ニ成、夏ヲ加ヘテ十六國ト云フ

(五二) 四燕ノ區別如何

謂ク慕容垂、秦ニ叛キ、河内ニ起リ、自立シテ燕王ト稱ス、之レ前燕ナリ、慕容冲、秦ニ叛キ、兵ヲ平陽ニ起シ、阿房ニ帝ト稱ス、之レ西燕ナリ、慕容德、廣固ニ據リ帝ト稱ス、之レ南燕ナリ、燕ノ慕容寶ノ子盛、帝ヲ龍城ニ稱ス、之レ北燕ナリ、後チ更メテ後燕ト稱ス、

(五三) 三秦ノ區別如何

謂ク秦ノ姚長、符堅ニ叛シ、北地ニ起リ、自ラ秦王ト稱ス、是ヲ後秦トス、後チ長安ヲ取リ大秦ト號ス、後秦ニ對シテ秦ヲ前秦ト云フ、符堅ハ遂ニ莫ノ弑スル所トナル、鮮卑ノ乞伏國仁隴右ニ據テ王ト稱ス是ヲ西秦王ト云フ

(五四) 五涼ノ區別如何

謂ク秦ノ故臣呂光、龜茲ヨリ還リ、涼州ヲ擊テ其刺史梁熙ヲ殺シテ之ニ代ル、光自ラ三河王ト稱シ、尋テ天王ト稱シ、國ヲ大涼ト號ス、是ヲ後涼ト爲ス、後涼ニ對シテ涼州ヲ前涼ト云フ、隴西ノ李暹、燉煌ニ據リテ自ラ涼公ト稱ス、是ヲ西涼トス、北涼ノ沮渠蒙遜、其君業ヲ弑シ、自ラ涼州ノ牧ト稱ス、是ヲ北涼トス、武威王利鹿孤、西河王ト稱ス、

是ヲ南涼ト云フ、

(五五) 夏成トハ何ソヤ

謂ク秦ノ赫連勃勃ハ、冒頭二十一世ノ孫秦ニ叛キテ朔方ニ據リ、自ラ大夏ノ天王ト稱シ、後長安ヲ陷レテ帝ト稱ス、是レ夏王ナリ、成ノ季氏、西境ニ據リ、巴氏ト稱スル者之ヲ成ト云フ之ヲ五胡ニ加ヘテ世ニ六胡ト爲ス

(五六) 五胡傑出ノ英雄中餘々タル者ハ誰ソ

謂ク五胡十六國ヨリ傑出ノ英雄ハ劉元海、(匈奴)石世龍、(羯)慕容皝、(鮮卑)符堅、(氐)姚興(羌)等ナリ、就中符堅ハ五氏中ニ於テ最モ卓々タル者ナリ

(五七) 十六國興亡ノ前後如何

謂ク成、二趙、冉魏、前燕、前涼ノ六國ハ符秦ニ先チテ亡ビ、二秦、四燕、四涼、及夏ノ十一國、皆符堅ニ後レテ起ル、

(五八) 南朝宋ノ治亂興亡ヲ問フ

謂ク劉裕既ニ晋ノ帝位ヲ篡テ國號ヲ宋ト改メ、建康ニ都ス、後屢魏ト侵伐セシガ、文帝ノ時王玄漠魏ヲ伐チ敗レテ歸ル、玆ニ於テ魏大舉シテ來寇シ、國威大ニ衰フ、是ヨリ宋屢廢立アリテ、順帝ニ至リ、蕭道成ナル者ニ滅ボサル、宋相傳フルヲ八代五十九年ニシテ

滅フ

(五) 南朝齊ノ治亂興亡ヲ問フ

謂ク齊ノ太祖蕭道成ハ漢ノ蕭何ノ末裔ト稱ス、深沈大志文ヲ能クス、宋ニ仕ヘテ相國トナリ、終ニ帝位ヲ篡ヒ即位ス、高帝ト稱ス後數代ノ間廢立多ク、遂ニ和帝ニ至テ蕭衍ナル者丞相トナリ、尋テ位ヲ篡ヒ自立ス、齊七世二十三年ニシテ滅フ、

(五九) 南朝梁ノ治亂興亡ヲ問フ

謂ク梁ノ武帝蕭衍ハ齊ノ疎族ナリ、英邁ニシテ文學ヲ好ム、兵ヲ起シテ一年餘、遂ニ建康ニ入テ、禪ヲ受テ帝位ニ即ク、帝孝慈恭儉ニシテ、江左久シク無事ナリ、唯佛法ヲ崇テ屢々佛寺ニ捨身ス、時ニ魂ハ分裂シテ東西トナリ、東魏ノ侯景ナル者、河南十三州ヲ以テ梁ニ降ル、既ニシテ又叛キ、兵ヲ引テ帝ヲ建康ニ圍ム、帝臺城ニ餓死ス、後侯景位ヲ篡ヒシガ、陳霸先ナル者之ヲ誅ス、光元帝ニ至リ、州郡大半西魏ニ奪ハレテ元帝出テ降ル陳霸先別ニ晋安王ヲ立ツ、是ヲ敬帝ト爲ス、次テ霸先位ヲ篡ヒ自立ス、梁、武帝ヨリ是ニ至テ四世五十六年ニシテ滅フ、

(六〇) 南朝陳ノ治亂興亡ヲ問フ

謂ク陳ノ武帝陳霸先ハ吳興ノ人ナリ、性倜儻ニシテ大志アリ、初メ梁ニ仕ヘテ陳公ニ封セラレ、尋テ爵ヲ進メテ王ト爲リ、竟ニ梁ニ代ル、在位三年ニシテ崩シ、文帝嗣ヲ立ツ、性明察ニシテ儉勤、在位八年ニシテ崩シ、太子伯宗立チ、是ヲ廢帝臨海王ト爲ス、文帝ノ弟安成王頊、伯宗ヲ廢シ自立シテ宗宣帝ト爲ス、在位十四年ニシテ崩シ、太子叔寶立チ、是ヲ後主長城公煬公ト爲ス、煬公日夜宴淫ニ耽リ、君臣酣歌ヲ事トス、時ニ隋兵來リ攻メテ霸業覆滅ス、陳、武帝ヨリ五世二十二年ニシテ亡フ、

(六一) 道武帝ノ勃興ヲ概示セヨ

謂ク符堅ノ地潰亂スルニ當リ、拓跋珪モ亦一方ニ興ル、是ヨリ先キ劉庫仁ノ子顯、珪ヲ殺サント欲ス、珪、賀蘭部ニ奔リ、其舅賀納ニ依ル、諸部ノ大人珪ヲ推シテ主トス、珪、大ニ牛川ニ會シテ代王ノ位ニ即ク、徙テ咸樂ニ居リ、後改メテ魏ト號ス、珪、附塞ノ諸郡ヲ侵シ、燕ト戰テ之ニ勝テ、皇帝ト稱ス、是ヲ道武帝ト爲ス、皆束髮シテ帽ヲ加ヘシム、珪人ノ夫ヲ殺シテ其妻ヲ納ル、子紹ヲ生ム、紹、兇狠無賴ニシテ生業ヲ顧ミス、遂ニ珪ヲ弑ス、道武ノ長子齊王嗣、紹ヲ殺シテ立ツ、是ヲ明元帝ト爲ス、

(六二) 檀道濟ノ事跡ヲ問フ

謂ク道濟ハ宋ノ武帝ノ臣ナリ、頗ル兵略ニ長シテ威名最モ盛ナリ、後讒ヲ以テ收ヘラル道濟憤怒目光炬ノ輝ク、憤テ脱シテ此ニ投シテ曰ハク、汝ガ萬里ノ長城ヲ壞ブルト、既

ニシテ誅セラル、魏人之ヲ聞キ喜テ曰ク、道濟死セハ吳子業又憚ルニ足ラズト、時人歌ツテ曰ク、可憐白浮鳩、枉殺檀江州ト

(六三) 大武帝ノ遠路ヲ問フ

謂ク世祖大武帝、名ハ熹、明元帝ノ子ナリ、英邁能ク兵ヲ用キ、大武燕ヲ伐テ之ヲ滅ホシ、又涼ヲ伐ツテ之ヲ降ス、尋テ柔然ヲ襲撃シテ之ヲ破リ、諸部降ル者數千萬落、馬牛羊二百餘萬、柔然是ヨリ魏ノ境ヲ侵サス、宋文帝ノ魏ヲ伐ツヤ、大武大ニ宋ヲ破ル、魏ノ中常侍宗愛、東宮ノ官屬ヲ譖ス、多ク坐セラレテ誅死セラル、太子晃、愛ヲ以テ卒ス、大武追悼シテ已マス、愛、懼レテ主ヲ弑ス、後諡シテ大武帝ト曰ヒ、廟ヲ世廟ト號ス、晃ノ子濬立チ、愛ヲ討テ之ヲ誅ス、

大武人ト爲リ勇健ニシテ陳頭親ヲ矢石ヲ犯ス、左右死傷相繼ケル神色自若タリ、是ニ由テ將士畏服シテ皆死力ヲ盡ス、人ヲ知ルニ明カニ或ハ士ヲ卒伍ノ中ニ抜キ、聽衆精微ニシテ深く下情ニ通ス、而シテ賞罰貴賤ヲ論セス終ニ寬貸ナシ、常ニ曰ク、「法ハ朕天下ト之ヲ共ニス、何ソ敢テ輕センヤ」ト然レテ性殘忍ニシテ殺戮ヲ果シ、後屢悔ユルコアリ、

(六四) 北朝魏ノ治亂興亡ヲ問フ

謂ク魏ノ道武帝松跋珪ハ北方蒙古種ノ人ナリ、北荒ノ俗、索ヲ以テ髮ヲ辨ス、因テ索頭族ト云フ、東晋ノ孝武帝ノ時拓跋王ト稱シ、國號ヲ魏トス、諸州ヲ征伐シテ次テ帝ト稱シ、平城ニ都ス、明元帝ニ至リ更ニ諸國ヲ兼并シ、太武帝ノ時、全國兩分シ、魏ハ北部ノ半ヲ有ツ、後數世相繼テ賢君多シ、孝文帝ノ時ニ至テ都ヲ洛陽ニ遷シ、政事ヲ革新ス後數世ニシテ政綱漸衰へ、奸臣權ヲ恣ニス、孝武帝ノ時高歡ナル者亟相トナリ、帝之ト隙ヲ生シ、長安ニ奔リ、宇文泰ニ據ル是ヲ西魏トス、高歡別ニ孝靜帝ヲ立ツ、是ヲ東魏トス、道武帝ヨリ十二、代百四十九年ニシテ魏、東西ニ分立ス、

(六五) 東魏ノ治亂興亡ヲ問フ

謂ク孝靜帝善見ハ孝文帝ノ孫、清河王亶ノ子ナリ、鄴ニ都ス、丞相高歡屢西魏ヲ攻ム、其子高洋次テ帝位ヲ篡フ、東魏ハ二代十七年間ナリ

(六六) 西魏ノ治亂興亡ヲ問フ

謂ク孝武帝備、長安ニ都シ、次テ文武實矩立チ、在位十七年ニシテ廢帝欽立チ、次テ恭帝廓立ツ、數世ノ間宇文泰權ヲ執リ、梁ヲ伐テ梁帝ヲ降シ、其子宇文覺終ニ位ヲ篡ヒ自立ス、西魏四代二十四年ニシテ滅フ、

(六七) 北齊ノ治亂興廢如何

謂ク北齊ハ高歡ノ一族ナリ、高歡ノ子高洋、位ニ即ク、是ヲ文宣帝ト爲ス、即位ノ後魏ノ族ヲ殺ス、後數世屢々弒逆アリ、六代幼主桓ニ至リ、遂ニ後周ノ爲滅ブ、其間二十九年ナリ、

(六七) 後周ノ治興廢如何

謂ク後周ハ宇文泰ノ一族ヨリ出ツ、宇文泰ノ子覺、位ニ即ク、是ヲ孝關帝ト爲ス、後弒ニ遇フ武帝邕ニ至テ賢君ト稱シ、北齊ヲ滅シ、再ヒ東西兩魏ノ後ヲ并ス、五代靜帝闡ノ時ニ至テ、外戚楊堅丞相隋王ト爲リ、次テ位ヲ篡ヘリ、依テ後周ハ五代二十五年ニシテ亡フ

(六八) 孝文帝ノ革新如何

謂ク孝文帝、資性純孝、喪ニ居リ哀毀禮ニ過キ、勺飲口ニ入ラサルモノ五日、中部曹華陰楊椿諫メテ曰ク、聖人ノ禮ハ毀レテ性ヲ滅セス、縱ヒ陛下萬代ニ賢ナランコトヲ欲スルモ、其レ宗廟ヲ奈何セン、ト帝其言ヲ悟リ爲ニ一タヒ粥ヲ進ム、帝國俗上世ノ陋ニ沿フヲ以テ洛ニ遷リ、以テ舊風ヲ變セント欲シ、京師ヲ發シ步騎百餘萬南伐シテ洛陽ニ至ル次年平城宮ニ至リ、遷留ヲ部分ス、帝北俗ヲ變セント欲シ、北語ヲ禁セシム、違フモノハ官ヲ免ス、又詔シテ遺書ヲ求メ、又衣服ノ制ヲ革ム、又詔シテ遷洛ノ人死スルモノアレハ、之ヲ河南ニ葬リテ北ニ遺ルコトヲ得サラシム、又國姓ヲ改メテ元氏ト爲ス、帝素ヨリ文學ニ長シ、本國ノ陋ヲ厭ヒ、華風ヲ以テ之ヲ變セント欲ス、故ニ斷乎トシテ此革新ヲ行ヒシナリ

(六九) 宇文泰ノ治蹟ヲ問フ

宇文泰字ハ黑獺、代郡武川ノ人ナリ、生レテ黑氣アリ、蓋ノ如シ、長スルニ及ヒテ身ノ長八尺、方頰廣額、鬚髯美ナリ、髭長クシテ地ニ委シ、手ヲ垂レハ膝ヲ過ク、背、黒子アリ、宛轉トシテ龍蟠ニ似タリ、面色紫光アリ、人望見シテ敬畏ス、南北百七十年間、策略敏機ニシテ規畫ノ悠遠ナル者未タ宇文泰ノ如キモノアラサルナリ、其謀臣ニハ蘇綽アリテ其智能ヲ盡シ、制度法律ヲ整定シテ内治ヲ圖ル、又六條ノ詔書ヲ爲リ之ヲ施行ス、一ニ曰ク清心、二ニ曰ク敦教化、三ニ曰ク盡地利、四ニ曰ク招賢良、五ニ曰ク恤獄訟、六ニ曰ク均賦役、秦甚タ之ヲ重ンジ、常ニ之ヲ座右ニ置キ又百司ヲシテ之ヲ習誦セシム、

(七〇) 雀浩ノ大武ニ於ケル關係如何

謁ク雀浩ハ大武帝ノ謀臣ナリ、大武常ニ浩ノ家ニ之キテ問フニ災異ノ事ヲ以テス、嘗テ浩ニ謂テ、卿ノ才智淵博、忠ヲ三世ニ著ハス、故ニ朕引テ以テ自ラ近ツク、卿宜シク忠

ヲ盡シテ規諫スヘシ、隱ス所アルヲ勿レト、嘗テ浩ヲ指シテ以テ高車渠師ニ示シテ曰ク、此人厄繼懦弱ニシテ弓ヲ彎キ矛ヲ持スルヲ能ハス、然レモ其胸中ニ懷ク所乃チ兵甲ニ過ク、朕ノ前後功アル、皆此人ノ教ユル所ナリ、ト浩、道士寇謙之ヲ信シ、太武ニ勸メテ崇奉セシム、太武浩ニ命シテ國史ヲ修メシム、先世ノ事ヲ書シテ其實ヲ詳ニス、石ニ刊シテ之ヲ路傍ニ立ツ、此人忿テ浩ノ國惡ヲ譖ス、太武大ニ怒テ其族ヲ夷ス

(七) 隋ノ興亡ヲ問フ

謂ク隋ノ文帝三國以來分争セシ天下ヲ一統ス、一ハ弘農ノ人、初メ北周二任ヘテ政ヲ執リ、遂ニ位ニ即ク、夷種族ニシテ支那帝位ニ登ルモノ帝ヲ以テ嚆矢トス、長安ニ都シ國名ヲ隋ト改メ、大舉シテ陳ヲ滅ス、帝性恭儉ニシテ天下皆服ス、次子楊廣其父兄ヲ弒シテ位ヲ篡フ、是ヲ煬帝トス、大ニ土木ヲ起シ以テ遊宴ノ用トス、又大舉シテ高麗ヲ征シ、却テ破レ還ル、賦役益煩苛ニシテ國內大ニ亂ル、竇建德御李密等ノ兵起ル時ニ、煬帝巡遊シテ江都ニアリ、淫虐日ニ甚シ、唐公李淵終ニ長安ニ入テ恭帝ヲ立ツ、煬帝遂ニ弒セテレ、次デ李淵位ヲ篡フ、唐ノ高祖是ナリ、隋ノ世三代三十七年ニシテ滅フ、

(七) 煬帝其父文帝ヲ弒スルノ始末如何

謂ク文帝初メ太子勇ヲシテ政治ヲ參決セシム、時ニ損益アリ、勇性寬厚、率直ニシテ矯飾ナシ、帝性節儉ニシテ、勇服用侈レテ、恩寵始メテ衰フ、勇内寵多シ、妃死シ、庶子多シ、獨孤皇后深ク之ヲ惡ム、次子普王廣、自ラ矯飾シ、嫡ヲ奪フノ計ヲ爲ス、后帝ヲ贊ケテ勇ヲ廢セシメ、廣ヲ立テ、太子ト爲ス、仁壽四年、帝不豫ナリ、太子ヲ召シテ殿中ニ居ル、太子豫メ帝ノ不豫後ノ事ヲ擬ス、書ヲ作テ僕射揚素ニ問ヒ、報ヲ得タリ、宮人誤テ帝ノ所ニ送ル、帝之ヲ觀テ大ニ恚ル、帝寵スル所ノ陳夫人出テ、更衣ス、太子ノ爲ニ逼ラレ之ヲ拒キテ免ル、トヲ得タリ、帝其神色異アル恚ミ、其故ヲ問フ、夫人泣然トシテ曰ク「太子無禮ナリ」帝恚テ床ヲ抵テ曰ク、「畜生何ソ大事ヲ付スルニ足ラン、獨孤我ヲ誤ル」ト、將ニ元ノ太子勇ヲ召サントス、廣之ヲ聞キ、右庶子張衡ヲシテ帝ヲ弒シ、又人ヲ遣ハシテ勇ヲ縊殺ス

(七) 煬帝ノ土工事ヲ問フ

煬帝ハ始皇以來奢侈驕傲ノ人物ナリ、即位ノ初メ首トシテ洛陽ノ顯仁宮ヲ營ム、役丁ニ百萬人勅シテ江嶺ノ奇材異石ヲ發シ、又海内ノ珍木奇獸ヲ求メテ以テ苑囿ニ實ツ、又通濟渠ヲ關鑿シ、長安ノ西苑ヨリ穀洛ノ水ヲ引キ河ニ達シ、河ヲ引テ汴ニ入レ、汴ヲ引テ泗ニ入レ、以テ淮ニ達ス、長安ヨリ江都ニ至ルマデ、離宮ヲ置クヲ四十餘所、西苑周回二百里、其内海ヲ爲ル周回十餘里、運河ノ長サ一千五百里、我ニナリ、後又永濟渠ヲ開キ、

泌水ヲ引キ、南、河ニ達シ、北、涿郡ニ通ス、又汾陽宮ヲ營ミ、又江南河ヲ穿テ、京口ヨ
ト餘杭ニ至ル、其長サ八百里我百ナリ

(七五) 唐高祖ノ事跡ヲ問フ

謂ク高祖神堯皇帝、名ハ帝、字ハ淑德、姓ハ李氏、隴西成紀ノ人、西涼武昭三高ノ後ナ
リ、西魏ニ仕ヘテ功アリ、隴西公ニ封セラル、隋末晋陽ノ精兵ヲ率ヒ亂賊群雄ヲ一掃シ、
六年ノ中、海内皆畏服ス、隋、唐王淵ヲ以テ相國ト爲シ、百揆ヲ總ヘ九錫ヲ加フ、己ニ
シテ隋ノ恭帝位ヲ唐ニ禪リ、唐王皇帝ノ位ニ即ク、帝、趙公世民ヲ以テ尙書令ト爲シ、
裴寂ヲ右僕射知政事ト爲シ、劉文靜ヲ納言ト爲シ、竇威蕭瑒ヲ内史令ト爲ス、是ヨリ先
キ劉文靜、世民ニ謂テ曰ク、今隋室亂シ車駕南巡シ、群盜蜂起ス、若シ驅駕シテ之ヲ用ヒ
太原ノ豪傑ヲ收拾シ、虛ニ乘シテ關中ニ入り、天下ニ號令セハ帝業成ラン、ト世民笑テ
曰ク、君カ言正ニ我意ニ合ヘリト、乃チ淵ニ説クニ意ヲ以テス、淵大ニ驚キ聽カス、世
民復説ク、淵歎シテ曰ク、汝カ言大ニ理アリ、今日家ヲ敗リ身ヲ亡スモ汝ニ由ラン、家
ヲ化シ國トナスモ亦汝ニ由ラント、遂ニ兵ヲ起シテ帝業ヲ成スニ至レリ、

(七五) 世民皇太子トナルル如何

謂ク高祖四男ヲ生ム、建成、世民、玄吉、玄孫而シテ世民最モ成功アリ、帝即位ノ初、

建成ヲ太子トシ、世民ヲ秦王トシ、元吉ヲ齊王トス、然レモ世民ノ威名益々高カリシカ
ハ、帝屢許シテ太子ト爲ス、太子建成其廢セラレンコトヲ懼レ、齊王ト世民ヲ害センコト
ヲ謀リ、遂ニ世民ノ害スル所ト爲ル、茲ニ於テ世民、立テ皇太子ト爲ル

(七六) 太宗ノ事跡ヲ問フ

謂ク太宗、殷湯周武ノ徳性ヲ備ヘ、秦孝漢武ノ識略ヲ運ラス、其英將ニハ李靖、尉遲敬
徳、李勣ノ英傑アリ、其謀臣ニハ杜如晦、房玄齡、珪魏徵ノ智勇アリテ、内治外征兩ナ
カラ整進ス、帝即位ノ初メ勳爵ヲ文武官ニ賜ヒ、關内及ヒ蒲、芮、虞、秦、陝、鼎、六州ノ二
歳ノ租ヲ免シ、天下ニ給復スルコト一年、民八十以上ノ者ニハ粟帛ヲ賜ヘ、百歳ニハ版授
ヲ加ヘ、潼關以東瀕河ノ諸關ヲ廢シ、尋テ又宮女三千餘人ヲ放ツ、貞觀二十四年太宗合
風殿ニ崩ス、年五十三、諡シテ文ト曰フ、後チ増諡シテ文武大聖大廣孝皇帝ト曰フ、

(七七) 太宗ノ治蹟如何

帝嘗テ曰ク、「朕躬ヲ詐ヲ爲サハ何ヲ以テ臣下ノ直ヲ責メン、方ニ至誠ヲ以テ天下ヲ治メ
ン」ト、或人法ヲ重クシテ盜ヲ禁センコトヲ請フ、帝曰ク、「當ニ奢ヲ去リ費ヲ省キ、徭ヲ輕
クシ賊ヲ薄クシ、廉史ヲ選用シ、而シテ民ヲシテ衣食餘リアラシメハ、自ラ盜ヲ爲
サス、安ソ重法ヲ用ユルコトヲ重センヤト」貞觀元年關東饑ユ、二年蝗アリ、三年大水ア

リ、太宗能ク之ヲ撫シタルヲ以テ人民更ニ怨嗟スルモノナシ、四年全國大ニ稔ル、米價甚々賤シ、終歲死刑ヲ行フニ纔ニ十九人、海内昇平路ニ遺チタルヲ拾ハス、外戸閉テス商旅野宿スルニ至レリ、太宗曾テ曰ク、「人主唯タ一心之ヲ攻ムルモノ衆ク、或ハ勇力ヲ以テシ、或ハ辨口ヲ以テシ、或ハ諂諛ヲ以テシ、或ハ姦詐ヲ以テシ、或ハ嗜欲ヲ以テシ輻湊シテ各々自ラ售ルヲ求ム、人主少シク懈リ、其一ヲ受クレハ、危亡之ニ隨フ、是レ其難キ所以ナリ」ト

(六) 則天武氏ノ亂ヲ問フ

謂ク武氏ハ荊州都督武士護ノ女、年十四ニシテ、太宗其美ヲ聞キ、召シテ後宮ニ入ル、貞觀十一年ヲ以テ才人ト爲ル、高宗、永徽五年武氏ヲ以テ昭儀ト爲ス、尋テ后トナル、高宗風眩ヲ苦ミ、百司ノ奏事ヲ視ルヲ能ハス、時ニ皇后ヲシテ之ヲ決セシム、后性巧慧ニシテ文史ニ涉獵シ、事ヲ處スル皆旨ニ稱フ、權人主ト等シ、人之ヲ二聖ト云フ、帝崩シ太子忠立ツ、后之ヲ廢シ、后ノ子弘ヲ立ツ、弘、仁孝ニシテ中外心ヲ屬ス、嘗テ后ノ意ニ忤ク、之ヲ鸙シテ其次ヲ立ツ、賢ト云フ、又事ヲ以テ之ヲ廢シ、其次哲ヲ立ツ、之ヲ第四世中宗ト云フ、后又帝ヲ廢シテ廬陵王トシ、房州ニ遷シ、其弟睿宗且ヲ立ツ、又之ヲ廢シ自ラ皇帝ト稱ス、之ヲ則天武氏トス、自ラ字ヲ製シテ聖ト名ク、是ニ於テ英公

李敬業、越王貞等兵ヲ起シテ之ヲ討ス、克タスシテ皆死ス、聖遂ニ大ニ唐ノ宗室ヲ殺シ次ヲ大臣數百家ニ及フ、又國號ヲ周ト改メ且ヲ以テ皇嗣トシ、武氏ヲ冒ラシム、神龍元年聖疾甚シ、張柬之等兵ヲ舉ケテ武氏ノ亂ヲ討ス、聖ヲ上陽宮ニ遷シ、尊號ヲ上テ則天大聖皇帝ト曰フ、聖殂ス中宗位ニ復シ又國號ヲ唐ニ復ス、

(七) 武后ノ政權ハ何ニ依テ把持セラレシヤ

謂ク武后性殘忍ニシテ淫虐極マレリト雖モ、能ク諫ヲ納レ、人ヲ知り、亦善ク人ヲ用ユ、徐有功仁恕ニシテ法ヲ執ル、聖常ニ意ヲ屈シテ之ニ從フ、是レ武后十六年間能ク政權ヲ把持セシ所以ナリ、將相多ク其人ヲ得タリ、魏元忠、婁師德、狄仁傑、姚元崇等皆名相ナリ、

(八) 章后ノ亂トハ何ソヤ

謂ク中宗廢セラレテ房陵ニアルル、屢自殺セントス、章后毎ニ之ヲ止ム、帝共ニ私ニ誓フ、異時幸ニ復天日ヲ見バ、惟欲スル所ノモノ禁セスト、是ニ至テ朝ニ臨ム毎ニ、后必ス帷幔ヲ施シテ殿上ニ坐シ、朝政ヲ預リ聞クヲ武氏高宗ノ世ニ在ルカ如シ、帝ノ女、安樂公主、武三思ノ子崇訓ニ適ク、三思是ヲ以テ宮禁ニ入ルヲ得、后淫亂ナリ、三思ニ通ス、後其露レシヲ恐レ、安樂公主ト謀リ、遂ニ帝ヲ毒弑ス、温王重茂ヲ立テ自ラ政ヲ

攝ス、時ニ相王ノ子臨淄王隆基兵ヲ起シテ韋氏ヲ討ス、后及ヒ安樂公主ヲ斬リ、重茂ヲ廢シ、相王ヲ奉シテ之ヲ立ツ、之ヲ睿宗皇帝ト爲ス、

(八一) 玄宗ノ失政ヲ問フ

謂ク太宗ノ經營セシ唐ノ天下ハ一タヒ武韋ノ亂ニ破ル、再ヒ玄宗ノ失政ニ破レリ、玄宗賢相ヲ任用シテ國治ヲ致スヲ欲セス、張久齡ノ賢相ヲ黜ケテ李林甫ノ奸佞ヲ用ヒ其亂源ヲ始ム、又武惠妃ノ讒ヲ信シテ諸皇子ヲ殺シ、宦官ヲ盛ニシテ内豎ノ亂ヲ啓キ、宮闈ヲ亂シテ女色ヲ喜ヒ、數州ヲ一鎮トナシ節度使ヲシテ此數州ヲ統ベシメ、藩鎮ノ禍ヲ啓ク、此等ノ失政ニ依リ、内憂外患一時ニ臻リ、遂ニ大ヲ亂生ス

(八二) 安祿山ノ叛亂ヲ問フ

謂ク睿宗皇帝在位三年ニシテ位ヲ皇太子隆基ニ傳フ、是ヲ玄宗皇帝ト云フ、玄宗天寶十四年祿山蕃將ヲ以テ漢將ニ代ヘント請フ、帝疑ハス、之ヲ許ス、十一月祿山遂ニ反シ、所部ノ兵及ビ奚契丹ヲ發ス、其兵凡ソ十五萬、范陽ヲ發シ、引テ南ス、步騎精銳煙塵千里、時ニ承平久シク人民兵革ヲ識ラス、州縣皆風ヲ望テ瓦解ス、進テ東京ヲ陷ル、自ラ燕帝ト稱ス、

(八三) 顏真卿賊ヲ討スルノ事ヲ問フ

謂ク平原太守顏真卿、兵ヲ起シテ賊ヲ討ス、初メ真卿祿山ノ將ニ反セントスルヲ知リ、霖雨ニ因テ城ヲ完クシ、壕ヲ浚クシ、丁壯ヲ料リ、倉庫ニ實ツ、祿山其書生ヲ以テ之ヲ易ル、真卿使ヲ遣ハシテ問道ヨリ奏ス、帝始メ河北賊ニ隆基ニ從フト聞キ、歎シテ曰クニ十四郡曾テ一人ノ義士無キ耶、真卿ノ奏至ルニ及ビテ大ニ嘉テ曰ク、朕真卿ノ何狀タルヲ知ラス、乃チ能ク此ノ如シト

(八四) 顏杲卿ノ事ヲ問フ

謂ク常山太守顏杲卿モ亦兵ヲ起シテ賊ヲ討ス、河北ノ諸軍皆之ニ應ス、賊史思明ナルモノ常山ヲ陷ル、顏杲卿兵ヲ起ス纔ニ八日守備未タ完カラス、急ヲ大原ノ尹王承業ニ告ク、承業之ヲ救ハス、杲卿晝夜拒戰、糧盡キ、矢竭キ城遂ニ陷ル、思明杲卿ヲ執ヘテ洛陽ニ送ル、杲卿忿リ敢テ屈セス、祿山縛シテ之ヲ髑ス、顏氏死スル者三十餘人、

(八五) 郭子儀ノ事跡如何

謂ク子儀ハ唐ノ玄宗ニ仕ヘテ朔方ノ節度使タリ、安祿山ノ亂ニ當リ、四方義勇ノ士并ビ起テ賊ヲ討ツ、子儀亦兵ヲ起シテ河北ノ節度使李光弼ト共ニ大ニ祿山ノ將史思明ヲ破ル、肅宗ノトキ副元帥トナリ、大ニ祿山ノ子慶緒ヲ破ル、常ニ身ヲ以テ天下ノ安危ニ任シ、代宗德宗歷任シ軍ニ在ルコト三十年、軍功天下ニ蓋フ、尙父大尉中書令トナリ、汾陽ノ忠武

王ニ拜セラル、家人三千人、八子七婿、皆顯ハレ諸孫數十人、安ヲ問フ毎ニ盡ク辨スルヲ能ハス、之ヲ額スルノミ、德宗ノ代年八十三ヲ以テ卒ス、光弼ハ子儀ニ先立テ死ス、兩將共ニ當代ニ名ヲ齊フシ、忠武ヲ以テ顯ハル、

(八六) 安祿山叛亂ノ初メハ如何

謂ク安祿山ハ固ト營州ノ雜胡ナリ、初メ名ハ阿摩山本姓ハ唐、母ハ阿史德、祿山傾巧ニシテ善ク人ニ事フ、玄宗之ヲ寵シ、授クルニ節鎮ヲ以テシ、後范陽節度使トス、己ニシテ御史大夫ヲ兼テシム、祿山請フテ楊貴妃ノ兒トナル、後爵ヲ東平郡王ト賜ヘ、河北道採訪處使ヲ兼テシム、勢威漸ク盛ニシテ唐ヲ輕スルノ志アリ、遂ニ唐ニ叛ス、後祿山其子慶緒ノ爲メニ殺サレ、慶緒モ亦史思明ノ爲メニ殺サル

(八七) 吐蕃ノ入寇如何

謂ク代宗廣徳元年、吐蕃三十餘萬入寇ス、帝倉猝爲ス所ヲ知ラス、陸州ニ出奔ス、吐蕃長安ニ入り、兵ヲ縱テ焚掠ス、長安蕭寂タリ、關内副元帥郭子儀之ヲ擊ツ、子儀、公孫全緒ヲシテ二百騎ニ將トシテ藍田ヲ出テシム、全緒晝ハ則チ鼓ヲ擊テ、夜ハ多ク火ヲ燃シテ以テ吐蕃ヲ疑ハシム、吐蕃懼レ、百姓之ヲ歌テ曰ク、「郭令公至ル」ルト、吐蕃遁去ル

(八八) 僕固懷恩ハ何ヲ誘フテ如何

謂ク叛將僕固懷恩始メ詔ヲ受ケテ回紇ト大原ニ相見ユ、辛雲京師ヲ嚮ハス、中使駱奉仙ヲシテ懷恩ノ反狀ヲ奏セシム、懷遂ニ回紇及吐蕃ヲ誘テ入寇ス、郭子儀ヲ召シテ涇陽ニ屯セシム、懷恩道ニ死シ、回紇吐蕃長ヲ争フテ睦シカラス、子儀人ヲシテ回紇ニ説カシメ、共ニ吐蕃ヲ擊タシム、尋テ子儀其營ニ至ル、回紇大ニ驚キ皆馬ヲ下テ羅拜ス、因テ相誓約シテ去ル、吐蕃聞テ遁去ス

(八九) 回紇ノ降從ヲ問フ

謂ク初メ懷恩、回紇ヲ欺キ、子儀已ニ死セリト謂フ、使至ル、紇信セズシテ曰ク、郭公在ラハ見ルヲ得ベキ乎、使還テ報ス、子儀數騎ト出ツ、人之ヲ諫メテ曰ク、大人ハ國ノ元帥ナリ、奈何ソ身ヲ以テ虜餌ト爲サン、子儀曰ク、今戰ヘハ則チ父子共ニ死シテ國家危シ、往テ至誠ヲ以テ之ト言フ、或ハ幸ニシテ從ハルレバ則チ四海ノ幸ナリ、然ラズンバ身死シテ家全シト、人ヲシテ傳呼セシメテ曰ク、令公來ルト、回紇大ニ驚キ、業葛羅、弓矢ヲ執リ陣前ニ立ツ、子儀胃ヲ免キ、甲ヲ釋テ進ム、諸酋長相顧テ曰ク、是ナリト、皆下馬羅拜ス、子儀之ヲ讓メテ曰ク、汝回紇、唐ニ大功アリ、唐ノ汝ニ報ユルヲモ亦薄カラス、奈何ソ約ニ負キ前功ヲ棄テ、惡仇ヲ結ビ、恩德ニ背キ叛臣ヲ助クル、今吾身ヲ挺シテ汝ノ我ヲ殺スニ聽スト、業葛羅、過ヲ謝シ、公ノ爲ニ力ヲ盡サンヲ誓フ、

吐蕃之ヲ聞キ夜遁ル、

(九〇) 藩鎮ノ禍ヲ問フ

謂ク德宗代宗ニ嗣キテ立チ、勉精治ヲ圖ルト雖モ、智慮淺闇ニシテ政法日ニ亂ル、茲ニ於テ諸鎮各々其地ニ據リテ跋扈ヲ極ム、淮西ノ李希烈最モ猖獗ニシテ襄城ニ寇ス、帝詔シテ涇原ノ道兵ヲ發シテ之ヲ救ハシム、涇原ノ節度使姚令言兵ヲ率ヒテ京師ヲ過キ、師ヲ稿フニ唯糲食菜餒ヲ以テス、衆皆怒テ亂ヲ作テ城ニ入ル、帝奉天ニ奔ル、亂兵太尉采泚ヲ奉シテ之カ主ト爲ス、泚遂ニ大秦皇帝ト稱シ、奉天ヲ犯ス李晟ノ兵來リ援ケ、尋テ渾瑊擊テ之ヲ破リ、奉天ノ圍遂ニ解クルコトヲ得タリ、李希烈又大楚皇帝ト稱ス、懷光亦反ス、帝梁州ニ奔ル、官庫ノ將李晟長安ヲ克復ス、朱泚走ル、其將之ヲ斬リ以テ降ル、車駕長安ニ還ル、淮西ノ將陳仙奇、李希烈殺シテ降リ、吳少誠、仙奇ヲ殺ス、帝因テ少誠ヲ以テ鎮ヲ領セシム、茲ニ於テ漸ク元惡ヲ誅シ大慙ヲ清ムルコトヲ得タリ、次デ順宗憲宗ノ朝、藩鎮復々屢々叛キシカ斐度伐テ之ヲ平ゲリ

(九一) 淮西ノ役ヲ問フ

謂ク淮西ノ吳少誠反ス、弟少陽嗣ク、少陽陰ニ亡命ヲ養フ、少陽死ス、子元濟嗣ク、兵ヲ繼テ侵掠シ、東畿ニ及ブ、詔シテ十六道ノ兵ヲ發シテ之ヲ討ツ、平盧節度使瑒師道、元濟ヲ救サント請フ、赦サス、此時斐度淮西ノ行營ヲ宣慰セシガ、還テ云フ、「淮西取ルベシ」ト帝悉ク兵事ヲ以テ同平章武事元衡ニ委ス、師道刺客ヲ遣リ元衡ヲ射殺シ、又斐度ヲ傷ク、帝怒テ賊ヲ討スルコト益々急ナリ、度ヲ以テ同平章事トス、帝曰ク、吾度一人ニ倚テ賊ヲ破ルニ足レリト、度ニ命シテ彰義節度使ヲ兼テ、淮西ノ宣慰招討使ニ充テ、賊ヲ討セシム、唐鄆節度使李愬李晟ノ子夜雪ニ乘シ、兵ヲ引テ蔡州城ニ入り、其不意ヲ擊テ、吳元濟ヲ執フ、梟シテ京師ニ送テ之ヲ斬ル、諸鎮繼テ降ル、元濟叛ヨリ誅ニ及ブマテ兵ヲ用ユルコト二歳ナリ

(九二) 斐度ノ事跡ヲ問フ

謂ク斐度ハ憲宗ノ名臣ニシテ器識宏遠善ク兵ニ將タリ、又能ク國ニ相タリ吳元濟ノ反ニ諸軍ヲ督シテ之ヲ討伐シ、淮西遂ニ平定ス、功ヲ以テ晉國公ニ封セラレ、金紫光祿大夫ニ進ミ、舊官ヲ以テ相ト爲リ、工部尙書ヲ兼テ、蔡ノ任ヲ領ス

(九三) 唐室反亂ノ數如何

謂ク其反亂ノ重ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 安祿山ノ反
(三) 田承嗣ノ反

(二) 王武俊ノ反
(四) 朱泚ノ反

(五) 李希烈ノ反

(六) 吳元濟ノ反

(七) 朱滔ノ反

(八) 大同軍ノ亂

(九四) 唐室宦官ノ禍ヲ問フ
謂ク穆宗敬宗ノ間ニ宦官益々其逆ヲ逞フシ、其勢制スカラス、敬宗宦官劉克明ノ爲ニ弒セラレ、宦官王守澄江王涵ヲ立テ之ヲ文宗ト爲ス、文宗ト爲ス、爾來太子ヲ廢立スルヲ其掌握ニアリ、專權殆ント人主ノ右ニ出ツ、故ニ當時ノ紳士皆其首ヲ俯シ、敢然トシテ之ニ抗スル者ナシ、獨リ劉蕡對策シテ大ニ宦官ノ弊ヲ論セリ、帝宦官ノ禍ヲ憤リ、之ヲ誅センコトヲ謀リシガ、前後皆敗レ、其謀臣宦官ノ爲ニ殺サル、尋テ武宗ノ時ニ、宦官仇子良最モ威勢ヲ專ラニシ、宰相ヲ蔑視シ、人主ヲ愚弄シ、專横至ラサル所ナシ、

(九五) 甘露ノ變トハ如何

謂ク宦官ノ權勢甚タ盛ナルヲ以テ、文宗ノ世ニ於テ李訓鄭注等ト共ニ謀ヲ合セ、密ニ計ヲ設ケテ宦官ヲ誘殺セントシ、先ツ人ヲシテ金吾廳後ノ石榴ニ甘露アルヲ奏セシム、帝即チ宰相ヲシテ先ツ往テ視セシム、尋テ宦者仇士良ニ命シ、諸宦官ヲ率ヒテ往テ視セシム、會々風幕ヲ吹キ、李訓等ノ伏スル所ノ兵士露ル、士良等驚キ走ル、李訓等事ノ露見ヲ知り、金吾ノ衛士ヲ呼ヒテ僅ニ擊テ宦者十餘人ヲ殺シテ逃走ス、既ニシテ士良等神策兵ニ命シ、宰相王涯賈餗等ヲ捕ヘ、誣ルニ謀反ヲ以テ之ヲ腰斬ス、上下側目ス、

(九六) 牛李ノ爭黨ヲ問フ

謂ク唐朝ノ史上ニ於テ最モ顯著ナル事實ハ牛李ノ爭黨ナリ、初メ李德裕事ニヨリテ李宗閔ヲ怨ム、朝ニ入ルニ及ヒ、李宗閔ヲ貶セリ、閔又タ宦官ニ結ビテ朝庭ニ入ル、更ニ牛僧孺ヲ引テ並ヒ相トシ、相黨ニ德裕ノ黨ヲ排斥ス、既ニシテ牛僧孺罷メ德裕再ヒ相トナリシガ、德裕又罷メテ牛僧孺之レニ代ハリ、兩黨互ニ相排軋スルコト四十年ニ垂ントス、成宗毎ニ嘆シテ曰ク、河北ノ賊ヲ去ルハ易ク、朝廷ノ朋黨ヲ去ルコトハ難シト、李德裕ハ西川ヲ鎔ス、籌邊樓ヲ作りテ蜀ノ地形ヲ圖シ、邊事ニ習フテ以テ之ヲ備フ、吐蕃ノ將悉恒謀、維州ヲ以テ來降ス、德裕極メテ此州ヲ得ルヲ便トス、僧孺以テ不可トナス、城ト叛將トヲ以テ歸ス、吐蕃之ヲ境上ニ誅ス、牛李ノ怨愈深シ、然レモ牛黨ハ私利ノ小人黨ニシテ、李黨ハ道義ヲ以テ相合シタル正義ノ政黨ナル故ニ遂ニ牛黨ニ勝ヲ制スルニ至レリ、

(九七) 唐末ノ亂ヲ概示セヨ

謂ク懿宗以來、唐ノ天下大ニ亂レ、群雄四方ニ起リ、百姓相聚リテ盜ヲ爲ス、乾符元年於テ僖宗皇帝黃巢ノ爲メニ蜀ニ出奔ス、巢、唐ノ宗室長安ニ在ル者ヲ殺シテ遺類ナ

ク、遂ニ宮ニ入りテ大齊皇帝ト僭號ス、玆ニ至テ群雄益々蜂起シ、國勢愈々衰微ス、時ニ朱全忠、兵ヲ舉ゲテ來ル、其勢威天下ニ振フ、終ニ篡奪ノ志ヲ起シ、昭宗ヲ弑シ哀帝ヲ立テ、又帝ニ逼テ位ヲ禪ラシム、唐高祖ヨリ是ニ至テ二十世、凡テ二百九十年ニシテ亡フ、

(九六) 唐朝滅亡ノ原因ハ如何

謂ク其原因概シテ三トス謂ク宦官ノ專横ナリシト、謂ク藩鎮ノ強盛ナリシト、謂ク朋黨ノ害是ナリ、是レ唐朝ノ社稷ヲ保ツト能ハザリシ三原因ナリト謂フ、

(九七) 李克用ノ事跡ヲ問フ

克用ハ唐末ノ人、沙陀ノ李國昌ノ子ナリ、本姓ハ朱邪、唐朝ニ仕ヘテ兵馬使トナリ、蔚州ニ戍ス、時ニ天下大ニ亂レ、朝廷ノ號令復タ四方ニ行レズ、克用驍名アリ、朝命ヲ以テ黃巢ヲ伐ツ、大ニ之ヲ破リ黃巢死ス、巢ノ將朱温官軍ニ降ル、朝廷名ヲ全忠ト賜ヒ、之ヲ厚遇ス、克用不平ニ堪ヘス、朝廷ヲ怨ム、昭宗ノ代晋王ニ上リ晉陽ニ還ル、全忠大志アリ、天子ヲ狹ミテ諸侯ヲ令ス、威天下ニ震フ、竟ニ唐帝ノ禪ヲ受テ帝位ニ即キ、國ヲ梁ト號ス、克用晉陽ニアリ、屢汴人ノ爲メニ攻メラレ、數州ヲ失フ、悵々トシテ病ムテ卒ス、克用勇略アリ、目微眇依テ獨眼龍ト稱ス、

(一〇〇) 韓愈之ノ事跡ヲ問フ

謂ク韓愈字ハ退之、鄧州南陽ノ人ナリ、退之生シテ三歲孤ナリ、伯兄會官ニ嶺表ニ貶セラルトニ隨フ、會卒シ、嫂鄭之ヲ鞠フ、退之書ヲ讀ムト知リシヨリ日ニ數千百言ヲ記ス、長スルニ及テ能ク六經百家ノ學ニ通ス、進士第ニ擢ラル、既ニシテ復タ博士ト爲ル、乃チ進學解ヲ作り、以テ自ラ論ス、執政之ヲ覽、其才ヲ奇トシテ比部郎中史館修撰ニ改ム、考功ニ轉ス、知制誥中書舍人ニ進ム、尋テ太子右庶子ヨリ元濟平刑部侍郎ニ遷ル、憲宗帝使者ヲ遣ハシ、鳳翔ニ往キ、佛骨ヲ迎ヘ、禁中ニ入レ三日乃チ佛祠ニ送ル、退之聞テ之ヲ惡ミ乃チ佛骨表ヲ上テ曰ク、

佛者夷狄之一法耳、自後漢時、始入中國、上古未嘗有也、昔黃帝在位百年、年百一十歲、少皇在位八十年、年百歲、顓頊七十九、年九十歲、帝嚳在位七十年、年百五歲、堯在位九十八年、年百十八歲、帝舜在位、及禹皆百歲、此時天下太平百姓安樂壽考、然而中國未有佛也、其後湯亦年百歲、湯孫大才在位七十五年、武丁在位五十年、書史不言其壽、推其年數、蓋不滅百歲、周文王年九十七歲、武王年九十三歲、穆王在位百年、此時佛法亦未至中國、非因事佛、而致然也、漢明帝時始有佛法、明年在位纔十八年、其後亂亡相繼、運祚不長、未梁齊陳元魏以下事佛漸謹、年代尤促、唯梁武帝四十八年前後三捨身施

佛、宗廟祭不用糝、晝日一食止於菜果、後爲侯景所逼、餓死臺城、國亦尋滅、事佛求福、乃更得禍、由此觀之、佛不足信亦可知矣、高祖姑受隋禪、則議除之、當時群臣識見不遠、不能究先王之道古今之宜、推數千百年以來、未有倫比、即位之初、即不許度入爲僧尼道士、又不許別立縱觀、臣當時以爲高祖之志必行於陛下、今縱未能即行、豈可恣之令盛也、今陛下令群僧迎佛骨於鳳翔、御樓以觀入大內、又令諸寺遽加供養、臣雖至愚必知陛下不惑於佛、作此崇奉、以祚福祥也、直以豐年之樂徇人之心爲京都士庶、設詭異之觀戲玩之具耳、安有聖明若此而肯信此等事哉、然百姓愚貧易感難曉、苟見陛下如此、將謂真心信佛、皆云、天子大聖猶一心信向、百姓微賤於佛豈合更惜身命、以至灼頂燔指、十百爲群、解衣散錢、自朝至暮、轉相倣效、唯恐後時老幼奔波棄其生業、若不即加禁遏、更歷諸寺必有斷臂禿身、以爲供養者、傷風敗俗、傳笑四方、非細事也、佛本夷狄之人、與中國言語不通、衣服殊製、口不道先生之法言、身不服先王之法服、不知君臣之義父子之情、假如其身尚在奉其國命來朝京師、陛下容而接之、不過宜政一見、禮賓一設賜衣一襲、衛而出之於境、不命貳於衆也、況其身死已久、枯朽之骨、凶穢之餘、豈宜以入宮禁、孔子曰、敬鬼神而遠之古之諸侯吊於其國、必令巫祝、先以桃茢、祓除不祥、然后進吊、今無故取汚穢之物、親臨觀之、巫祝不先桃茢不用群臣不言其非、御史不舉其失、臣實耻之、乞以此骨、付之水火、永絕根本、斷天下之疑、絕前代之惑使天下之人知大聖人之所作爲出於尋常萬々也、佛如有靈能作禍崇、凡有殃咎宜加臣身、上天鑒臨不怨悔、表入ル帝大ニ怒リ、退之ヲ貶シテ潮州刺史トス、退之更ニ表ヲ以テ哀謝ス、帝感悔シ乃チ袁州刺史ニ改ム、初メ退之ノ潮州ニ至ル民ノ疾苦ヲ問フ、皆曰ク惡溪鱷魚アリ、民ノ畜産ヲ食シ、且サニ盡ク、民是ヲ以テ窮スト、數日ニシテ退之自ラ往テ之ヲ視、其屬奏濟ヲシテ一羊一豚ヲ以テ谿水ニ投シテ、之ヲ祝セシム(祝文別ニアリ)祝スルノ夕、暴風震電谿中ニ起リ、數日ニシテ水盡ク涸レ、西ニ徙ルコト六十里、是ヨリ潮ニ鱷魚ノ患ナシト云フ

(102) 柳子厚ノ傳ヲ問フ

謂ク柳子厚名ハ宗元、父名ハ鎮、母ニ事フルヲ以テ大常博士ヲ棄テ、自ラ求メテ江南ニ縣令タリ、子厚幼ヨリ精敏、通セサル所ナシ、貞元十九年、藍田尉ヨリ監察御史ニ拜セラレ、順宗位ニ即キ、禮部員外郎ニ拜セラル、子厚王叔文ニ附キ、叔文ノ敗ニ由テ例シ出サレテ刺史ト爲リシガ、未タ至ラズ、又永州ノ司馬ニ例敗セラル、子厚閑ニ居リ、益々自ラ刻苦シ、記覽ヲ務メ、詞草ヲ爲リ、文氣別ニ一體ヲ開ケリ、元和中、子厚例シ召サレテ京師ニ至リ、又偕ニ出テ、刺史ト爲ル、而シテ子厚柳州ヲ得タリ、衡湘以南進士

タルモノ、皆子厚ヲ以テ師ト爲シ、其子厚ノ口講指畫ヲ經承シ、文詞ヲ爲ルモノ悉ク法
 度ノ觀ルヘキモノアリ、子厚元和十四年、十一月八日ヲ以テ卒ス、年四十七、韓退之、子
 厚ノ墓誌銘ヲ作ル、其文中子厚ヲ評シテ曰ク

子厚前時少年勇於進、不自貴重願藉、謂功業可立就、放坐廢既退、又無相知有氣力得位
 者推挽、故死於窮裔材不爲世用、道不行於時也、使子厚在臺省時自持其身己能如司馬刺
 史時、亦自不斥、斥時有人力能舉之、且必復用不窮、然子厚斥不久、窮不極、雖有出於
 八、其文學辭章必不能自力以致必傳於後世、如今無疑也、雖使子厚得所願、爲將相於一
 時、以彼易此孰得孰失、必有能辨之者、

第四編 近世史

(一) 五代トハ何ゾヤ

謂ク唐朝亡ビテヨリ國內大ニ亂レ梟雄互ニ帝位ヲ爭奪シ、交々立テ國政ヲ秉リシモノ五
 アリ

- 一、梁 始祖ヲ朱全忠ト云フ二世十七年ニシテ滅フ
- 二、唐 始祖ヲ李存勗ト云フ四世十四年ニシテ滅フ
- 三、晉 始祖ヲ石敬瑭ト云フ二世十二年ニシテ滅フ
- 四、漢 始祖ヲ劉知遠ト云フ二世四年ニシテ滅フ
- 五、周 始祖ヲ郭威ト云フ三世十二年ニシテ滅フ

(二) 五代梁ノ興亡ヲ問フ

梁ノ太祖朱全忠、初ノ名ハ温、碭山ノ人、初メ黃巢ニ從テ盜ヲナシ、後チ唐朝ニ降テ諸
 郡ヲ討平シ、屢晉克用ト戰ヒ、是ニ至テ唐ヲ傾ケ、帝位ニ即キ、國號ヲ梁ト改ム、此時
 李克用晉陽ニ據テ晉王ト號シ、其餘諸郡ニ割據スルモノ多ク、梁軍晉陽ヲ攻ムレモ克用
 ズ、太祖ノ子友珪帝ヲシテ自立セシガ、均王之ヲ誅シ、汴ニ即位ス、此時北方ノ夷族契
 丹ノ阿保機帝ト稱セリ、又李克用ノ子李存勗、父ニ代リテ屢々梁ヲ破リ、遂ニ汴ヲ陷シ

均王自殺シテ梁茲ニ亡フ、

(三) 王鐵槍ノ事跡如何

謂ク王彥章ハ梁朝ノ臣ナリ、常ニ鐵槍ヲ用ユルヲ以テ人呼テ王鐵槍ト云フ、智勇ヲ以テ聞ユ、梁晋ノ爭數百戰其勇將少シトセス、而シテ晋軍獨リ王彥章ヲ畏ル、其後梁主小人ヲ任用シ大臣老将多ク讒ク以テ疏ンセラル、皆怒リテ意心アリ、然ルニ彥章獨奮然トシテ少シモ屈セス、唐主其人トナリヲ愛シ、利ヲ以テ之ヲ降サントス、彥章曰ク、余本ト匹夫梁ノ恩ヲ蒙リテ上將ニ至ル、皇帝ト交戦スル茲ニ十五年、今ヤ兵敗レ力窮ス、死ハ自ラ其分ナリ、縱ヒ皇帝憐ンテ我ヲ生クルモ我何ノ面目アリテ天下ノ人ヲ見ンヤ、豈朝タニ梁ノ將トナリ暮ニ唐ノ臣トナルハ我ノ爲サ、ル所ナリト、遂ニ戰死ス、

(四) 後唐ノ興亡ヲ問フ

謂ク後唐ノ莊宗李存勗ハ沙陀ノ人ナリ、父克用唐ニ仕ヘ功ヲ以テ晋王ト爲レリ、莊宗諸州ヲ征略シ、遂ニ梁ヲ亡シテ位ニ即キ、國ヲ唐ト號シ、洛陽ニ都ス、莊宗死後嗣源位ヲ繼ク之ヲ明宗トス、明帝内聲色ヲ遠サケ、外ハ遊畝ヲナシ、宦官ニ任セス、兵革用フルコト罕レナリ、子閔帝立ツ、後明帝ノ義子從珂反シテ自立ス、之ヲ潞王トス、此時石敬瑭ナル者帝ト稱シ、契丹ノ兵ヲ率井テ洛陽ニ攻向フ、潞王遂ニ焚死シテ亡フ、

(五) 李存勗ノ事跡ヲ問フ

謂ク後唐ノ莊宗名ハ存勗、李克用ノ子ナリ、本姓ハ朱邪、先世功ヲ立テ姓ヲ李ト賜フ、克用將ニ死セントス、存勗ヲ立テ嗣トナシ、其下ニ謂テ曰ク、此子志氣遠大ナリ、必ラス能ク我事ヲ爲サント、年十七ニシテ晋王ノ位ニ即キ、幽州ヲ并セ、契丹ヲ郤ケ、梁ト百戰シテ之ヲ滅シ、帝位ニ即ク國號ヲ唐ト改メ、大梁ニ都シ、洛陽ニ移ル、後漸ク放恣ニシテ宴游ヲ事トセリ臣李嗣源叛ス、帝自ラ之ヲ伐チ、流矢ニ中ツテ崩ス、帝ト稱スルコト三年是ヲ莊宗ト云フ

(六) 石敬瑭ノ事跡ヲ問フ

謂ク晋ノ高祖、石敬瑭ハ沙陀ノ人後唐王明宗ノ婿ナリ、太原ノ藩鎮ト爲ル、固ヨリ唐主從珂ト隙アリ、唐主兵ヲ發シテ之ヲ討ス、敬瑭乃チ契丹ノ兵ヲ借ル、契丹主唐ヲ破リ、敬瑭ヲ立テ、帝トシ、國ヲ晋ト號シ、汴ニ都ス出帝代テ立チ、屢々契丹ト戰ヒ、後チ契丹ノ爲メニ攻メラレテ滅亡ス

(七) 後漢ノ興亡ヲ問フ

謂ク漢ノ高祖劉知遠ハ沙陀ノ人ナリ、初ノ晋ニ仕ヘテ功アリ、契丹、普ヲ滅シ大梁ニ入ル、知遠帝ヲ晉陽ニ稱レ、契丹退テ後チ汴ニ入り國ヲ漢ト號ス、子隱帝ノ時、讒ヲ信シ

賢臣ヲ殺戮シ、復郭威ヲ殺サント謀ル、威即チ兵ヲ率テ之ヲ攻ム、漢主亂軍中ニ死ス
漢二主四年ニシテ亡ブ

(八) 周ノ興亡ヲ問フ

謂リ周ノ太祖郭威ハ太原ノ人ナリ、漢ノ高祖ヲ補ケテ功多シ、此ニ至テ即位ス、養子世
宗位ヲ嗣ギ、聰明英武ニシテ且將士ヲ精選シ、趙匡胤ト共ニ四方ヲ征伐シ、國內ノ太半
ヲ平ク、恭帝宗訓立チ、在位半年ニシテ位ヲ宋ニ傳フ

(九) 北漢トハ何ソ

謂ク漢ノ高祖ノ弟、劉崇、帝ヲ晉陽ニ稱ス、其有ツ所ハ并汾忻代等十二州ノ地ナリ、之ヲ
北漢ト云フ

(一〇) 南唐トハ何ソ

謂ク吳ノ徐知詰、吳ノ禪ヲ受ケ、國ヲ唐ト號シ、尋テ姓ヲ李ト復シ、名ヲ昇ト改ム、之ヲ
南唐ト云フ

(一一) 周ノ世宗ノ事跡

謂ク世宗ハ周祖郭威ノ兄ノ子ナリ、聰明英武、兵事ニ精敏ナリ、五代驕傲ノ積弊ヲ看破シ
威決快斷自ラ兵馬ノ大權ヲ掌握シ、四方ヲ經營ス、其武將ニハ趙匡胤アリ、其謀臣ニハ

王朴アリ、遂ニ北漢、蜀、南唐、契丹ヲ破リ、威名一世ヲ動ス、其他暇アレハ儒者ヲ徵
シテ史ヲ讀マシメ大義ヲ商榷シ文武參用シテ、各々其才ヲ盡サシム、人其明ヲ畏レテ其
惠ニ懷ク、後世天下平定ノ基實ニ此ニ本ツケリ、

(一二) 王朴ノ事跡

謂ク周朝ノ當時、文武兼備智德絶倫ナルモノハ王朴ヲ以テ稱首トス、王朴天資英邁ニシ
テ經綸素ヨリ裕ナリ、世宗之ニ任スルニ國政ヲ以テス、朴帝ヲ輔ケテ内ハ文治ヲ修メ、
外ハ武略ヲ行フ、大抵與リテ力アリ、而シテ世宗ガ干戈ノ間ヲ以テ律曆禮樂及ヒ法律制
度ヲ修整シ、百姓ヲ撫鎮スルカ如キ、悉ク朴ノ籌策ヨリ出テサルハナシ、此君ニシテ臣
此アリ實ニ一ノ冠冕ト謂フヘシ

(一三) 宋太祖天下ヲ一統セシ次第ヲ問フ

謂ク宋太祖趙匡胤ハ涿郡ノ人ナリ、相傳ヘテ漢京兆平廣漢ガ裔ト爲ス、父ヲ弘殷ト云フ、
匡胤甲馬ヲ營ニ生ム、赤光室ニ滿ツ、營中異香アル一日、之ヲ香孩兒ノ營ト云フ、仁孝豁
達ニシテ大度アリ周ノ世宗ノ時用井ラレテ軍政ヲ掌ル凡六年、士卒其恩威ニ服ス、屢
征伐ニ從フテ大功ヲ立ツ世宗崩シ恭帝立ツ、命セラレテ宿衛ヲ領ス、契丹ヲ禦クノ片主少
ク國危ク、中外始メテ推戴ノ議アリ、大軍既ニ出ツ、將士胤ヲ推シテ天子ト爲ス京ニ還

リ恭帝ノ禪ヲ受ケテ帝位ニ即キ、國號ヲ宋ト稱ス、既ニシテ天下ノ兵ヲ息メ、國家長久ノ計ヲ爲ス、在位十七年、改元スルモノ三ツ、建隆、乾德、開寶ト云フ、壽五十大祖皇帝ト云フ、

(二四) 契丹ノ入寇ヲ問フ

謂ク契丹八部ノ雄阿保機ニ至テ始メテ國力ヲ振ヒ、其黨ヲ統合シ、耶律光ニ及ヒテ其勢愈盛ナリ太宗ノ時ニ當テ、契丹ノ主明記殂シ、子隆緒立ツ、年十二、母肅太后政ヲ專ニス、是時女志復契丹ニ臣ト稱シ、契丹益志ヲ得テ屢々宋ニ入寇シ、宋ノ軍ヲ挫ク、雍熙三年太宗契丹ヲ伐チ敗レ歸ル、是ヨリ連年入寇シ、宋ヲ輕蔑シ、以テ之カ利ヲ奪フ

(二五) 澶淵ノ役ヲ問フ

謂ク宋ノ眞宗景德元年、契丹主隆緒大舉シテ入寇ス、中外震駭ス、王欽若、金陵ニ幸セント請ヒ、陳堯叟成都ニ都セント請フ、帝寇準ニ問フ、準曰ク、誰カ陛下ノ爲メニ此策ヲ畫スル、罪斬ルベシト、遂ニ親征ヲ議定ス、驛ヲ韋城ニ駐メ、尋テ衛南ニ至ル、契丹兵ヲ擁シ、澶淵ニ至リ、三面ヲ合圍ス、準帝ニ力勸シテ河ヲ渡ラシム、既ニ澶淵ニ至リ北城ニ登リ、黃旗幟ヲ張ル、諸軍皆ナ万歳ト呼フ、契丹退キ使ヲ遣ハシテ周ノ世、宗ノ取ル所ノ關西ノ故地ヲ請フ、眞宗曰ク地ハ斷シテ許スヘカラス、寧ロ金帛ヲ與ヘテ以テ

和セント、遂ニ歲賂絹二十萬匹、銀十萬兩ヲ以テ和議ヲ定ム、

(二六) 趙元昊ノ侵入ヲ問フ

謂ク西夏ノ趙元昊ハ、趙德明ノ子ナリ、性雄毅ニシテ大略多シ、乃チ夏、銀、綏、宥、靈、鹽、會、勝、甘、涼、瓜、沙、肅州ノ地ヲ占領シテ、興州ニ居リ、賀蘭山ヲ阻テ固ト爲シ、遂ニ太夏帝ト僭號シ、進テ宗ノ境ニ侵入ス、西邊駭然タリ、范雍西夏ヲ經略ス、元昊ノ將ニ延州ヲ攻メントスルヲ聞キ、懼ル、一甚シ、門ヲ閉テ救ハス、我兵敗ル、范仲淹將路アリ、大ニ州兵ヲ閱シ、萬八千人ヲ得タリ、六將ヲ分チテ之ヲ領ス、日夜訓練シ敵ノ衆寡ヲ量リ、更々出テ之ヲ禦ク、其兼テ延州ニ知タルヤ、夏人相戒メテ曰ク、延州ヲ以テ意ト爲ス勿レ、小范孝子ハ(神)胸中自ラ數万ノ甲兵アリ、大范孝子(雍)ノ欺ク可キガ如クナラサルナリト、邊人之レカ爲ニ語テ曰ク、軍中有一韓西賊聞之心膽寒、軍中有一范西賊聞之驚破膽ト、蓋シ一韓ハ即チ韓琦ナリ、琦ハ時ニ諫官タリ、張士遜、相ト爲リ朝廷ニ補益ナシ、乃チ上疏シテ之ヲ彈劾ス、而シテ范仲淹ヲ登用シテ邊帥ト爲ス

(二七) 韓琦ノ事跡ヲ問フ

謂ク仁宗神宗ノ間、人才輩出シ、良宰賢相ノ名アルモノ少ナカラス、而シテ韓琦范仲淹、歐陽修、富弼ノ四人ヲ以テ當時ノ四傑ト爲ス、

韓琦字ハ穉圭、天資忠厚ニシテ能ク大事ヲ斷ス、治平ノ間首相ト爲リ、政事ハ集賢(次相曾公亮)ニ問ヒ、典故ハ東廳(參政趙概)ニ問ヒ、文學ハ西廳(參政歐陽修)ニ問ヒ、大事ニ至テハ自ラ之ヲ決斷シ、顧慮スル所ナシ、或人曰ク、公ノ所爲ハ誠ニ善シ、萬一蹉跌セハ豈唯タ一身ノ自ラ保タザルノミナランヤ、琦曰ク嗚呼是レ何ノ言ゾ、人臣ハ當ニ力ヲ盡シテ君ニ事ヒ死生之ヲ以テスヘシ、成敗ニ至テハ大ナリ豈豫メ其濟ラサルコトノ憂ヒ、遂ニ之ヲ輟メテ爲サハランヤト、其自ラ天下ノ大事ニ任シテ疑ハサルモノ此ノ如シ、

(二八) 王安石ノ政略ヲ問フ

謂ク王安石字ハ介甫、臨川ノ人ナリ、仁宗ノ時知制誥タリ、神宗即位ニ及ヒテ翰林學士ト爲リ入對ス、帝治ヲ爲スノ本ヲ問フ、安石首トシテ術ヲ擇フヲ言ヒ、言必ス堯舜ヲ稱ス、安石無政ト爲リ、政ヲ執ル、安石重石アリ、天下ノ上大夫爭フテ太平ヲ想望セザルモノナシ、呂誨時ニ御史中丞タリ、安石參政ト爲リタルト聞キ、衆ニ先チテ之ヲ彈劾シ、十事ヲ疏シテ安石ノ罪狀ヲ論ス、議論激切一時朝野ヲ聳動ス、神宗ノ朝ニ安石建議シテ創メテ三司ノ條例司ヲ制置シ、新法ヲ施行セリ、其新法ノ重大ナル者ハ、青苗ノ法、均輸ノ法、預買ノ法、保甲ノ法、募役ノ法、市易ノ法、保馬ノ法、方田均稅ノ法、戶馬ノ法是ナリ、其他大學三舍ノ法等アリ

(二九) 新法ノ反對者ヲ問フ

謂ク安石新法ヲ以テ國ヲ富マシ民ヲ安スルニ足ルヘシト信シ、斷然群議ヲ排シテ之ヲ實行セリ、然レモ其制度ヲ更革スルヤ、急激ニ失シテ本末ヲ乖謬スルモノ少カラス、茲ニ於テ安石ヲ攻ムルモノ交々至レリ、檢詳文字蘇轍、參政唐介、臺諫劉琦、錢顛、諫院、范純仁等皆新法ヲ非議スルヲ以テ其職ヲ罷メラル、又司馬光、歐陽修、富弼等ノ諸老臣皆安石ト議合ハス、或ハ移サレ或ハ致仕ス、蘇軾又新法ヲ攻撃シテ黃州ニ遷置セラレ、尋テ獄ニ下サル、

(三〇) 司馬光ノ略傳

謂ク司馬光字ハ君實、陝州夏縣涑水郷ノ人ナリ、生レテ七歲宛モ成人ノ如シ、仁宗ノ時諫院ニ知タリ、三劄五規ヲ進ム、神宗立ツニ及ビ、侍讀學士ト爲ル、數々安石ノ新法ヲ駁論シ、外ヲ請フテ出テ、西京留司臺ニ判タリ、哲宗立ツ、召シテ執政トナス、尋テ左僕射ニ拜セラレ、門下侍郎ヲ兼ヌ、中外ノ人士皆相慶セサルモノナシ、光相タルコト八月ニシテ薨ス、病革マル、諄々トシテ語ルコト夢中ノ如シ、皆國家ノ事ナリ、大皇太后之ヲ哭慟ス、帝モ亦感涕シテ已マス、太師溫國公ヲ贈リ、文正ト諡ス、光嘗テ人ニ語テ曰ク、吾人ニ過キタルコトナシ、但平生ノ所爲、未ダ嘗テ人ニ對シテ言フヘカラサルモノア

ラス」ト又人光ニ一言身ヲ終フルマテ之ヲ行フベキモノヲ問フ、光曰ク「其レ誠乎」ト又其從テ入ル所ヲ問フ、曰ク「妄語セザルヨリ入ル」ト

(三) 黨派政治ヲ問フ

謂ク神宗崩シ、太子哲宗立ツ、年甫メテ十歳、宣仁太后簾ヲ垂レテ政ヲ聽ク、太后英明ノ姿ヲ以テ弊政ヲ改良シ、君子ノ黨ヲ用ユ、然レモ其黨中派ヲ分チテ相争ヒ、洛黨、川黨、朔黨アリ、洛黨ハ程頤ヲ以テ領袖ト爲シ、光庭易之カ羽翼タリ、川黨ハ蘇軾ヲ以テ領袖トナシ、兄陶之カ羽翼タリ、朔黨ハ劉摯、玉巖叟、劉安世ヲ以テ領袖ト爲シ、羽翼尤モ多シ

(三) 女中ノ堯舜トハ何ソヤ

謂ク宣仁太后ハ神宗ノ后ナリ、政ヲ廳ク一十九年、清明天下稱シテ女中ノ堯舜ト曰フ、外家ニ和セス至公ヲ以テ御セシカハ、當世ノ賢者畢ク朝ニ集マル、君子ノ盛ナル慶曆元祐ヲ以テ並稱ス

(三) 元祐ノ獄ヲ問フ

謂ク宣仁太后ノ崩スルニ及ビ章惇等復タ事ヲ以テ熙寧ノ法ヲ復シ、元祐ノ賢人ヲ罪スルニト盧日ナク、司馬光等ヲ始メトシテ、已ニ死スルモノモ亦皆追貶シテ其贈ヲ奪フ、呂太防、劉摯、蘇轍、范純仁等ノ諸名士皆連ニ貶竄セラル、是ニ於テ安石ノ黨派又タ熾ンニシテ制ス可カラザルニ至ル、之ヲ元祐ノ獄ト云フ、

(四) 徽宗ノ失政ヲ問フ

謂ク哲宗己ニ崩シ、皇弟立チ是レヲ徽宗ト爲ス、蔡京相ト爲リ、蔡卞政ヲ執ル、京大平ヲ粉飾シ以爲ラク、今ヤ豐亨豫大ノ運ニ當レリト、専ラ奢侈驕逸ヲ以テ徽宗ニ勸メ、土木ノ功ヲ窮メ、京城ヲ廣メ、大内ヲ修メ、盛ニ内苑ヲ築キ、九鼎ヲ鑄ル、鼎成リ九州水土ヲ以テ鼎中ニ納レ、北方ノ寶鼎ヲ奉安スルニ及ヒテ、水忽チ外ニ漏ル、大晟樂ヲ作り王清神霄宮ヲ作り、道士林靈素ヲ崇置ス、又延福宮保和殿萬歲山ヲ作り、天下ノ資財ヲ竭ス、然ルニ當時内侍童貫、梁師成、事ヲ用ヒテ朝政ヲ亂シ、師成ハ専ラ應奉ヲ務メテ以テ帝ノ心ヲ盡惑シ、勢焰薰灼威福ヲ擅ニシ、童貫ハ専ラ邊ヲ開ク一ヲ務メ、事ヲ外ニ生セント欲シ、皆蔡京ノ父子ト相表裏シ、漸ク國家敗壞ノ運ニ傾ケリ

(五) 金人ノ勃興ヲ問フ

謂ク金ノ先ハ靺鞨ニ出ツ、本ト珠里真ト名ク、後訛テ女真ト爲ス、女真ノ太祖阿骨打立ツ、肅慎ノ遺種ニシテ渤海ノ別族ナリ、人ト爲リ大量大志アリ、時ニ契丹、國名ヲ遼ト改メ、其君民支那文弱ノ弊政ニ陥井リ、詩賦書畫ノ末技ニ耽リ、又大厦高樓ヲ築キ、驕

奢放逸至ラサル所ナシ、其主天祚ニ至テ最モ甚シ、阿骨打親ラ進ンデ遼ヲ討チ、連戰連勝、勝ニ乘シテ渤海遼陽五十四州ヲ并セ、又遼西ニ度テ五州ヲ降ス、阿骨打遂ニ號ヲ建テ名ヲ畏ト改メ、國ヲ大金ト號ス、帝ヲ稱シテ明年遼ノ上京ヲ陷ル、金主帝ト稱スル六年ニシテ殂シ、太祖大聖武元皇帝ト號ス、

(二六) 金兵ノ入寇ヲ問フ

謂ク宋ノ徽宗宣和七年、金ノ將幹離不、粘罕、道ヲ分テ南ニ下リ、燕山ヲ陷シ、勝ニ乘シ長驅シテ進ム、郭業師之ニ降リ、童貫大原ヨリ逃レ歸ル、粘罕大原ヲ圍ム、

(二七) 南宋ノ始メヲ問フ

謂ク欽宗ノ時、金人大舉シテ入寇ス、時ニ廷議和戰ノ二派ニ分レ、衆議決セス、帝遂ニ李邦彥等ノ說ニ從ヒ、金帛ヲ贈リ三鎮ヲ割テ和ヲ定ム、和未タ全ク成ラズシテ廷議復主戰ニ傾ムク、金人大ニ怒リ、更ニ大舉入犯シ、長驅シテ京師ニ至リ四面ヨリ之ヲ攻ム、帝其支フヘカザルヲ知り、和議ヲ定ム、金人帝及ヒ皇后皇族ヲ誑シテ北去ス、帝ノ弟康王、南京ニ於テ即位ス、之ヲ南宋ト爲ス、

(二八) 高宗應天府ニ即位ス

謂ク南宋ノ高祖、名ハ構、徽宗ノ第九子ナリ、金兵京城ヲ陷イルニ及ビ、南京應天府ニ趁帝位ニ即キ、建炎ト改元ス、尋テ江南ニ徙リ臨安ニ都ス、時ニ國內兩分シ、南部ハ宋ニ歸シ、北部ハ金ニ屬ス、

(二九) 張浚ノ事跡ヲ問フ

謂ク浚字ハ德遠、唐ノ相張九齡ノ後ナリ、南宋ノ高宗ニ仕ヘ身ヲ以テ王事ニ許シ、屢虜讎ト戰ヒテ大功アリ、紹興五年趙鼎ト共ニ左右ノ丞相トナリ、浚兼テ諸路ノ兵馬ヲ都督ス、岳飛韓世忠張浚等ヲシテ賊ヲ伐シム、秦檜相トナルニ及ビ、主トシテ北夷ト和ヲ講ス、浚等固ヨリ之ニ反ス、故ヲ以テ遠竄セラル、紹興廿五年檜死ス、檜死セントスルニ際シ、更ニ大獄ヲ起シ、說ノ已ニ異ルモノヲ殺サント欲ス、浚等其中ニアリ、幸ニ檜病テ書ク能ハス、浚等免カル、コヲ得タリ、孝宗立ツニ及ビ、用井ラレテ樞密使トナリ、テ北伐ス、後チ湯思退ト共ニ左右ノ相トナリ、浚仍都督ヲ以テ師ヲ視ル、數日ニシテ罷メ幾干ナラスシテ卒ス、浚國ニ盡スノ心終年渝ラス、常ニ和議ヲ駁論ス、遺命シテ其二子ニ付スルニ中原ヲ復シ、以テ國辱ヲ雪クコト能ハスンバ先人ノ墓ニ附葬スルコトヲ得ザルヲ以テセリ、

(三〇) 岳飛ノ事跡ヲ問フ

謂ク飛字ハ鵬舉、相州湯陰ノ人、南宋第一ノ名將ナリ、親ニ事フル極メラ孝ナリ、一朝

慷慨志ヲ立テ、外虜ヲ誅鋤シ、帝室ノ基礎ヲ定メ、中原ヲ取ラント欲ス、高宗ニ仕ヘ統制ニ任セラレ、屢國仇ト戰ヒ、向フ處破ラサルハナシ、功ヲ以テ湖北京西ノ宣撫使トナル、時ニ淮東ノ宣撫使韓世忠江東ノ南撫使張俊皆久シク已ニ功ヲ宋朝ニ立テ、勇敢ヲ以テ當時ニ鳴ル、飛列將ヲ以テ身ヲ起ス、世忠俊不平ナリ、飛已ヲ屈シテ之ニ下ル、二人皆答ヘス隙日ニ深シ、紹興十一年兀求廬州ヲ陷ル、時ニ秦檜南宋ニ相タリ、務メテ之和親スベキヲ論ス、帝ニ啓シテ師ヲ班ス、世忠俊ヲ以テ樞密使トナシ、飛ヲ以テ副使トナス、飛、世忠尋テ罷ム、兀求書ヲ以テ檜ニ與フ、曰ク爾朝夕和ヲ以テ請フ、而ルニ岳飛方ニ河北ノ圖ヲナス、必ラス飛ヲ殺サハ可ナラント、俊又飛ノ罪ヲ構成ス、檜奏シテ飛及飛ノ子雲等ヲ殺ス、飛時ニ年三十九、士卒ヲ御スル嚴酷ニシテ思アリ、凡ソ願牒アレバ均シク軍吏ニ給シ、秋毫モ私セス、善ク少ヲ以テ衆ヲ擊チ、爲ス所アラント欲スレハ之ヲ諸統制ニ詢リ、謀定ツテ後チ戰フ、故ニ勝有ツテ敗ナシ、猝ニ敵ニ遇フテ動カス、故ニ敵之カ爲メニ語ヲ爲シテ曰ク、「山ヲ撼スハ易シ、岳家ノ軍ヲ撼スハ難シト、或飛ニ問フテ曰ク、天下何ノ時カ治マラン、飛曰ク、文臣錢ヲ愛セス、武臣死ヲ惜マス、天下太平ナラン、飛常ニ讎敵ヲ滅スヲ念トシ、固ク執リテ秦檜ノ論ヲ反駁ス、故ヲ以テ其忌ム所トナリテ死ス、後忠武王ト諡セラル、

(三) 秦檜ノ講和政略ヲ問フ

謂ク靖康ノ末、秦檜中司ニ任シ、抗議趙氏ヲ存センヲ請テ執ヘ去ラル、天下之ヲ高トス歸テ相ト爲ル、是ヨリ先キ、宋毎歲使ヲ金ニ遣ハシ、尊號ヲ去リ、其正朔ヲ奉シ、藩臣ニ比センヲ願ハサルナシ、然レモ金人之ニ從ハス、宋使ノ至ルモノ多ク拘囚セラル、其後屢々南方ノ恢復ヲ謀リ、皆制アラズ、是ニ於テ秦檜ヲ遣ハシ間ヲ爲サシム、劉豫ノ廢セラレ、ニ及ビテ和議乃チ定マル、金使來ル、編脩官胡銓、已ヲ屈シ和ヲ求ムルヲ以テ國辱ト爲シ上疏ス、其文剴切痛到、檜之ヲ憎ミ連リニ貶竄ス、紹興十年、金兵四道ニ分テ南侵ス劉錡之ヲ順昌府ニ敗ル、固檜ヨリ和議ヲ以テ得策ト爲シタリケレハ、忽チ帝ニ啓シテ、劉錡ヲ召還セシム、岳飛亦金人ヲ圍城ニ敗リ、幾ント敵將兀求ヲ擒ニセントス、而シテ檜又帝ニ啓シ飛ヲ召還セシム、檜、後ニ金人ニ媚ビテ岳飛ヲ殺シ、和議遂ニ諧フ檜和議ヲ贊成シ、自ラ以テ功ト爲シ、已ヲ議センヲ恐レ、遂ニ文字ノ獄ヲ起シ、以テ善類ヲ傾陷ス、胡銓、羅汝楫、李光、趙鼎、張浚等ノ諸名臣皆ナ遠竄セラル、尙一時ノ名士連及スル所五十三人、檜死スルニ及ヒ、始メテ免ル、コトヲ得タリ、以上檜ノ講和ナルモノハ、已ヲ屈シ膝ヲ折り、其ノ甚シキハ忠臣義士ヲ殺シテ、彼ノ歡心ヲ買フニ過キズ、而シテ南方十八年ノ小康ヲ得タルハ其講和ノ力ニ依リシナラン乎

(三二) 北方ノ小堯舜トハ何ソ

謂ク金主亮弒セラレタルヲ以テ萬王褒ヲ迎立ス、褒後チ雍ト改ム、是ヲ世宗ト爲ス、世宗聰明仁恕、武以テ亂ニ克チ、文以テ民ヲ撫シ、至公無我、即位ノ初、南北和ヲ講シ、民ト共ニ休息シ、上下相安ンジ、人毎ニ足リ家毎ニ給リ、倉庫餘アリ、刑部死罪ヲ斷スルヲ僅ニ十七人、國人號シテ北方ノ小堯舜ト云フ、

(三三) 宋蒙古ト約シテ金ヲ伐ツコトヲ問フ

謂ク南宋理宗ノ時、蒙古主王檝ヲシテ來リ夾ミ、攻メテ金ヲ伐タンコトヲ議セシム、帝之ヲ許ス、乃チ鄒仲之ヲ遣ハシ、報酬セシム、六年史嵩之京湖ノ制師トナリ、襄陽ニ在リ、南北蔡州ヲ攻ムルノ約アリ、嵩之孟珙ヲ遣リ、兵四萬人ヲ以テ先ツ至リ、其東南ヲ圍ム、蒙古ノ兵其西北ヲ攻ム、孟珙蔡州ニ入ル、蒙古ノ帥之ニ從フ、金主自頸シテ死ス、金帝ト稱セシヨリ九世一百二十年ニシテ滅フ、

(三四) 宋ノ滅亡ヲ問フ

謂ク蒙古宋ト約シテ金ヲ亡ボス、後理宗中原ヲ復セント欲シテ、兵ヲ進ム、蒙古使ヲ遣ハシ其盟ニ背クコトヲ責メ、遂ニ入寇ス、理宗、賈似道ニ命シテ兵ヲ督シテ禦カシム、似道使ヲ蒙古ニ遣ハシ、臣ト稱シ幣ヲ納ル、コトヲ請フ、蒙古乃チ兵ヲ退ク是ニ於テ似道諸

路ノ戰勝テ、蒙古ノ兵ヲ退クト奏ス、度宗立テ猶似道ヲ信任ス、蒙古連年入寇シ、宋師ヲ喪ヒ地ヲ失フコト殆ト虚トナシ、度宗崩シ、似道恭宗ヲ立ツ、時ニ元兵日ニ逼ル、似道兵潰ヘ、逃レテ揚州ニ入ル、元將伯顔兵ヲ率テ臨安ニ至リ、恭宗ヲ執ヘテ北ニ歸ル、端宗福州ニ即位ス、此時文天祥張世傑等所々ニ勤王ノ兵ヲ起シ、元兵ト戰ヒ、互ニ勝敗アリ、後又帝昀ヲ立テ尙回復ヲ謀リシガ、元兵ノ勢禦キ難ク、文天祥戰破レ虜トナリ、後屈セズシテ死ス、帝崖山ニ徙リ、大ニ元兵ト海上ニ戰ヒ、陸秀夫遂ニ帝ト共ニ海ニ没シ、張世傑等尋テ死シテ、南宋亡ブ、宋ノ世ハ南宋ト前後併セテ十八代三百二十年ナリ

(三五) 蘇東坡ノ事跡ヲ問フ

謂ク蘇軾字ハ子瞻、東坡ハ其號、蘇老泉ノ長子ナリ、東坡十歳ノ時、老泉四方ニ官學シ母之ニ授クルニ書ヲ以テス、東坡古今ノ成敗ヲ聞テ輒チ能ク其要ヲ語ル、嘉祐二年、歐陽永叔東坡ノ刑賞論ヲ見テ驚喜シ、以爲ラク、異人ナリト、以テ多士ニ冠タラシム、後英宗東坡ニ知制誥ヲ授ケントス、相國韓琦曰ク、東坡ノ才遠大ノ器ナリ、他日當ニ天下ノ用ヲ爲スヘシ、要スルニ朝廷之ヲ培養シ、天下ノ士ヲシテ欽羨畏伏シテ、皆朝廷之ヲ進用センコトヲ欲セザルナカラシムニ在リ、然シテ後取テ之ヲ用ユルハ人々異儀ナカラン、今

驟ニ之ヲ用ユルハ、士未タ必ズシモ以テ然リト爲サス、適々以テ之ヲ累ハスニ足レリト、乃チ直史館ヲ授ク、時ニ王介甫事ヲ用ヒ改革スル所多シ、東坡介甫ト議論素ヨリ異ナレリ、故ヲ以テ其間恨ヲ懷キ、東坡遂ニ杭州ノ通判ト爲リ徙サレテ湖州ニ知タリ、東坡幅巾芒屨田父野老ト豁谷ノ間ニ逍遙シ、室ヲ東坡ニ築ク東坡ノ號此時ヨリ始マル、

(三六) 陸放翁ノ事跡ヲ問フ

謂ク陸游字ハ務觀、放翁ト號ス、越州山陰ノ人ナリ、年十二、詩文ヲ善クス、蔭ヲ以テ登仕郎鎖廳ニ補セラレ、第一ニ薦ム、後福州ニ赴キ、寧德薄薦者ヲ以テ敕令所刪定官ニ除ス、孝宗位ニ即キ、樞密院編修官ニ遷リ、編類聖政所檢討ヲ兼ヌ、范成大蜀ニ師タリ放翁參議官ト爲リ、文學ヲ以テ交ル、禮法ニ拘泥セス、人其類放ヲ譏ル、因テ自ラ號シテ放翁ト云フ後チ、江西常平提舉ニ累遷ス、紹興元年禮部郎中ニ遷リ、寔錄院檢討官ヲ兼ヌ嘉泰二年孝宗光宗兩朝寔錄及三朝史未タ就ラサルヲ以テ、放翁ニ詔シテ權ニ同ジク國史ヲ修メ、寔錄院同ク修撰ス、朝請ヲ奉スルヲ免ス、尋テ秘書監ヲ兼テ、三年書成リ、遂ニ寶章閣待制仕ニ升ル、放翁才氣絕倫最モ詩ニ長ス、知定二年ヲ以テ卒ス、年八十五、

(三七) 宋朝文學ノ發達如何

謂ク文學ノ發達ハ五代ノ暗世ニ中絶シタリシカ、趙宋ニ至テ文運再ヒ勃興シ、文章經術共ニ隆盛ヲ極ム、蓋シ文章ノ衰運挽回ニ最モ其力アル者ハ歐陽修ニシテ、蘇洵蘇軾共ニ文章ヲ以テ鳴ル、司馬光學問該博最モ史才ニ富ミ、資治通鑑ノ編述アリ、經學家ニハ明道程伊川等アリ晦菴亦博學最モ力ヲ理氣ノ發明ニ致ス學者共ニ之ヲ宗トス、又詩ニ於テハ李太白、歐陽修、蘇東坡、文々山、謝疊山、劉因等ノ名家アリ、

(三八) 元ノ勃興ヲ問フ

謂ク元ノ世祖^{チアオガシ}奇握温忽必烈ハ韃靼蒙古部ノ人ナリ、宋ノ寧宗ノ時其先鐵木真ニ至リ國勢強大トナリ遂ニ帝ト稱シ、國ヲ元ト號シ、是ヲ太祖トス、深沈大度アリ、亞細亞内地ノ大略ヲ定メ、終ニ夏ヲ滅シ、金ヲ破リ死ス、子太宗寬弘仁恕ナリ、遂ニ金ヲ滅シ那律楚材用ヒ制度ヲ定メ、文學ヲ興シ、時ヲ治平ト稱ス、其子定宗ヨリ太祖ノ孫憲宗之ニ嗣ク剛明雄毅大ニ疆域ヲ擴ム、世祖ハ其弟ナリ、性仁明豪邁ニシテ伯顔、史天澤、許衡等ヲ用ヒ終ニ宋ヲ滅シテ全國ヲ一統シ、燕京ニ都セリ

(三九) 成吉思汗ノ人ト爲リ及其雄略ヲ問フ

謂ク姓ハ奇握温名ハ鐵木真蒙古人ナリ、父ヲ也速該^{チンガシ}ト云ヒ、母ヲ月倫^{グハク}ト云フ、鐵木真人ト爲リ英邁ニシテ大略アリ、年十二父ニ別レカラクハールヲ師トシテ兵法ヲ學ブ、長スル及ビ群雄ト爭ヒテ韃靼ノ諸國ヲ統一シ、中央亞細亞ヲ震撼シテ威武ヲ輝カシ、波斯印度ノ

諸國ヲ蠶食シ、疆土ヲ擴メ遂ニ進テ南方魯國ヲ蹂躪シ、又金宋征ヲ略スルノ計ヲ講シ、其版圖ハ亞細亞大陸ノ七分ヲ占メ、歐羅巴東南部ニ跨ルニ至ル、

(四〇) 耶律楚材ノ小傳ヲ記セ

謂ノ楚材字ハ晋卿、遼東丹王突欲ノ八世ノ孫ニシテ、金ノ尙書右丞履ノ子ナリ、元ノ太祖天下ヲ經略アルノ志アリ、嘗テ遼ノ宗室ヲ訪ヒ、楚材ヲ得テ命シテ左右ニ處キ以テ參謀タラシム、楚材博ク群書ヲ究メ、天文地理律曆術數釋老醫卜悉ク之ヲ知ラサルハナシ、太祖大ニ用ヒ、親眷益々厚ク、太宗立チ亦楚材ニ親任ス、楚材身ヲ以テ天下ノ大事ニ當ル毎ニ國家ノ利害生民ノ休戚ヲ陳ヘ、辭色懇切ナリ、元ノ法律制度ノ改革ハ皆是楚材ノ籌畫スル所ニナル、

(四一) 元世祖日本ヲ擊ツノ事ヲ問フ

謂ク世祖忽必烈已ニ宋ヲ滅シ支那ヲ混一ニシテ全國皆蒙古帝國ノ統轄ニ歸セリ、之ヨリ世祖遠略ヲ事トシテ益々外ニ兵ヲ發ス、初帝屢使ヲ遣ハシ、往テ日本ニ通セシム、日本納レヌ且ツ使者杜世忠等ヲ殺ス、是ニ於テ、范文虎ヲ遣ハシ、士卒十萬ヲ帥ヒテ之ヲ擊ツ、颶風大ニ起ルニ會ス、范文虎等大ニ敗レ生キテ本國ニ歸ル者僅カニ三人ノミ、

(四二) 史天澤ノ事跡

謂ク天澤、真定ノ人ナリ、身長八尺音吐鐘ノ如シ、勇力ニシテ善ク兄天倪真定ノ師トナツテ死ス、天澤其職ヲ襲ク、元ノ太宗天澤ヲ以テ汴梁歸德蔡州ヲ攻メシム、天澤偉功アリ、世祖位ニ即キ、召シテ治ヲ問フ、三年中書右丞相トナリ、言フ處皆次第ニ之ヲ行ハル、至元十一年伯顔ト共ニ大軍ヲ領シテ宋ヲ侵ス、天澤遑ニ至リ、疾ヲ以テ襄陽ニ還ル、帝尙鑒ニ勅シテ之ヲ視セシム、天澤附奏シテ曰ク、臣大限終アリ死惜ムニ足ラス、願クハ大兵江ヲ渡ラハ慎ンテ殺掠スル勿レト、語他ニ及ハス、十二年二月ヲ以テ卒ス、年七十四、忠武ト諡ス、後チ大師ヲ贈ラレ、鎮陽王ニ封セラル、天澤曾テ李檀ヲ伐ツ、檀ハ本元ノ臣、叛シテ濟南ニ據ル、天澤之ヲ征シテ檀ヲ擒ニシテ之ヲ斬ル、或ハ謂ク檀ノ變諸侯ノ權重キニ據ルト、天澤遂ニ奏請ス、曰ク臣ノ家ヨリ始メン、是ニ於テ史ノ子弟兵符ヲ解クモノ十七人ト、以テ其忠誠ヲ知ルヘシ、人天澤ヲ以テ郭子儀ニ比スト云フ

(四三) 元ノ滅亡ヲ問フ

謂ク元世祖以來數世賢君相繼キ國內無事ニ歸シ、且儒學ヲ崇ヒ、又佛法ヲ信ス、後數世ヲ經テ國勢尙治マリ、多クノ學者ヲ出セシガ、遂ニ順宗ニ至テ權臣威ヲ振ヒ、國政漸ク衰ヘ、盜賊爭起リ、帝モ亦晩年ニ至リ唯游宴ニ耽リ、政ヲ奸臣ニ委ス、是ニ於テ張士誠、陳友諒等兵ヲ起シ、一方ニ割據シ、國內又大亂ス、次デ朱元璋ナルモノ淮右ニ起リ、諸

州皆之ニ歸服シ、終ニ燕京ヲ陷イレ、順宗皇妃ト兵ヲ避ケ漠北ニ奔後死セリ、太祖即位ヨリ百六十二年ニシテ世祖宋ヲ滅シ、之ヲ傳フルコト世八十九年ニシテ死ス、

(四) 元朝文學ノ發達ヲ問フ

謂ク元朝ハ明君賢相等シテ文學ヲ獎勵セシユヘ、文學大ニ發達セリ、許魯齋ノ如キハ元朝第一ノ僧者ニテシ性理ノ學ヲ以テ著ハル、金履祥宋儒ノ學ヲ宗トシ、通鑑前編ヲ作レリ、吳澄翰林學士トナリ、經學文章ヲ以テ著ハル、其他范梈許謙吳棻楊奚斯虞集等各文章經學ヲ以テ名アリ、其最モ詩ニ巧ナルハ楊載ヲ以テ第一トス、又小説ノ大家ニハ施耐庵アリ、水滸傳七十一卷ヲ作ル、

(五) 元朝ニ於ケル宗教ノ形狀如何

謂ク元當時最モ盛大ナルハ佛教ナリ、蓋シ蒙古ノ始祖ハ印度ヨリ出ツルト云フ、故ニ佛教ヲ以テ一定ノ國是トシ、人民皆ナ之ヲ信仰スルコト狂スルカ如シ、國教ハ唐代ヨリ已ニ支那ニ入りタレド、其勢力微弱ナリ、然ルニ初メ成吉思汗ノ兵ヲ率ヒテ支那ニ入ルヤ其都下ニハ國教ヲ奉スル土耳其甚タ多ク、忽必烈ニ至リ、回々司天臺ノ官屬ヲ設ケタリ、故ニ回教又タ當時ニ行ハレシト雖モ、未タ佛教及ヒ儒教ノ如キ勢力ナシ、又此外ニシニイス派ノ耶蘇教徒支那ニ入りシ者少ナカラス

(四六) 明ノ勃興ヲ問フ

謂ク明ノ太祖朱元璋ハ濠洲ノ人ナリ、天性神武明達ニシテ初メ郭子興ナル者ニ從ヒ兵ヲ起シ、後其衆ヲ領シ徐達、常遇春、李善長、劉基等ヲ用ヒ、屢々元ノ兵ヲ破リ、張士誠陳友諒等ヲ滅ホシ、遂ニ帝位ニ即キ、金陵ニ都シ洪武ト改元ス、後徐達、常遇春等ヲ遣リ、大舉シテ遂ニ燕京ヲ陷シ入レ、之ヲ滅シ全國ヲ征平ス、茲ニ於テ制度禮樂大ニ具備ス

(四七) 燕王棣兵ヲ舉ケテ反ス

謂ク太祖ノ第四子棣燕王ニ封セテ、武勇ニシテ富強ノ地ニ據リケルヲ以テ其勢威京師ニ抗スルニ足ル、是ニ於テ遂ニ兵ヲ舉ケ、齊秦黃子澄ヲ誅シ、君側ヲ清ムルヲ以テ名トシ、張玉、朱能等ヲシテ師ヲ出シ、尋テ薊州ヲ陷リ、居庸關ヲ奪フ、通州遵化、永平、雲密等ノ諸守將皆城ヲ以テ之ニ降ル、

(四八) 燕王棣ノ篡奪ヲ記セ

謂ク燕王棣反ス、帝(建文)詔シテ燕王ノ屬籍ヲ削リ、之ヲ討セシム、官軍屢々敗ラレシガ遂ニ盛庸棣ヲ夾河ニ敗リ其將潭淵ヲ斬ル、辛巳三年燕王大舉シテ南犯ス、壬申四月東河ヲ陷シ尋テ沛縣ニ克チ、勢ニ乘シテ泗州肝胎ヲ下シ、遂ニ揚州ヲ陷リ、京師ニ至ル、